

白岡市第3期地域福祉計画に係るアンケート
調査報告書

令和7年3月

白 岡 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 調査内容	2
4 回収結果	3
5 集計と表記	3
II 市民アンケート調査結果	5
1 回答者の属性や生活状況等について	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 地区	6
(4) 居住年数	6
(5) 世帯状況	7
(6) 家族の状況	8
(7) よく利用する公共施設	9
2 地域とのつながりについて	10
(1) 近所でのあいさつ	10
(2) 近所付き合い	12
(3) 「地域」の範囲	14
(4) 地域行事等への参加状況	15
(5) 身近な地域での問題点	20
(6) 近所で手助けしてもらいたいこと	24
(7) 自分が手助けできること	25
(8) リラックスできる場	27
3 ボランティア活動について	29
(1) ボランティア活動等の参加状況	29
(2) 必要だと思うボランティア活動	30
(3) 自分ができるボランティア活動	32
(4) ボランティア活動を活発化するために必要な取組	35
4 福祉に関する相談やサービスについて	37
(1) 民生委員・児童委員の周知状況	37
(2) 社会福祉協議会の周知状況	40
(3) 『福祉の総合相談窓口』の周知状況	42
(4) 『成年後見制度』の周知状況	42
(5) 『保護司』の周知状況	43
(6) 『協力雇用主』の周知状況	43
(7) 『社会を明るくする運動』の周知状況	44
(8) 『福祉の店』の周知状況	44
(9) 市や社会福祉協議会の事業の周知状況	45
(10) 福祉に関する情報源	49
(11) 困ったときの相談先	51
5 地域福祉に対する考え方について	53
(1) 『地域福祉』の認知度	53
(2) 『地域福祉』推進の必要性	55
(3) 『地域福祉』に対する考え方	56
(4) 地域での支え合いの評価	58
(5) 障がいがある人に対する差別や偏見	62
(6) 白岡市の住みよさ意識	63
(7) 地域福祉を推進していくために重要なこと	65

Ⅲ 民生委員・児童委員アンケート調査結果	69
1 回答者の属性等について	69
(1) 地区（小学校区）	69
(2) 経験年数	69
2 活動について	70
(1) 地域で問題と感ずること	70
(2) 気がかりな人の有無	72
(3) 住民同士で手助けがあるといいもの	74
(4) 活動を行う上での課題	75
(5) 連携を強化したいところ	76
(6) 利用している情報サービス	77
3 白岡市における地域福祉に対する考え方について	78
(1) 地域での支え合いの評価	78
(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと	79
Ⅳ ボランティア団体アンケート調査結果	81
1 ボランティア団体の概要	81
(1) 名称、活動内容、活動対象	81
2 活動状況や今後の展開	82
(1) 活動上の課題	82
(2) 活動内容を広げたい点など	83
3 白岡市における地域福祉に対する考え方について	84
(1) ボランティア活動を活発化するために必要な取組	84
(2) 地域での支え合いの評価	85
(3) 地域福祉を推進していくために重要なこと	86
Ⅴ 社会福祉法人アンケート調査結果	87
1 法人の事業概要	87
(1) 法人名等・事業概要	87
2 運営状況や今後の展開	88
(1) 地域連携の取組状況	88
(2) 連携を強化したい機関・団体	89
(3) 地域における公益的な取組　－ ①現在 ②今後	90
3 白岡市における地域福祉に対する考え方について	92
(1) 地域での支え合いの評価	92
(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと	93
Ⅵ 調査結果のまとめ	95
資料	113
自由意見	113
調査票	129

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

地域で支え合いながら安心して暮らすことができるよう、地域福祉の取り組みを総合的に推進するための『白岡市第3期地域福祉計画』の策定にあたり、市民の生活実態や地域福祉への意識などを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

2 調査方法

①市民アンケート

項 目	内 容
調査対象	白岡市在住の満18歳以上の市民
配 布 数	2,000人（無作為抽出）
調査方法	郵送配布、郵送回収及びインターネットによる回答
調査期間	令和6年12月～令和7年1月（お礼状を兼ねた督促はがきの配布1回）

②民生委員・児童委員アンケート

項 目	内 容
調査対象	民生委員・児童委員全員
配 布 数	106人
調査方法	定例会での配布・回収、郵送配布・郵送回収及びインターネットによる回答
調査期間	令和6年12月～令和7年1月

③ボランティア団体アンケート

項 目	内 容
調査対象	白岡市社会福祉協議会ボランティア連絡会に登録するボランティア団体等
配 布 数	19団体
調査方法	郵送配布、郵送回収及びインターネットによる回答
調査期間	令和6年12月～令和7年1月

④社会福祉法人アンケート

項 目	内 容
調査対象	社会福祉法人が運営する市内事業所
配 布 数	15事業所
調査方法	郵送配布、郵送回収及びインターネットによる回答
調査期間	令和6年12月～令和7年1月

3 調査内容

①市民アンケート

項目	設問内容
属性や生活状況等	性別、年齢、地区、居住年数、世帯状況、家族の状況、よく利用する公共施設
地域とのつながり	近所でのあいさつ、近所付き合い、「地域」の範囲、地域行事等への参加状況、身近な地域での問題点、近所で手助けしてもらいたいこと、手助けできること、リラックスできる場
ボランティア活動	ボランティア活動等の参加状況、必要だと思うボランティア活動、自分ができるボランティア活動、ボランティア活動を活発化するために必要な取組
福祉に関する相談やサービス	民生委員・児童委員の周知状況、社会福祉協議会の周知状況、『福祉の総合相談窓口』の周知状況、『成年後見制度』の周知状況、『保護司』の周知状況、『協力雇用主』の周知状況、『社会を明るくする運動』の周知状況、『福祉の店』の周知状況、市や社会福祉協議会の事業の周知状況、福祉に関する情報源、困ったときの相談先
地域福祉に対する考え方	『地域福祉』の認知度、『地域福祉』推進の必要性、『地域福祉』に対する考え方、地域での支え合いの評価、障がいがある人に対する差別や偏見、白岡市の住みよさ意識、地域福祉を推進していくために重要なこと

②民生委員・児童委員アンケート

項目	設問内容
属性等	地区（小学校区）、経験年数
活動	地域で問題と感ずること、気がかりな人の有無、住民同士で手助けがあるといいもの、活動を行う上での課題、連携を強化したいところ、利用している情報サービス
地域福祉に対する考え方	地域での支え合いの評価、地域福祉を推進していくために重要なこと

③ボランティア団体アンケート

項目	設問内容
団体の概要	名称、活動内容、活動対象
活動状況や今後の展開	活動上の課題、活動内容を広げたい点など
地域福祉に対する考え方	ボランティア活動を活発化するために必要な取組、地域での支え合いの評価、地域福祉を推進していくために重要なこと

④社会福祉法人アンケート

項目	設問内容
事業の概要	法人名等、事業概要
運営状況や今後の展開	地域連携の取組状況、連携を強化したい機関・団体、地域における公益的な取組（現在と今後）
地域福祉に対する考え方	地域での支え合いの評価、地域福祉を推進していくために重要なこと

4 回収結果

項 目	調査数	有効回収数			回収率
①市民アンケート	2,000	960	郵送	661	48.0%
			インター ネット	299	
②民生委員・児童委員 アンケート	106	98	郵送	93	92.5%
			インター ネット	5	
③ボランティア団体 アンケート	19	18	郵送	12	94.7%
			インター ネット	6	
④社会福祉法人アンケート	15	12	郵送	4	80.0%
			インター ネット	8	

5 集計と表記

①回答率について

回答は、質問ごとに各項目の回答者数を回答者総数で除し、百分率（パーセント）で表示しました。算出された回答率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、質問によっては、1人の回答者が1つだけ回答する場合（単数回答）でも、回答率の合計が100%にならないものもあります。

また、1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい場合（複数回答）では、回答率の合計は100%を上回ることもあります。

②表、グラフ、本文中の表記について

表、グラフ中では、回答率（%）とともに、その設問に回答すべき数（回答者総数）も表示しています。ただし、スペースの都合により省略している場合もあります。

また、表、グラフ、本文中において、回答選択肢の表記は、スペースの都合により簡略化している場合があります。



時系列比較について

本報告書では、平成26年度、令和元年度の調査結果と比較しているところがあります。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者の属性や生活状況等について

(1) 性別

問1 性別は。[1つに○]

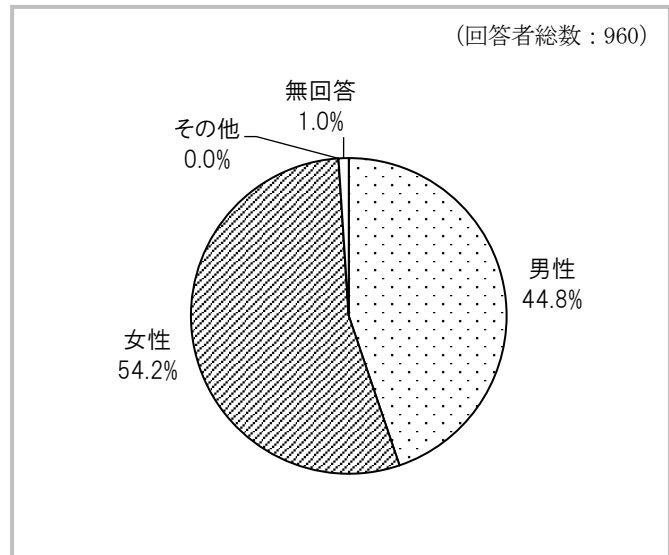
「男性」が44.8%、「女性」が54.2%

回答者の性別の構成比をみると、「男性」が44.8%、「女性」が54.2%となっています。

表 性別 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
男性	430（44.8）
女性	520（54.2）
その他	0（0.0）
無回答	10（1.0）

図 性別



(2) 年齢

問2 年齢は。[1つに○]

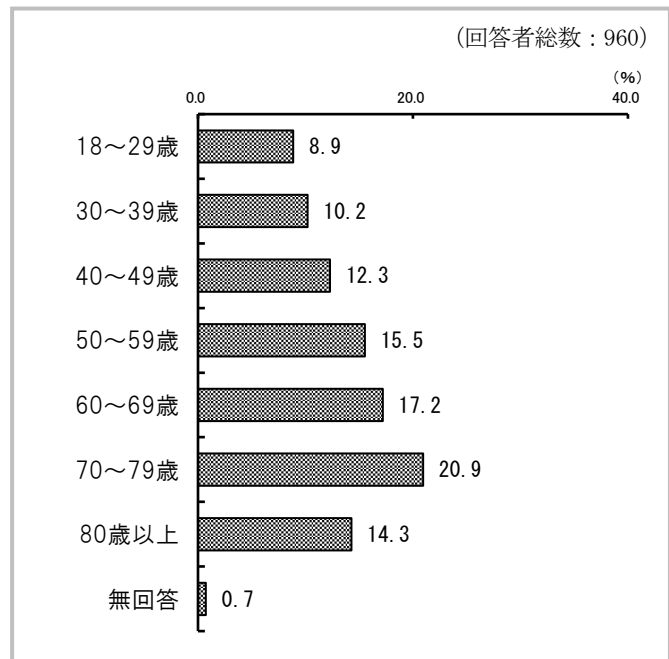
「70～79歳」が20.9%で最も多い

年齢をみると、「70～79歳」が20.9%で最も多く、次に「60～69歳」が17.2%となっています。

表 年齢 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
18～29歳	85（8.9）
30～39歳	98（10.2）
40～49歳	118（12.3）
50～59歳	149（15.5）
60～69歳	165（17.2）
70～79歳	201（20.9）
80歳以上	137（14.3）
無回答	7（0.7）

図 年齢



(3) 地区

問3 お住まいの地区はどちらですか。[1つに○]

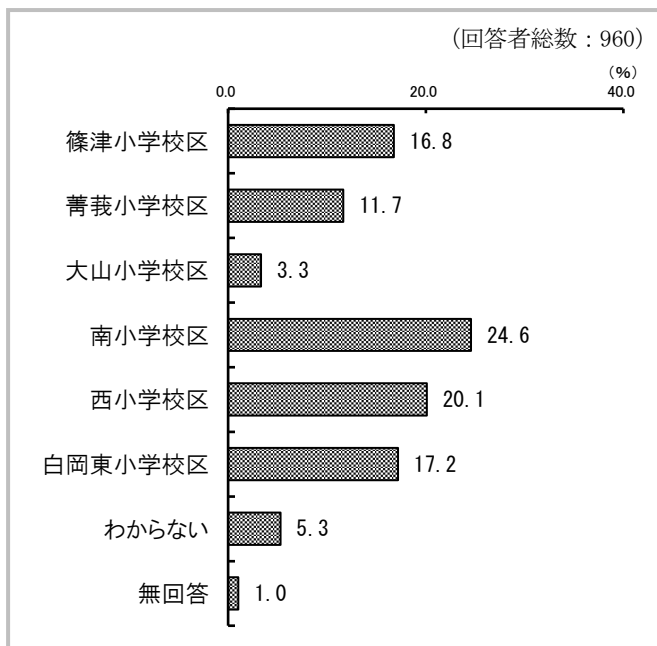
「南小学校区」が24.6%

住んでいる地区をみると、「南小学校区」が24.6%で最も多く、次に「西小学校区」が20.1%となっています。

表 地区 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
篠津小学校区	161（16.8）
菁莪小学校区	112（11.7）
大山小学校区	32（3.3）
南小学校区	236（24.6）
西小学校区	193（20.1）
白岡東小学校区	165（17.2）
わからない	51（5.3）
無回答	10（1.0）

図 地区



(4) 居住年数

問4 白岡市に住んでどれくらいになりますか。[1つに○]

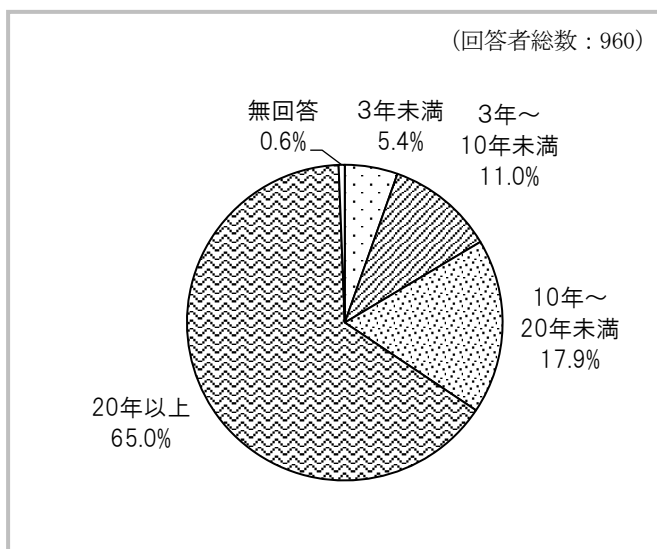
「20年以上」が65.0%

居住年数をみると、「20年以上」が65.0%で最も多くなっています。「10年～20年未満」は17.9%、「3年～10年未満」11.0%、「3年未満」は5.4%となっています。

表 居住年数 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
3年未満	52（5.4）
3年～10年未満	106（11.0）
10年～20年未満	172（17.9）
20年以上	624（65.0）
無回答	6（0.6）

図 居住年数



(5) 世帯状況

問5 世帯の状況は。[1つに○]

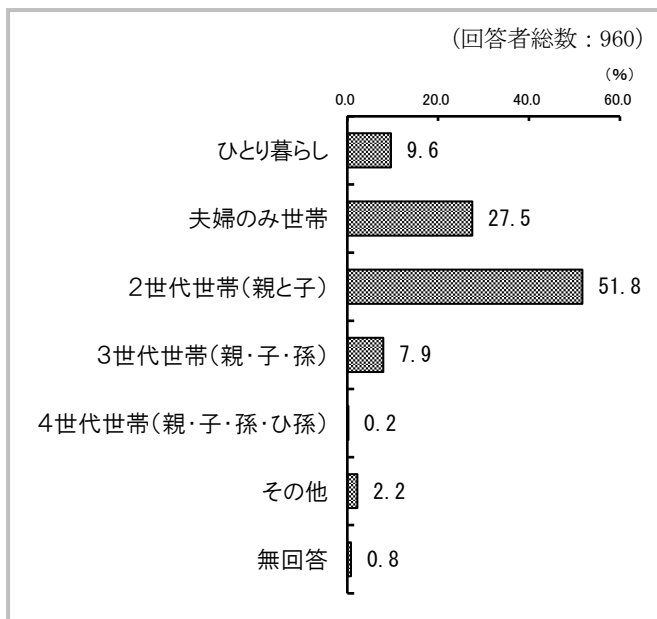
「2世代世帯（親と子）」が51.8%

世帯状況をみると、「2世代世帯（親と子）」が51.8%で最も多く、続いて「夫婦のみ世帯」が27.5%、「ひとり暮らし」が9.6%となっています。

表 世帯状況 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
ひとり暮らし	92（9.6）
夫婦のみ世帯	264（27.5）
2世代世帯（親と子）	497（51.8）
3世代世帯（親・子・孫）	76（7.9）
4世代世帯（親・子・孫・ひ孫）	2（0.2）
その他	21（2.2）
無回答	8（0.8）

図 世帯状況



【年齢別】

年齢別にみると、18～29歳、30～39歳、40～49歳では「2世代世帯（親と子）」が7～8割で多くなっています。「ひとり暮らし」は、60～69歳で11.5%、70～79歳で13.9%、80歳以上で16.8%と、年代が上がるのにしたがって多くなっています。

また、「夫婦のみ世帯」は、60～69歳で44.2%、70～79歳で47.3%、80歳以上で35.0%となっています。

■ 年齢別

単位：%

	ひとり暮らし	夫婦のみ世帯	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親・子・孫)	4世代世帯 (親・子・孫・ひ孫)	その他	無回答
18～29歳 (85人)	5.9	3.5	71.8	17.6	0.0	1.2	0.0
30～39歳 (98人)	1.0	7.1	83.7	6.1	0.0	1.0	1.0
40～49歳 (118人)	5.1	6.8	78.8	7.6	0.8	0.8	0.0
50～59歳 (149人)	6.7	20.1	63.1	8.1	0.0	1.3	0.7
60～69歳 (165人)	11.5	44.2	37.6	3.6	0.0	3.0	0.0
70～79歳 (201人)	13.9	47.3	30.3	5.5	0.0	2.0	1.0
80歳以上 (137人)	16.8	35.0	30.7	12.4	0.7	4.4	0.0

(6) 家族の状況

問6 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような人（あなた自身も含みます）はいますか。[あてはまるものすべてに○]

「障がいのある人」がいる世帯が 9.4%

家族の中に何らかの支援が必要な人がいる世帯は、「障がいのある人」がいる世帯が 9.4%、「介護を必要とする人」が 8.8%、「幼児（1歳から就学前）」が 8.3%となっています。

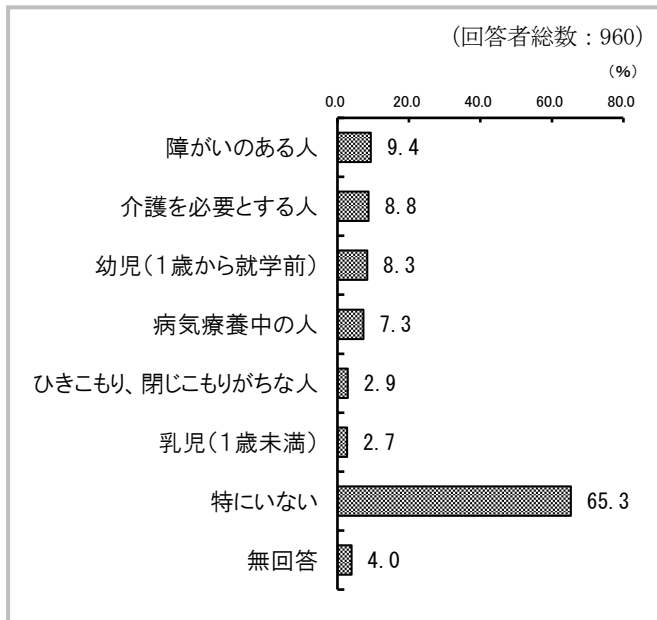
また、「ひきこもり、閉じこもりがちな人」は 2.9%となっています。

「特にいない」は65.3%となっています。

表 家族の状況 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
障がいのある人	90（9.4）
介護を必要とする人	84（8.8）
幼児（1歳から就学前）	80（8.3）
病気療養中の人	70（7.3）
ひきこもり、閉じこもりがちな人	28（2.9）
乳児（1歳未満）	26（2.7）
特にいない	627（65.3）
無回答	38（4.0）

図 家族の状況



※1 ひきこもり：仕事や学校、家庭外での交遊などの社会的参加を避け、半年以上家庭内にとどまっていること。

※2 閉じこもり：外出が週1回より少ない状態であること。

(7) よく利用する公共施設

問7 市内でよく利用する公共施設はどちらですか。[あてはまるものすべてに○]

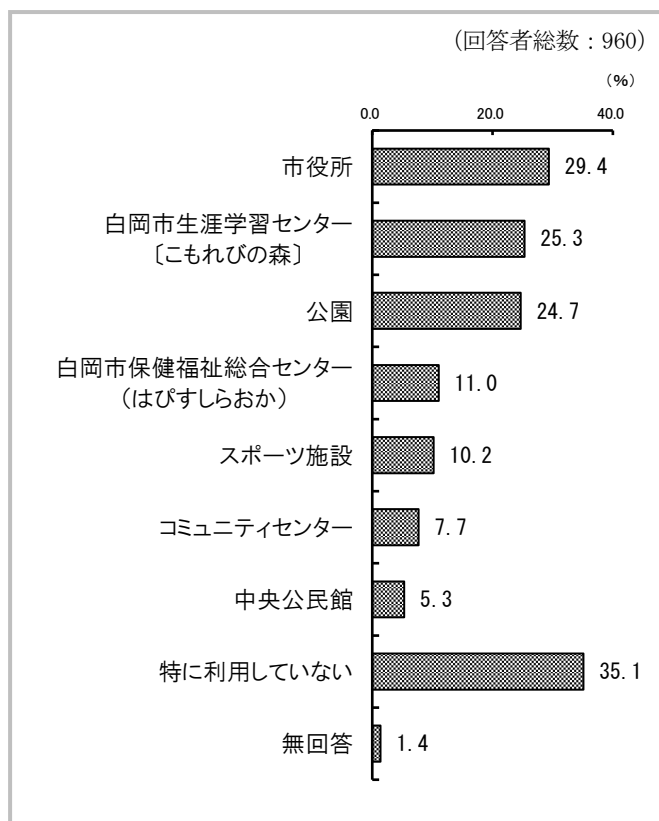
「市役所」が29.4%

よく利用する公共施設については、「市役所」が29.4%で最も多く、続いて「白岡市生涯学習センター〔こもれびの森〕」が25.3%、「公園」が24.7%となっています。

表 よく利用する公共施設 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
市役所	282 (29.4)
白岡市生涯学習センター 〔こもれびの森〕	243 (25.3)
公園	237 (24.7)
白岡市保健福祉総合センター (はびすしらおか)	106 (11.0)
スポーツ施設	98 (10.2)
コミュニティセンター	74 (7.7)
中央公民館	51 (5.3)
特に利用していない	337 (35.1)
無回答	13 (1.4)

図 よく利用する公共施設



2 地域とのつながりについて

(1) 近所でのあいさつ

問8 自分から近所の人にあいさつをしていますか。[どちらかに○]

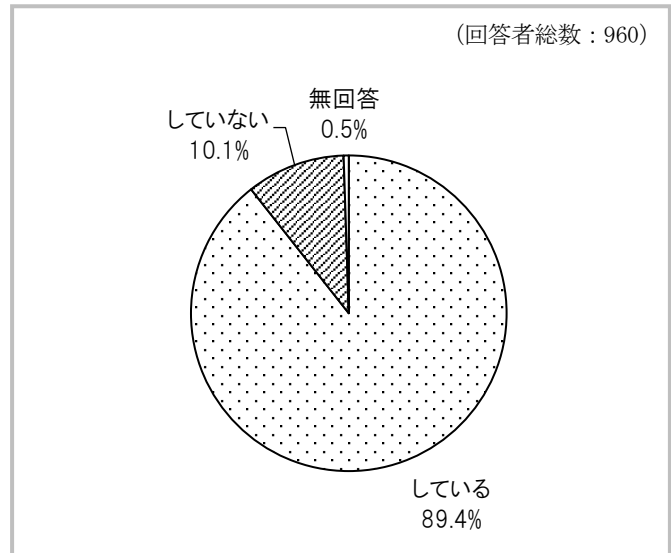
自分からあいさつを「している」が89.4%

図 近所でのあいさつ

自分から近所の人にあいさつをしているかについては「している」が89.4%、「していない」が10.1%となっています。

表 近所でのあいさつ 単位：人（%）

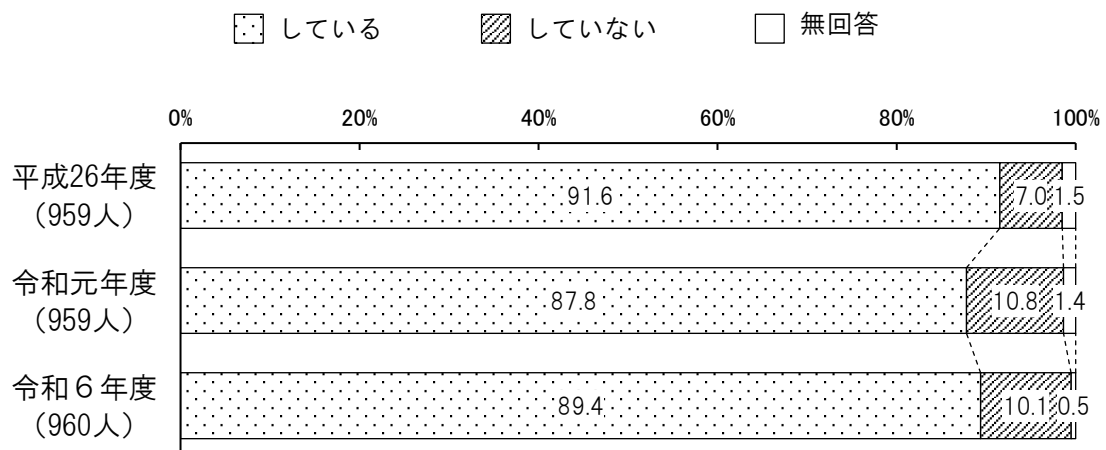
回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
している	858（89.4）
していない	97（10.1）
無回答	5（0.5）



時系列比較

自分からあいさつを「している」という割合は、平成26年度の91.6%から令和元年度の87.8%に減少しましたが、令和6年度には89.4%に増加しました。

■ 時系列

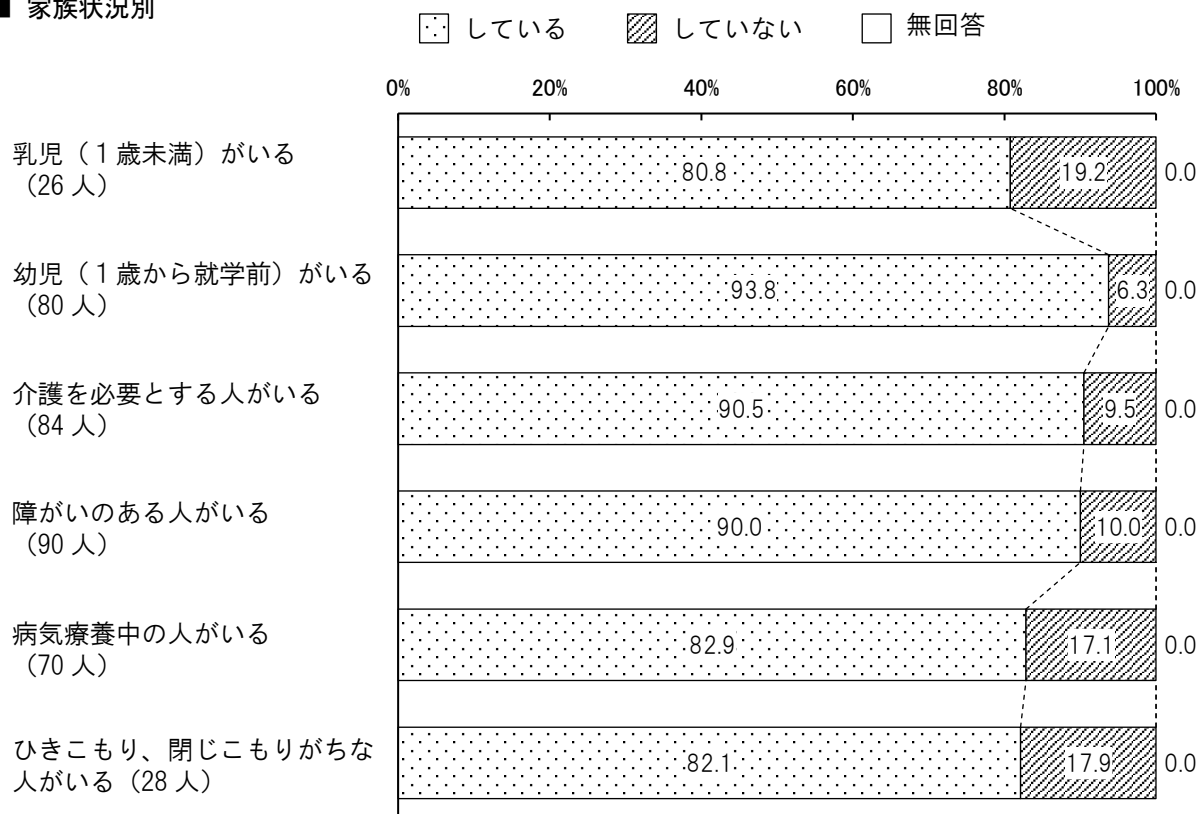


【家族状況別】

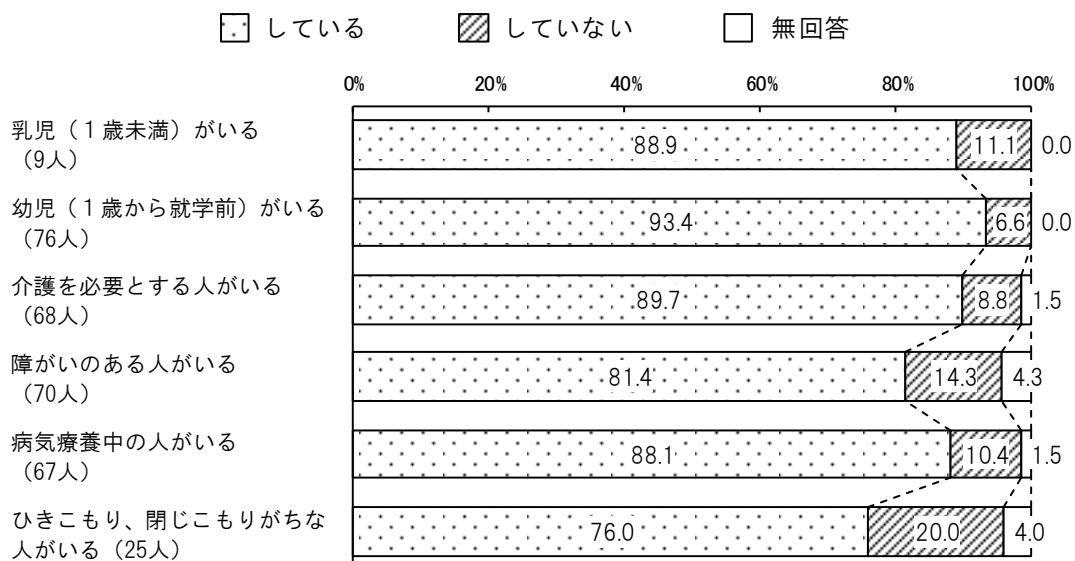
家族状況別にみると、あいさつを「していない」の割合は、乳児（１歳未満）がいる世帯では19.2%、ひきこもり、閉じこもりがちな人がある世帯では17.9%、病気療養中の人がある世帯では17.1%となっており、全体平均の10.1%を上回っています。

「している」という割合を令和元年度と比較すると、障がいのある人がある世帯では、令和元年度の81.4%から令和6年度の90.0%に増加しました。ひきこもり、閉じこもりがちな人がある世帯では、令和元年度の76.0%から令和6年度の82.1%に増加しました。

■ 家族状況別



■ 参考：令和元年度 家族状況別



(2) 近所付き合い

問9 ご近所とのお付き合いはいかがですか。[1つに○]

「あいさつする程度」が45.1%で最も多い

図 近所付き合い

ご近所とのお付き合いについては、「あいさつする程度」が45.1%で最も多くなっています。

また、「困りごとを話し合えるような付き合い」は11.4%、「立ち話をする程度」は33.8%で、これら2項目を合わせると、話をするなどの何らかのお付き合いをしている割合は45.2%となっています。

一方、「ほとんど付き合いがない」は9.4%となっています。

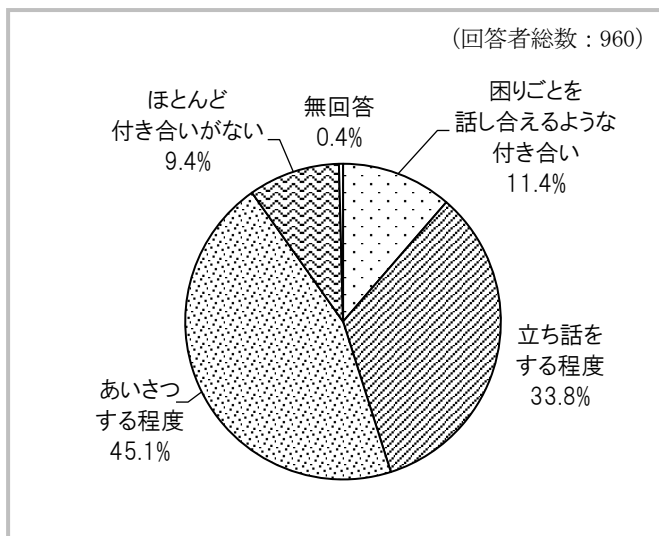


表 近所付き合い 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	960
項目	回答数 (構成比)
困りごとを話し合えるような付き合い	109 (11.4)
立ち話をする程度	324 (33.8)
あいさつする程度	433 (45.1)
ほとんど付き合いがない	90 (9.4)
無回答	4 (0.4)

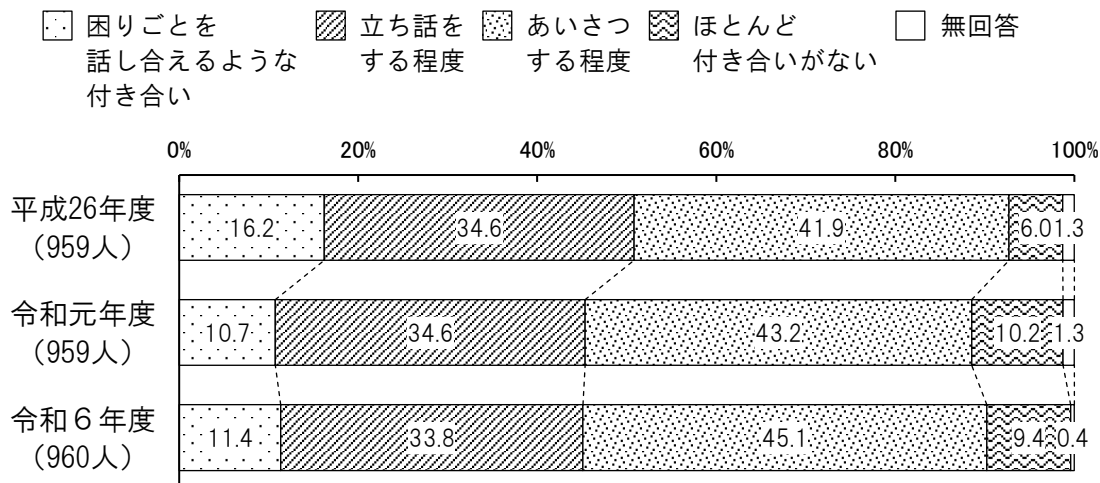


時系列比較

「困りごとを話し合えるような付き合い」は、平成26年度の16.2%から令和6年度の11.4%に減少しています。

一方、「あいさつする程度」は増加傾向にあり、平成26年度は41.9%でしたが、令和6年度には45.1%となりました。

■ 時系列



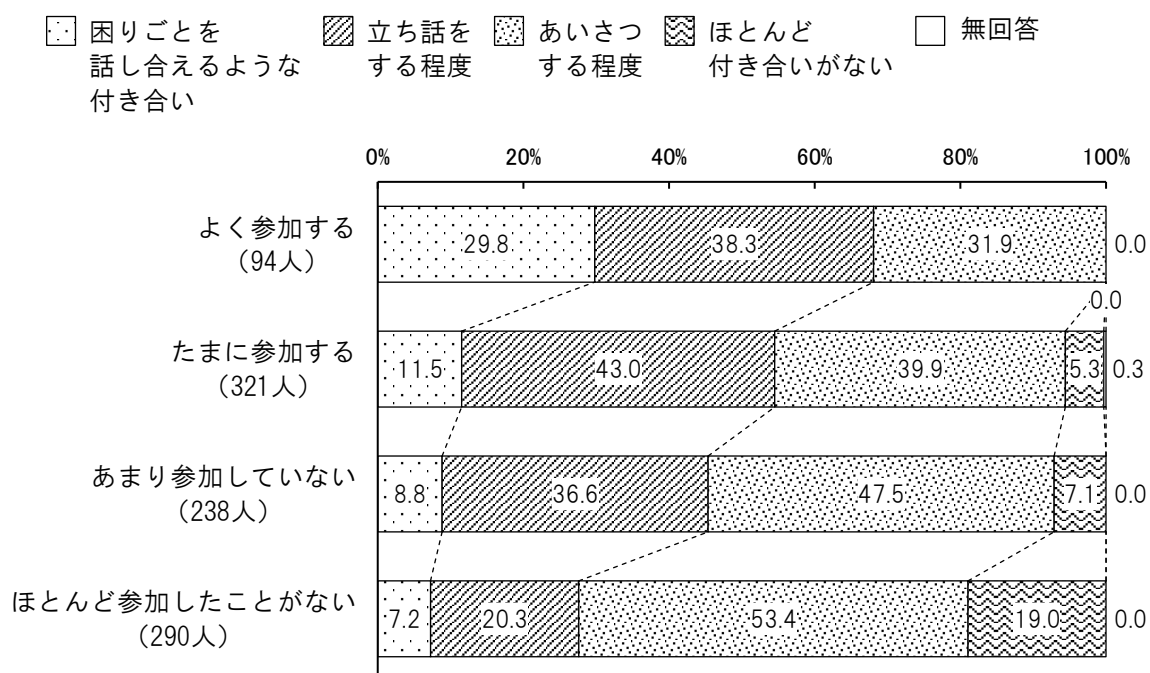


設問間クロス集計

地域行事等への参加状況別にみると、『よく参加する』という人では「困りごとを話し合えるような付き合い」が29.8%で多くなっています。また、『たまに参加する』という人では「立ち話をする程度」が43.0%で多くなっています。

一方、『ほとんど参加したことがない』という人では、「あいさつをする程度」が53.4%、「ほとんど付き合いがない」が19.0%で、これらを合わせると約7割となり多くなっています。

■ 問 11 地域行事等への参加状況別



(3)「地域」の範囲

問10 「地域での支え合い、助け合い」といったとき、「地域」とはどの範囲をイメージしますか。
[1つに○]

「ご近所の範囲」が40.4%で最も多い

「地域での支え合い、助け合い」といったとき、「地域」とはどの範囲をイメージするかについては、「ご近所の範囲」が40.4%で最も多く、次に「地区（行政区）の範囲」が38.2%となっています。

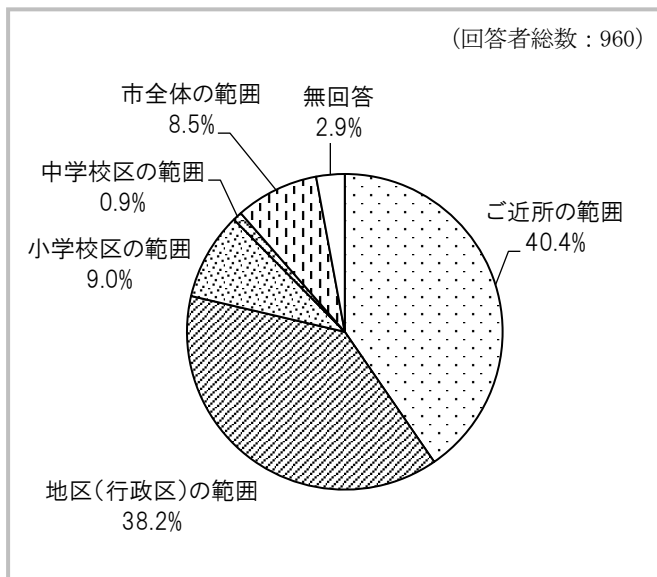
また、「小学校区の範囲」は 9.0%、「中学校区の範囲」は 0.9%、「市全体の範囲」は 8.5%となっています。

表 「地域」の範囲

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
ご近所の範囲	388 (40.4)
地区（行政区）の範囲	367 (38.2)
小学校区の範囲	86 (9.0)
中学校区の範囲	9 (0.9)
市全体の範囲	82 (8.5)
無回答	28 (2.9)

図 「地域」の範囲



(4) 地域行事等への参加状況

問11 地域のお祭りやイベントに参加していますか。[1 つに○]

参加していない割合が5割を超える

図 地域行事等への参加状況

地域のお祭りやイベントといった地域行事等への参加状況については、「よく参加する」が 9.8%、「たまに参加する」が 33.4%で、これらを合わせると、地域行事に参加している割合は43.2%となっています。

一方、「あまり参加していない」は 24.8%、「ほとんど参加したことがない」は30.2%で、これらを合わせると55.0%となり、参加していない割合が5割を超えています。

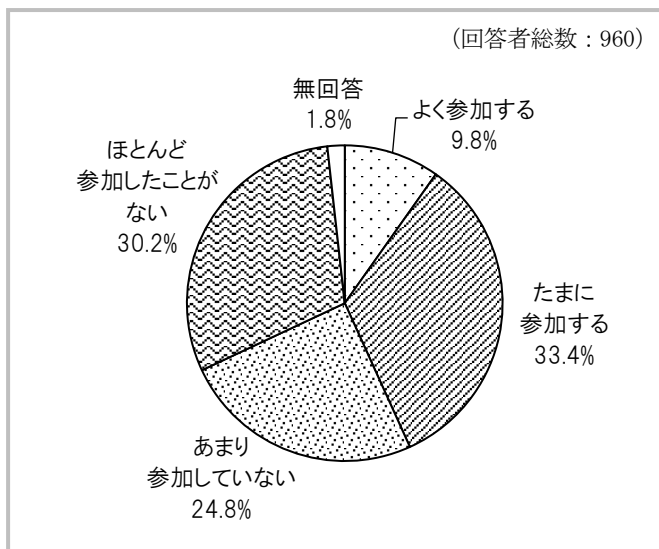


表 地域行事等への参加状況 単位：人（%）

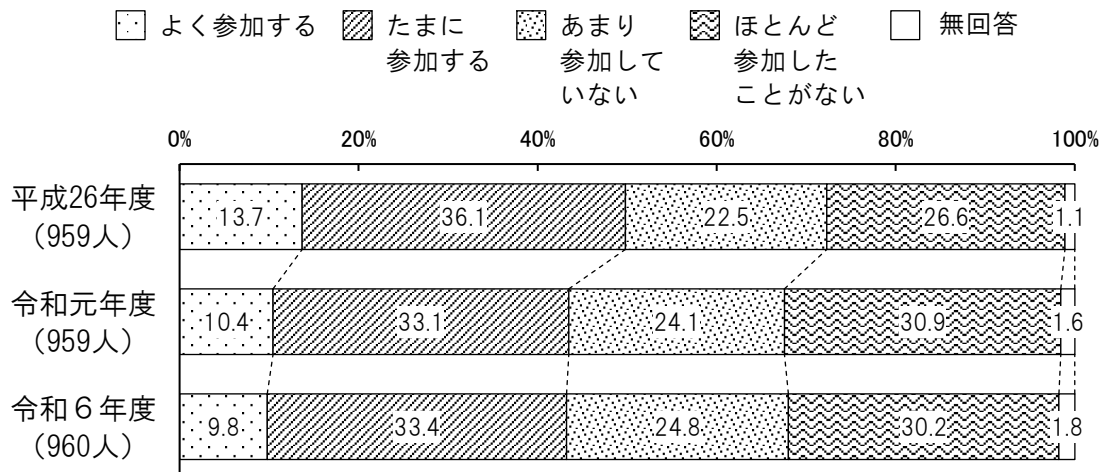
回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
よく参加する	94（9.8）
たまに参加する	321（33.4）
あまり参加していない	238（24.8）
ほとんど参加したことがない	290（30.2）
無回答	17（1.8）



時系列比較

「よく参加する」と「たまに参加する」の合計は、平成26年度の49.8%から令和元年度の43.5%に減少し、令和6年度には43.2%となりました。

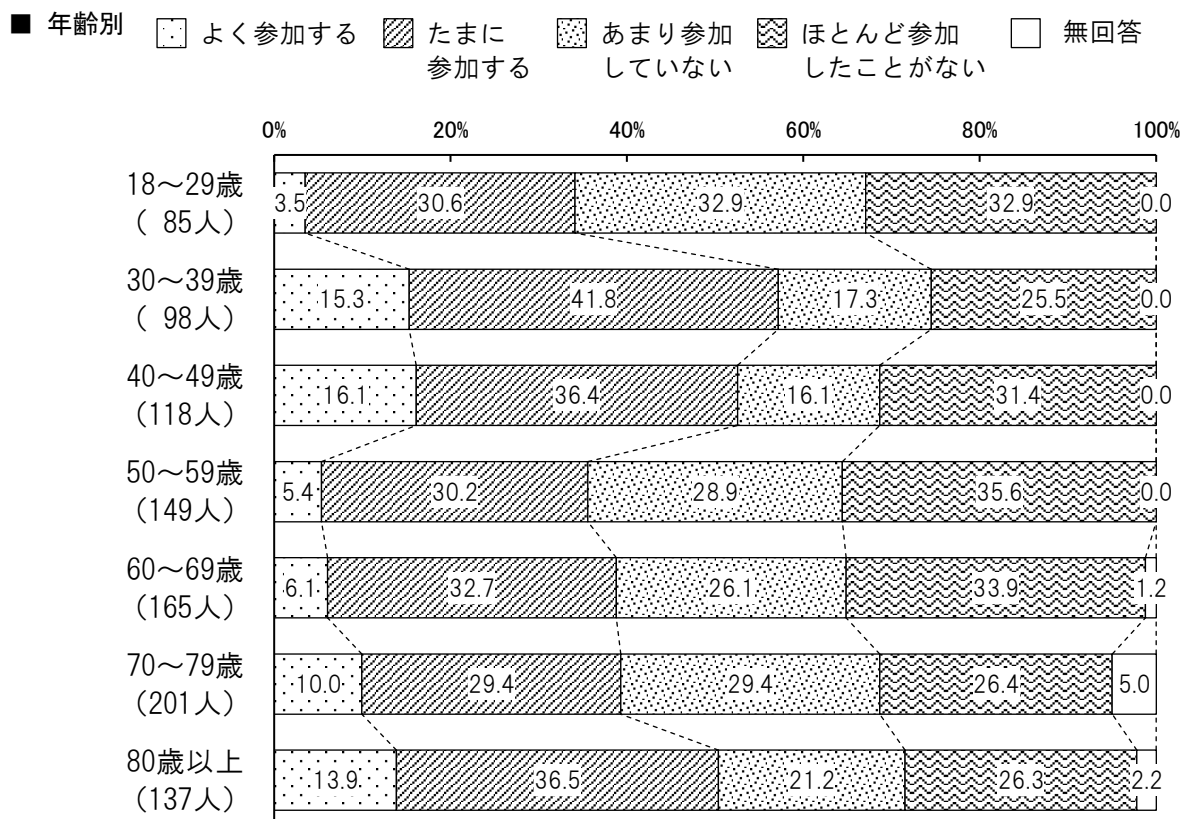
■ 時系列



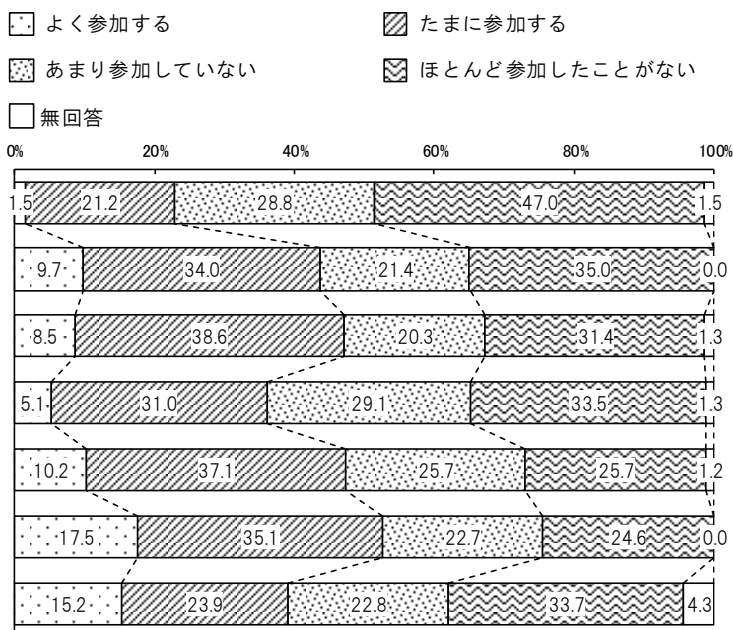
【年齢別】

年齢別にみると、「よく参加する」と「たまに参加する」の合計が50%以上となるのは、30～39歳、40～49歳、80歳以上となっています。一方、18～29歳、50～59歳、60～69歳では、「あまり参加していない」と「ほとんど参加したことがない」の合計が60%以上で多くなっています。

「よく参加する」と「たまに参加する」の合計を令和元年度と比較すると、18～29歳では、令和元年度の22.7%から令和6年度の34.1%に増加しました。30～39歳では、令和元年度の43.7%から令和6年度の57.1%に増加しました。



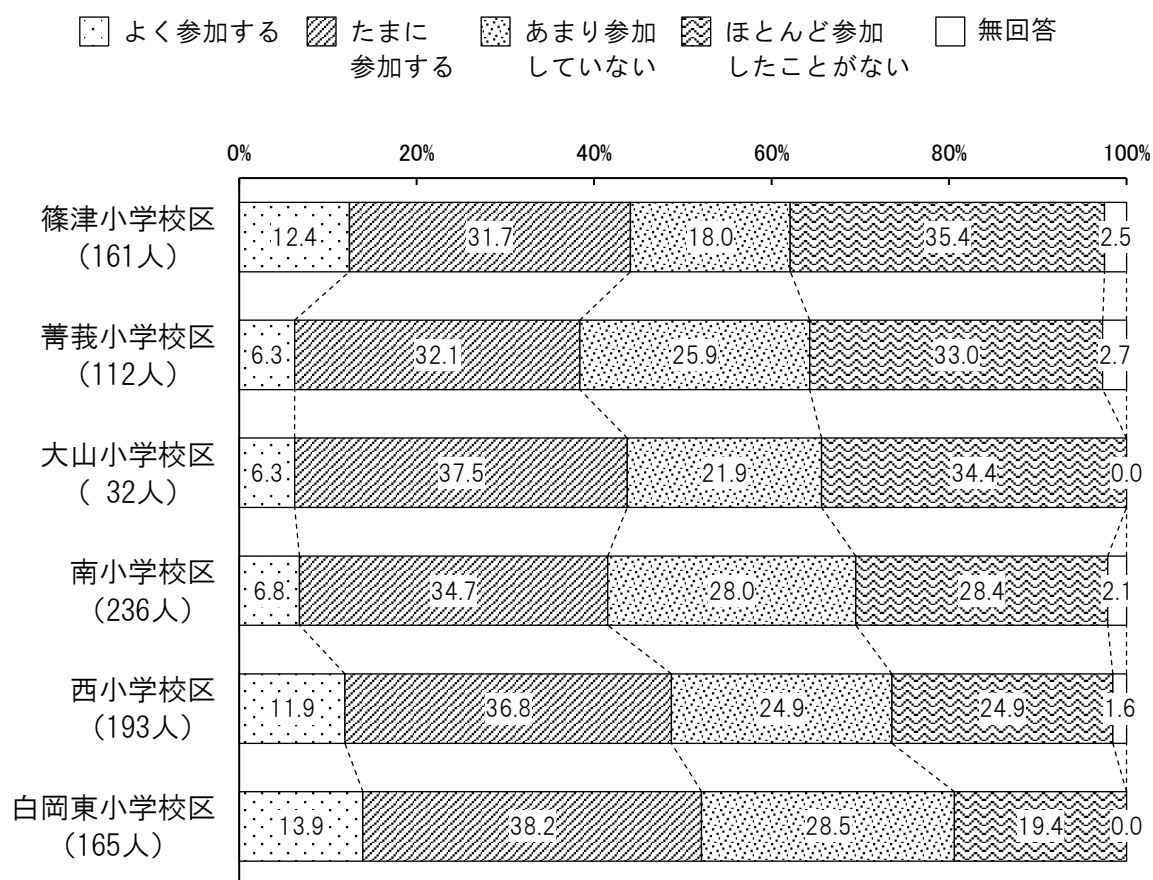
■ 参考：令和元年度 年齢別



【地区別】

地区別にみると、「よく参加する」と「たまに参加する」の合計が最も多いのは、白岡東小学校区で52.1%となっています。菁莪小学校区では「よく参加する」と「たまに参加する」の合計が38.4%で、地区別では最も低くなりました。また、篠津小学校区では「ほとんど参加したことがない」が35.4%で最も多い地区となり、白岡東小学校区の19.4%と比較すると16ポイントの差となっています。

■ 地区別

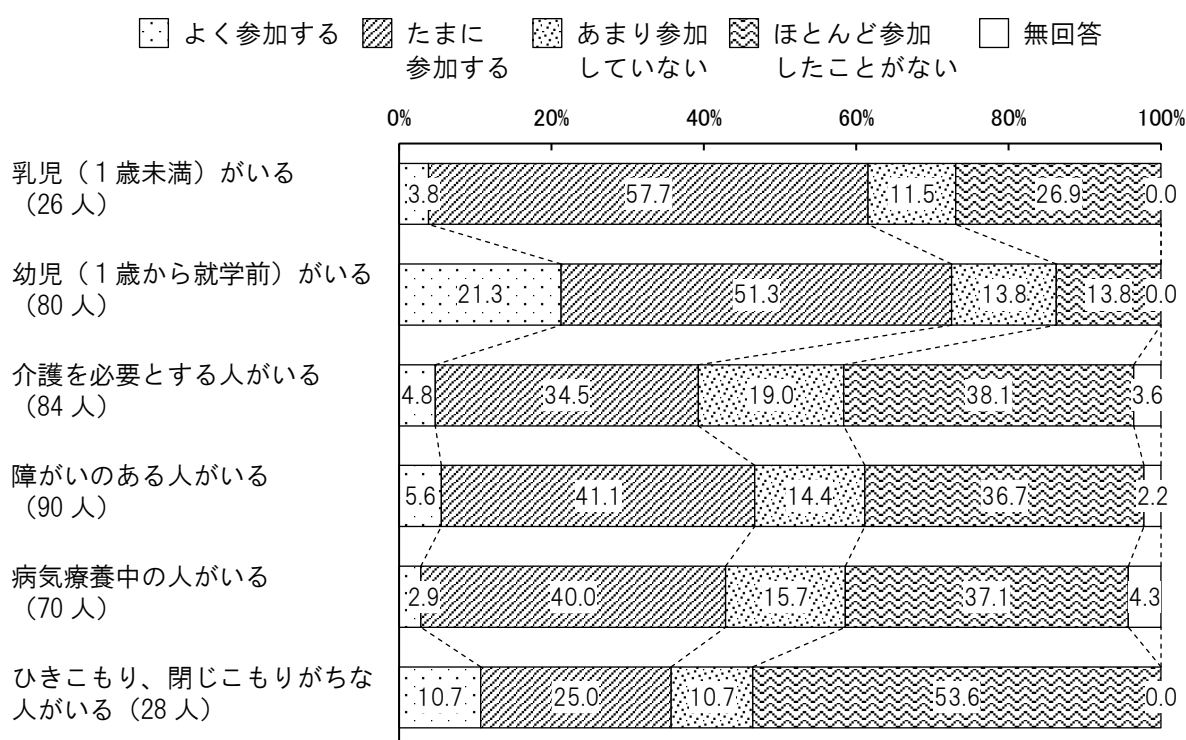


【家族状況別】

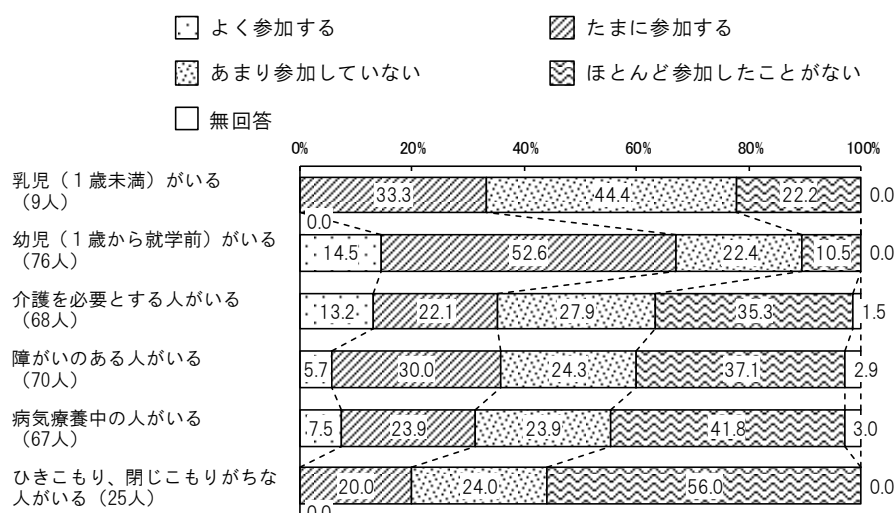
家族状況別にみると、「ほとんど参加したことがない」は、介護を必要とする人のいる世帯は38.1%、障がいのある人がいる世帯は36.7%、病気療養中の人がある世帯では37.1%、ひきこもり・閉じこもりの人がいる世帯では53.6%となっており、全体平均の30.2%を上回っています。「ほとんど参加したことがない」は、乳児がいる世帯では26.9%、幼児がいる世帯では13.8%で、ひきこもり・閉じこもりの人がいる世帯との差は大きくなっています。

「よく参加する」と「たまに参加する」の合計を令和元年度と比較すると、乳児がいる世帯では、令和元年度の33.3%から令和6年度の61.5%に増加しました。幼児がいる世帯では、令和元年度の67.1%から令和6年度の72.6%に増加しました。

■ 家族状況別



■ 参考：令和元年度 家族状況別



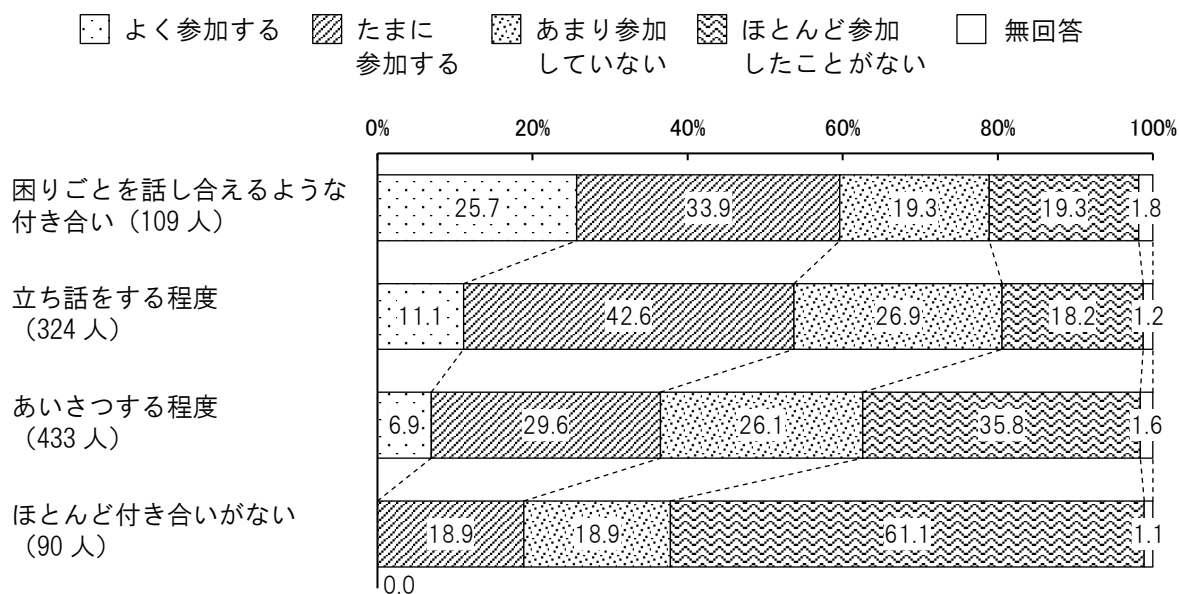


設問間クロス集計

近所付き合い別にみると、『困りごとを話し合えるような付き合い』では「よく参加する」が25.7%、「たまに参加する」が33.9%で、参加する割合が多くなっています。

一方、『ほとんど付き合いがない』では、「ほとんど参加したことがない」が61.1%で多くなっています。

■ 問9 近所付き合い別



(5) 身近な地域での問題点

問12 身近な地域で気になること、問題と覚えることがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕

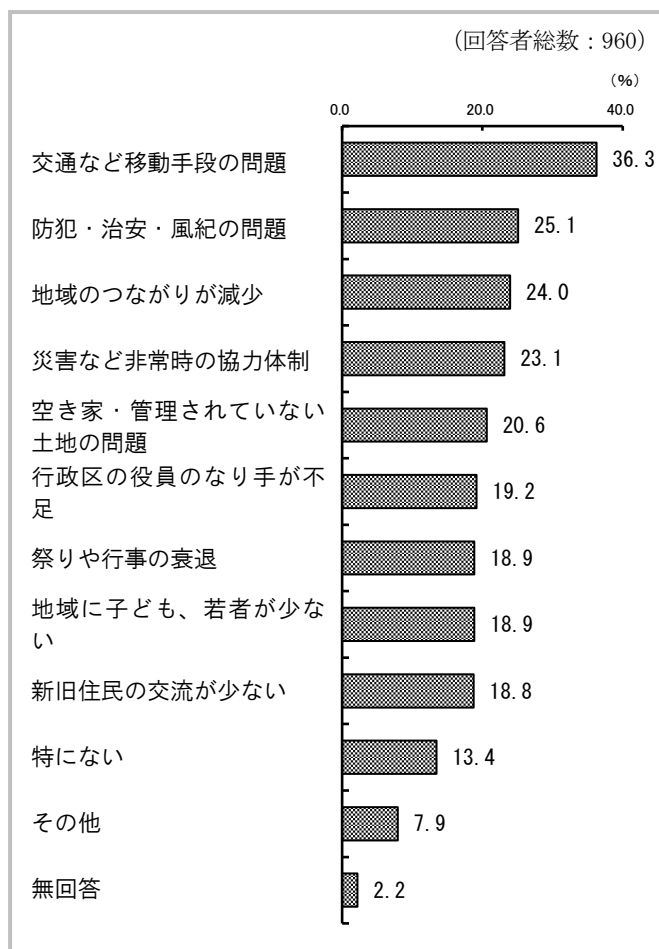
「交通など移動手段の問題」が36.3%で最も多い

身近な地域で気になること、問題と覚えることがあるかについては、「交通など移動手段の問題」が36.3%で最も多く、続いて「防犯・治安・風紀の問題」が25.1%、「地域のつながりが減少」が24.0%となっています。

表 身近な地域での問題点 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
交通など移動手段の問題	348（36.3）
防犯・治安・風紀の問題	241（25.1）
地域のつながりが減少	230（24.0）
災害など非常時の協力体制	222（23.1）
空き家・管理されていない土地の問題	198（20.6）
行政区の役員のなり手が不足	184（19.2）
祭りや行事の衰退	181（18.9）
地域に子ども、若者が少ない	181（18.9）
新旧住民の交流が少ない	180（18.8）
特にない	129（13.4）
その他	76（7.9）
無回答	21（2.2）

図 身近な地域での問題点



 時系列比較

「行政区の役員のなり手が不足」は増加傾向が続いており、平成26年度に13.5%、令和元年度に17.9%、令和6年度に19.2%となりました。また、「防犯・治安・風紀の問題」は、令和元年度の16.0%から令和6年度の25.1%に増加しました。

■ 時系列

単位：％

	交通など移動手段の問題	防犯・治安・風紀の問題	地域のつながりが減少	災害など非常時の協力体制	空き家・管理されていない土地の問題	行政区の役員のなり手が不足	祭りや行事の衰退	地域に子ども、若者が少ない	新旧住民の交流が少ない	特にない	その他	無回答
平成26年度 (959人)	25.2	16.9	25.1	26.0	－	13.5	13.3	24.2	21.4	15.7	4.8	3.6
令和元年度 (959人)	36.9	16.0	23.7	29.7	－	17.9	15.5	23.5	18.5	15.2	8.7	2.5
令和6年度 (960人)	36.3	25.1	24.0	23.1	20.6	19.2	18.9	18.9	18.8	13.4	7.9	2.2

【年齢別】

年齢別にみると、どの年代でも「交通など移動手段の問題」が最も多く、18～29歳では40.0%で特に多くなっています。

また、2番目に多い項目については、18～29歳では「祭りや行事の衰退」、30～39歳、40～49歳、50～59歳では「防犯・治安・風紀の問題」となっています。

「地域のつながりが減少」については、18～29歳では12.9%ですが、80歳以上では29.2%となり、年代が上がるのにしたがって割合が多くなる傾向となっています。

■ 年齢別

単位：％

	交通など移動手段の問題	防犯・治安・風紀の問題	地域のつながりが減少	災害など非常時の協力体制	空き家・管理されていない土地の問題	行政区の役員のなり手が不足	祭りや行事の衰退	地域に子ども、若者が少ない	新旧住民の交流が少ない	特にない	その他	無回答
18～29歳 (85人)	40.0	27.1	12.9	16.5	16.5	16.5	32.9	24.7	12.9	12.9	17.6	0.0
30～39歳 (98人)	32.7	26.5	19.4	19.4	25.5	10.2	17.3	18.4	13.3	14.3	10.2	2.0
40～49歳 (118人)	33.9	30.5	23.7	21.2	27.1	16.9	22.9	17.8	21.2	14.4	9.3	0.0
50～59歳 (149人)	34.2	30.9	24.2	29.5	18.8	25.5	16.1	15.4	18.1	16.8	8.7	0.0
60～69歳 (165人)	36.4	24.8	26.7	21.2	21.8	21.2	19.4	18.8	18.2	10.3	6.7	2.4
70～79歳 (201人)	38.8	20.4	24.9	25.4	18.9	22.4	15.4	19.9	22.4	12.4	5.0	5.0
80歳以上 (137人)	36.5	19.0	29.2	22.6	16.1	15.3	16.1	19.7	21.2	14.6	4.4	2.2

【地区別】

地区別にみると、菁莪小学校区と大山小学校区で「交通など移動手段の問題」や「地域に子ども、若者が少ない」が多くなっています。篠津小学校区では「災害など非常時の協力体制」が多くなっています。

また、大山小学校区では「新旧住民の交流が少ない」が 6.3%、西小学校区では「地域に子ども、若者が少ない」が 6.7%となっており、他の地区の割合より少なく、10%を下回っています。

■ 地区別

単位：％

	交通など移動手段の問題	防犯・治安・風紀の問題	地域のつながりが減少	災害など非常時の協力体制	空き家・管理されていない土地の問題	行政区の役員のなり手が不足	祭りや行事の衰退	地域に子ども、若者が少ない	新旧住民の交流が少ない	特にない	その他	無回答
篠津小学校区 (161人)	29.2	24.8	25.5	31.1	20.5	16.8	16.1	15.5	25.5	13.7	6.8	2.5
菁莪小学校区 (112人)	58.0	17.9	23.2	15.2	32.1	23.2	27.7	51.8	14.3	7.1	6.3	2.7
大山小学校区 (32人)	59.4	21.9	15.6	18.8	31.3	18.8	37.5	65.6	6.3	6.3	6.3	0.0
南小学校区 (236人)	27.1	23.3	25.8	25.4	19.9	20.8	20.3	14.0	21.2	12.7	8.9	2.5
西小学校区 (193人)	38.3	33.2	24.4	21.2	18.7	21.2	17.1	6.7	19.7	17.1	7.8	1.6
白岡東小学校区 (165人)	33.9	23.0	25.5	21.2	15.2	18.8	17.0	17.0	17.6	14.5	8.5	0.6
わからない (51人)	37.3	31.4	11.8	19.6	15.7	5.9	5.9	5.9	7.8	17.6	11.8	2.0

(6) 近所で手助けしてもらいたいこと

問13 近所や地域の人から手助けしてもらいたいことはありますか。[あてはまるものすべてに○]

「災害時等の安否確認の声かけ」が23.6%

近所や地域の人から手助けしてもらいたいことがあるかについては、「特にない」が62.7%となっています。

手助けしてもらいたいことの中で最も多かったのは、「災害時等の安否確認の声かけ」で23.6%となっています。

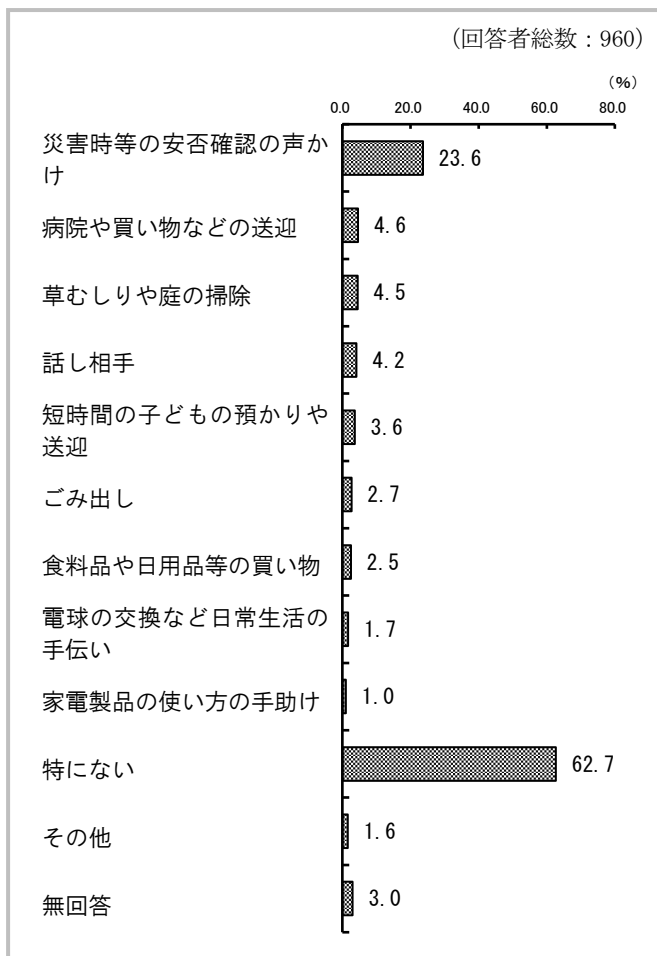
また、「病院や買い物などの送迎」が4.6%、「草むしりや庭の掃除」が4.5%、「話し相手」が4.2%となっています。

表 近所で手助けしてもらいたいこと

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
災害時等の安否確認の声かけ	227 (23.6)
病院や買い物などの送迎	44 (4.6)
草むしりや庭の掃除	43 (4.5)
話し相手	40 (4.2)
短時間の子どもの預かりや送迎	35 (3.6)
ごみ出し	26 (2.7)
食料品や日用品等の買い物	24 (2.5)
電球の交換など日常生活の手伝い	16 (1.7)
家電製品の使い方の手助け	10 (1.0)
特にない	602 (62.7)
その他	15 (1.6)
無回答	29 (3.0)

図 近所で手助けしてもらいたいこと



(7) 自分が手助けできること

問14 ご近所に介護や病気、子育てなどで困っているご家庭があったら、あなたが手助けできそうなことはありますか。[あてはまるものすべてに○]

「災害時等の安否確認の声かけ」が48.5%で最も多い

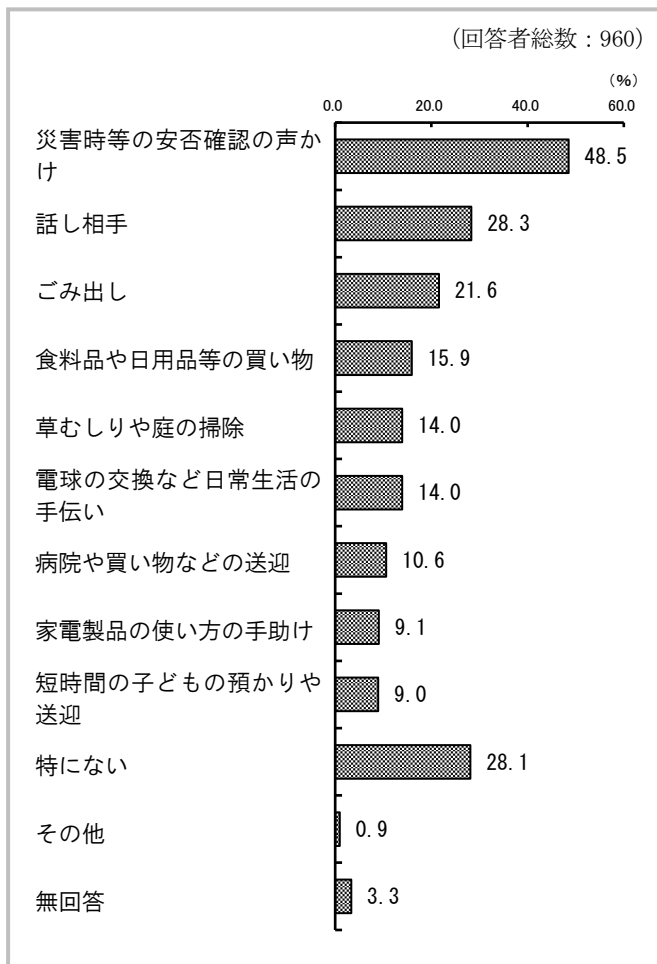
近所に介護や病気、子育てなどで困っている家庭があったら、手助けできそうなことがあるかについては、「災害時等の安否確認の声かけ」が48.5%で最も多く、続いて「話し相手」が28.3%、「ごみ出し」が21.6%となっています。

一方、「特にない」は、28.1%となっています。

表 自分が手助けできること 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
災害時等の安否確認の声かけ	466 (48.5)
話し相手	272 (28.3)
ごみ出し	207 (21.6)
食料品や日用品等の買い物	153 (15.9)
草むしりや庭の掃除	134 (14.0)
電球の交換など日常生活の手伝い	134 (14.0)
病院や買い物などの送迎	102 (10.6)
家電製品の使い方の手助け	87 (9.1)
短時間の子どもの預かりや送迎	86 (9.0)
特にない	270 (28.1)
その他	9 (0.9)
無回答	32 (3.3)

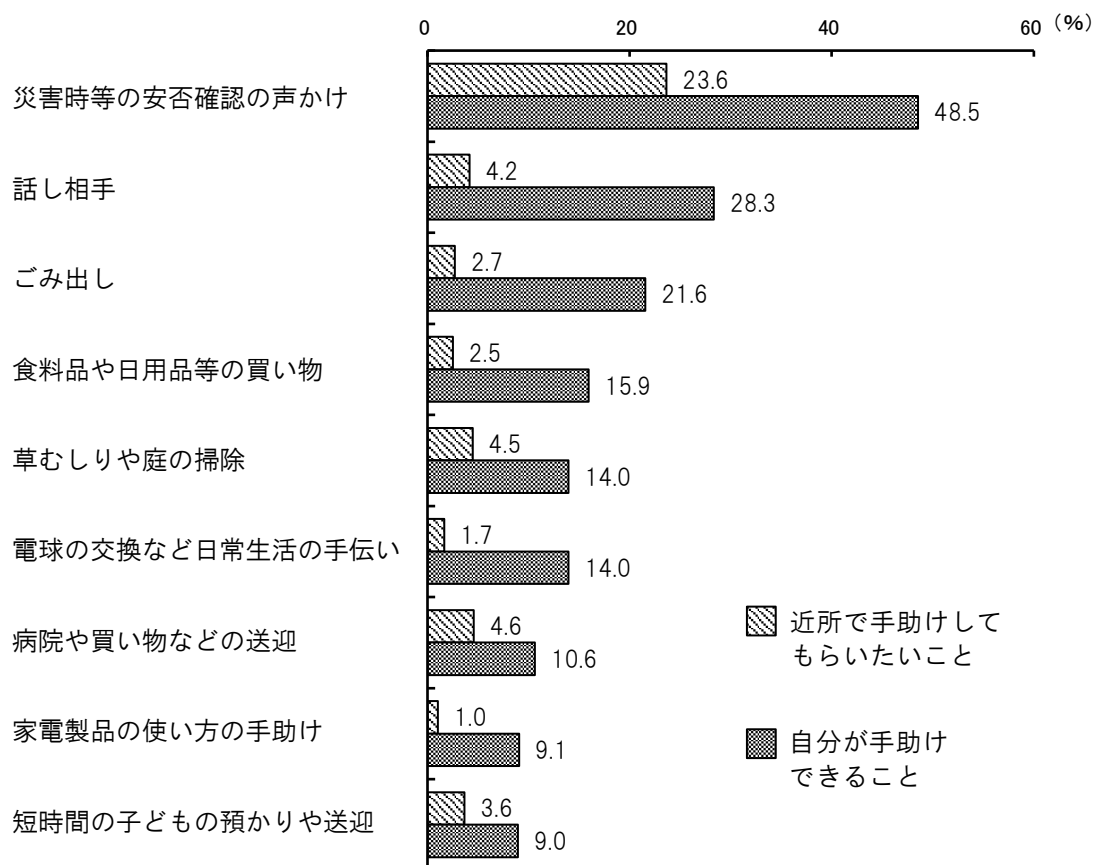
図 自分が手助けできること



【「問13 近所で手助けしてもらいたいこと」と「問14 自分が手助けできること」の比較】

「問13 近所で手助けしてもらいたいこと」と「問14 自分が手助けできること」の結果を比較してみると、どの項目でも、手助けできるという割合が手助けしてもらいたいという割合を上回っています。「災害時等の安否確認の声かけ」について手助けしてもらいたいという割合は23.6%ありますが、手助けできるという割合が48.5%と多くなっています。

■ 「問 13 近所で手助けしてもらいたいこと」と「問 14 自分が手助けできること」の比較



(8) リラックスできる場

問15 リフレッシュやリラックスできると感じることはどのようなことですか。
[あてはまるものすべてに○]

「自宅で過ごすこと」が72.5%で最も多い

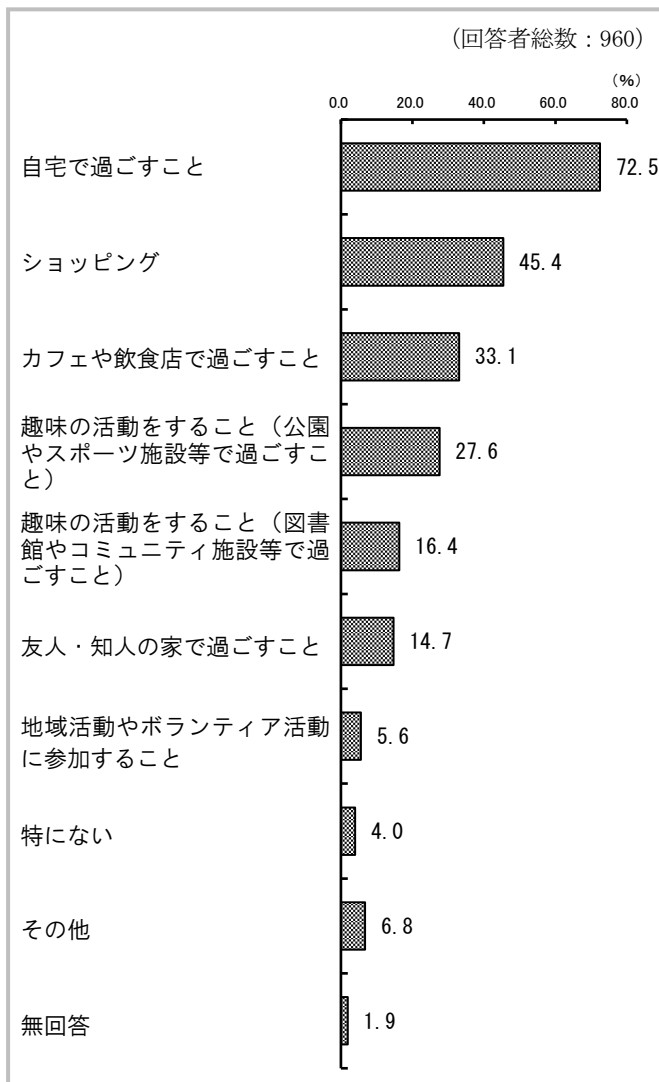
リフレッシュやリラックスできると感じることは、「自宅で過ごすこと」が72.5%で最も多く、続いて「ショッピング」が45.4%、「カフェや飲食店で過ごすこと」が33.1%となっています。

表 リラックスできる場

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
自宅で過ごすこと	696 (72.5)
ショッピング	436 (45.4)
カフェや飲食店で過ごすこと	318 (33.1)
趣味の活動をする（公園やスポーツ施設等で過ごすこと）	265 (27.6)
趣味の活動をする（図書館やコミュニティ施設等で過ごすこと）	157 (16.4)
友人・知人の家で過ごすこと	141 (14.7)
地域活動やボランティア活動に参加すること	54 (5.6)
特にない	38 (4.0)
その他	65 (6.8)
無回答	18 (1.9)

図 リラックスできる場



【性別】

性別にみると、男女ともに「自宅で過ごすこと」が最も多くなっています。男性では、「趣味の活動をする（公園やスポーツ施設等で過ごすこと）」が35.8%で2番目に多くなっています。女性では、「ショッピング」が56.2%で2番目に多く、次に「カフェや飲食店で過ごすこと」が42.1%となっています。

■ 性別

単位：％

	自宅で過ごすこと	ショッピング	カフェや飲食店で過ごすこと	趣味の活動をする（公園やスポーツ施設等で過ごすこと）	趣味の活動をする（図書館やコミュニティ施設等で過ごすこと）	友人・知人の家で過ごすこと	地域活動やボランティア活動に参加すること	特にない	その他	無回答
男性 (430人)	71.4	32.3	22.1	35.8	15.6	10.2	6.5	6.3	7.0	2.1
女性 (520人)	74.0	56.2	42.1	21.0	16.9	18.5	4.6	2.1	6.5	1.2

【年齢別】

年齢別にみると、どの年代でも「自宅で過ごすこと」が最も多くなっていますが、18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳では8割台となっているのに対して、60～69歳、70～79歳、80歳以上では6割台となっています。

また、30～39歳では、「ショッピング」が67.3%で多くなっています。

■ 年齢別

単位：％

	自宅で過ごすこと	ショッピング	カフェや飲食店で過ごすこと	趣味の活動をする（公園やスポーツ施設等で過ごすこと）	趣味の活動をする（図書館やコミュニティ施設等で過ごすこと）	友人・知人の家で過ごすこと	地域活動やボランティア活動に参加すること	特にない	その他	無回答
18～29歳 (85人)	81.2	45.9	47.1	18.8	14.1	32.9	1.2	1.2	2.4	0.0
30～39歳 (98人)	81.6	67.3	52.0	31.6	13.3	24.5	2.0	2.0	0.0	0.0
40～49歳 (118人)	83.1	53.4	38.1	33.9	18.6	16.1	5.9	2.5	6.8	0.0
50～59歳 (149人)	83.9	46.3	37.6	27.5	11.4	14.8	2.0	3.4	7.4	0.0
60～69歳 (165人)	63.6	40.6	29.7	28.5	16.4	6.7	6.1	7.3	10.9	0.6
70～79歳 (201人)	62.2	43.3	27.4	25.9	19.4	10.0	10.0	4.0	6.0	5.5
80歳以上 (137人)	66.4	30.7	13.9	27.0	19.0	12.4	8.0	5.1	9.5	2.9

3 ボランティア活動について

(1) ボランティア活動等の参加状況

問16 地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに参加していますか。[1つに○]

参加は約5割

図 ボランティア活動等の参加状況

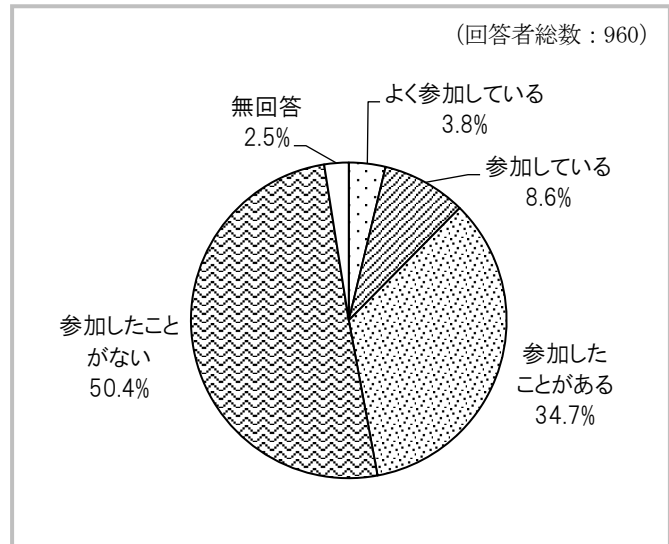
地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに参加しているかについては、「よく参加している」が 3.8%、「参加している」が 8.6%、「参加したことがある」が 34.7%で、これらを合わせると、参加の割合は47.1%で約5割となっています。

一方、「参加したことがない」は50.4%で、参加していない割合も約5割となっています。

表 ボランティア活動等の参加状況

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
よく参加している	36（3.8）
参加している	83（8.6）
参加したことがある	333（34.7）
参加したことがない	484（50.4）
無回答	24（2.5）

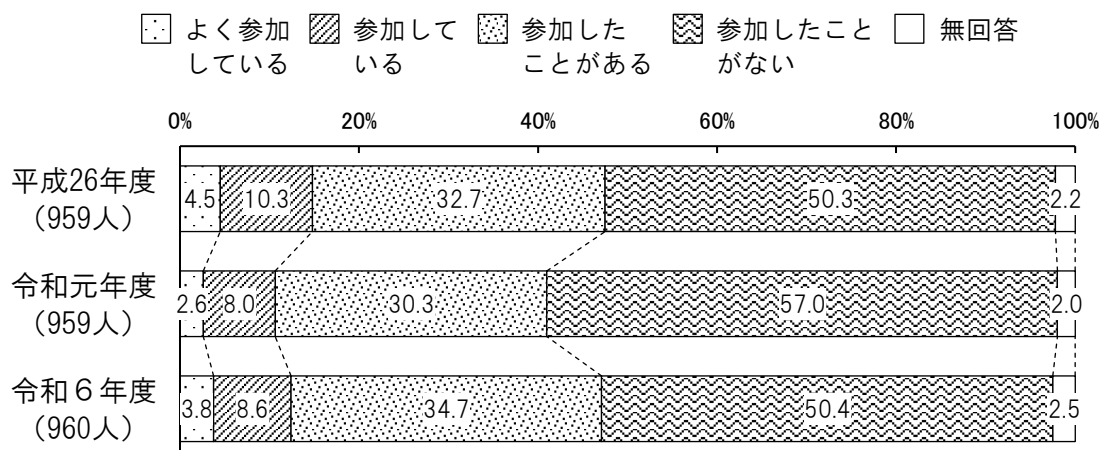


時系列比較

「参加したことがない」は、平成26年度の50.3%から令和元年度の57.0%へと増加しましたが、令和6年度では50.4%に減少しました。

また、「よく参加している」、「参加している」、「参加したことがある」の割合は、令和元年度と比較すると、令和6年度にはそれぞれ微増となりました。

■ 時系列



(2) 必要だと思うボランティア活動

問17 あなたが今お住まいの地域で、特に必要だと思うボランティア活動は何ですか。
[あてはまるものすべてに○]

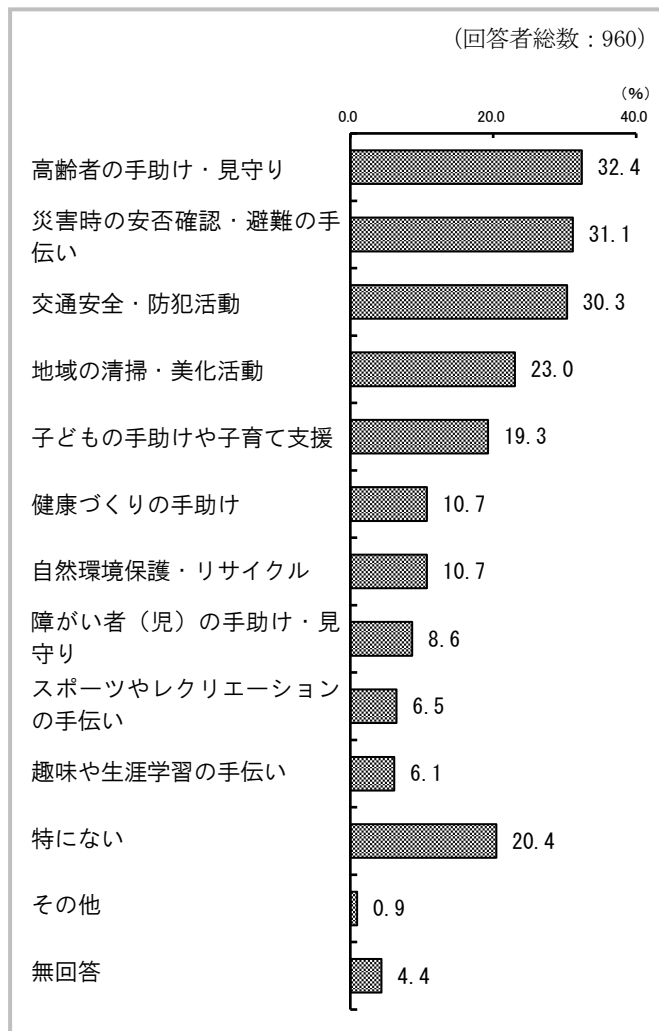
「高齢者の手助け・見守り」が32.4%で最も多い

住んでいる地域で特に必要だと思うボランティア活動については、「高齢者の手助け・見守り」が32.4%で最も多く、続いて「災害時の安否確認・避難の手伝い」が31.1%、「交通安全・防犯活動」が30.3%となっています。

表 必要だと思うボランティア活動

単位：人（%）	
回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
高齢者の手助け・見守り	311（32.4）
災害時の安否確認・避難の手伝い	299（31.1）
交通安全・防犯活動	291（30.3）
地域の清掃・美化活動	221（23.0）
子どもの手助けや子育て支援	185（19.3）
健康づくりの手助け	103（10.7）
自然環境保護・リサイクル	103（10.7）
障がい者（児）の手助け・見守り	83（8.6）
スポーツやレクリエーションの手伝い	62（6.5）
趣味や生涯学習の手伝い	59（6.1）
特にない	196（20.4）
その他	9（0.9）
無回答	42（4.4）

図 必要だと思うボランティア活動



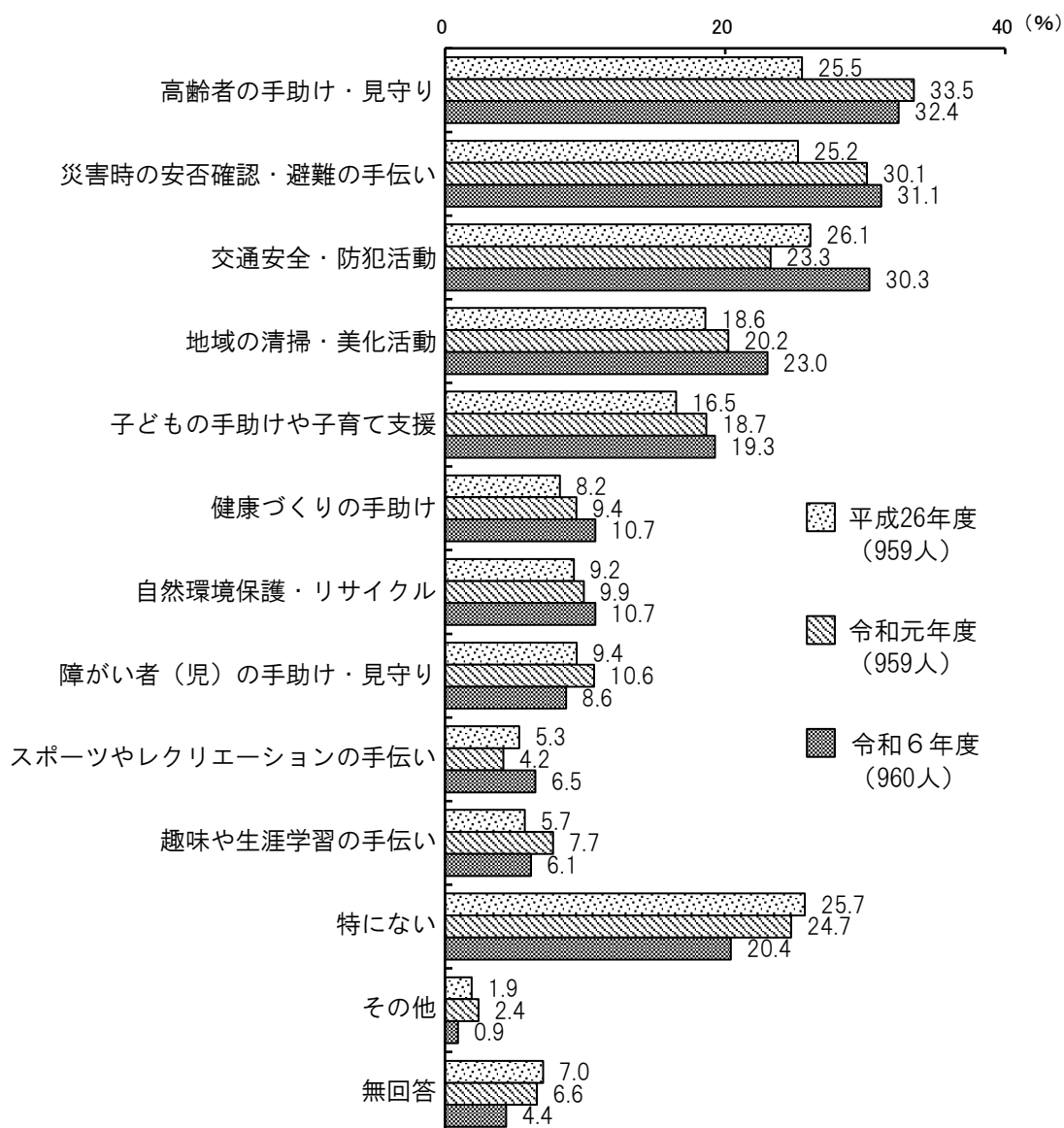
時系列比較

「高齢者の手助け・見守り」と「災害時の安否確認・避難の手伝い」は、令和元年度に増加し、令和6年度も30%を超える割合の高い項目となっています。

また、「交通安全・防犯活動」は、令和元年度の23.3%から令和6年度の30.3%に増加しました。

「地域の清掃・美化活動」については増加傾向にあり、平成26年度は18.6%、令和元年度は20.2%、令和6年度は23.0%となりました。

■ 時系列



(3) 自分ができるボランティア活動

問18 あなたができるボランティア活動はありますか。[あてはまるものすべてに○]

「地域の清掃・美化活動」が30.3%で最も多い

自分がボランティア活動できることについては、「地域の清掃・美化活動」が30.3%で最も多く、続いて「災害時の安否確認・避難の手伝い」が24.5%、「高齢者の手助け・見守り」が18.9%となっています。

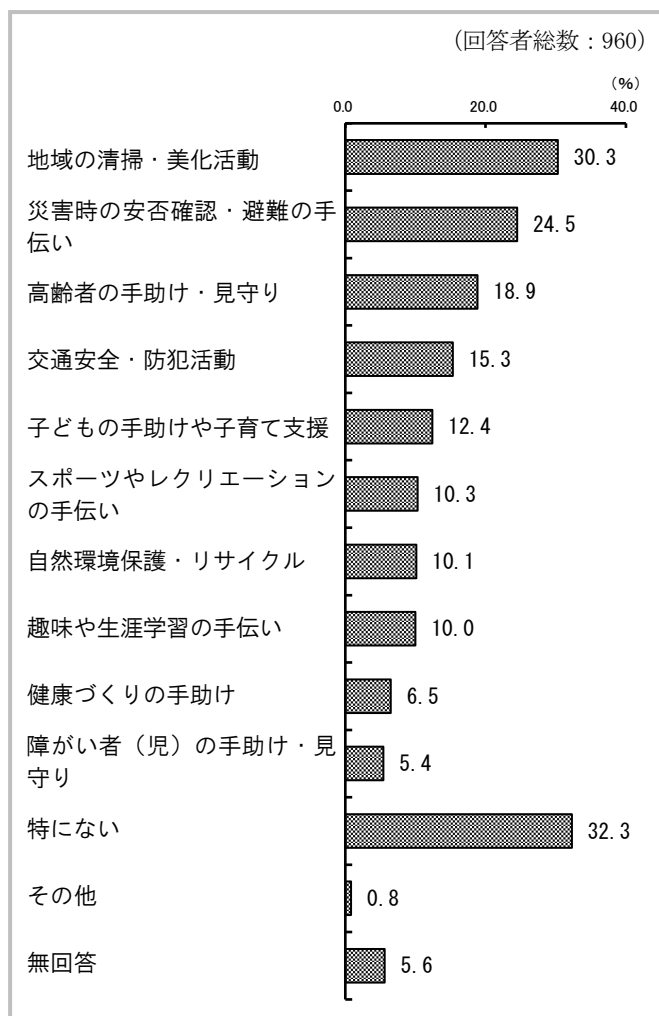
一方、「特にない」は32.3%となっています。

表 自分ができるボランティア活動

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
地域の清掃・美化活動	291 (30.3)
災害時の安否確認・避難の手伝い	235 (24.5)
高齢者の手助け・見守り	181 (18.9)
交通安全・防犯活動	147 (15.3)
子どもの手助けや子育て支援	119 (12.4)
スポーツやレクリエーションの手伝い	99 (10.3)
自然環境保護・リサイクル	97 (10.1)
趣味や生涯学習の手伝い	96 (10.0)
健康づくりの手助け	62 (6.5)
障がい者（児）の手助け・見守り	52 (5.4)
特にない	310 (32.3)
その他	8 (0.8)
無回答	54 (5.6)

図 自分ができるボランティア活動

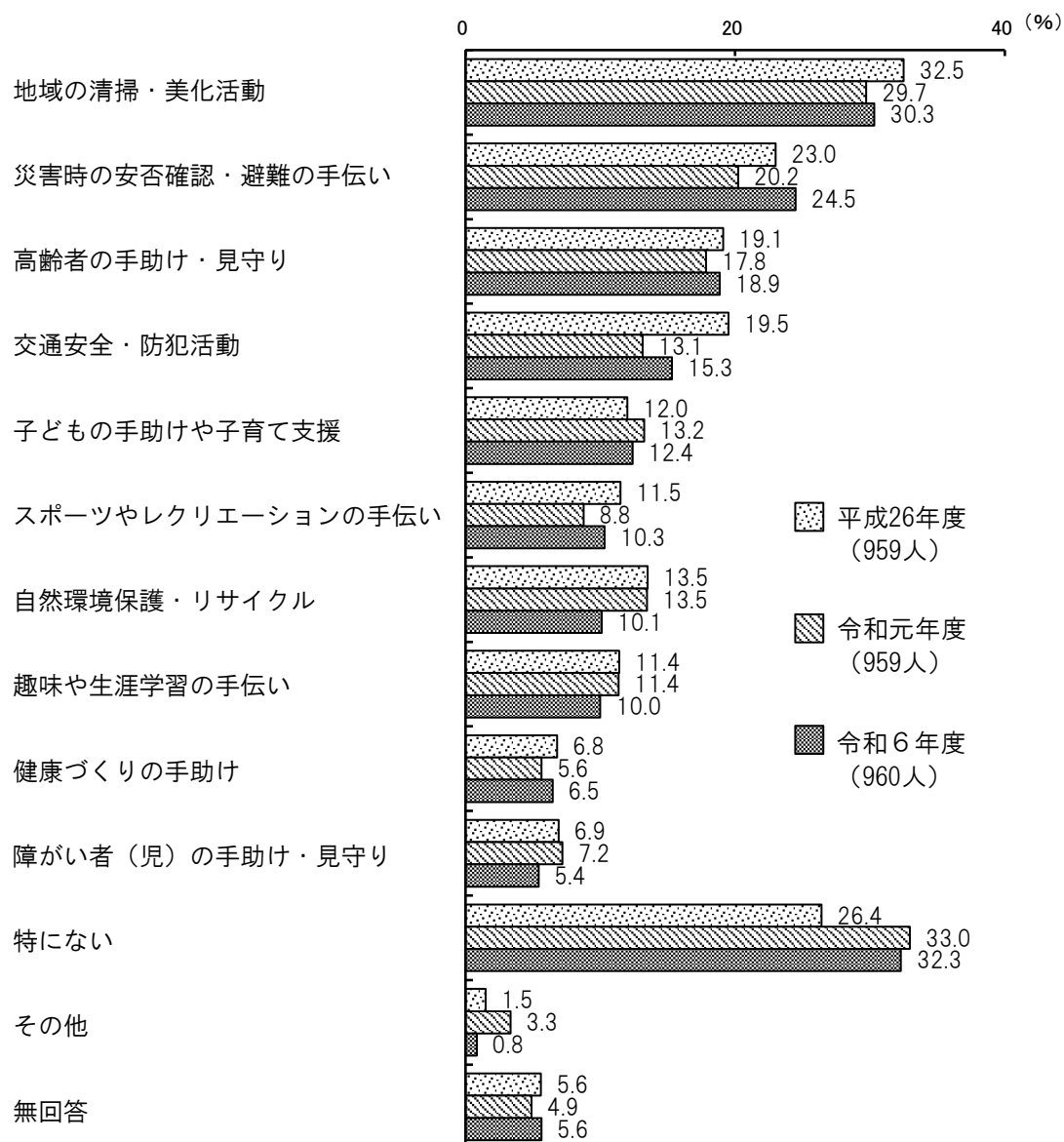


時系列比較

「地域の清掃・美化活動」、「災害時の安否確認・避難の手伝い」、「高齢者の手助け・見守り」、「スポーツやレクリエーションの手伝い」、「健康づくりの手助け」といった項目では、平成26年度から令和元年度に割合が減少しましたが、令和6年度ではそれぞれ増加し、平成26年度に近い割合となりました。「交通安全・防犯活動」や「自然環境保護・リサイクル」では、平成26年度と令和6年度を比較すると割合が減少しました。

また、「特にない」は、平成26年度の26.4%から令和6年度の32.3%に増加しました。

■ 時系列

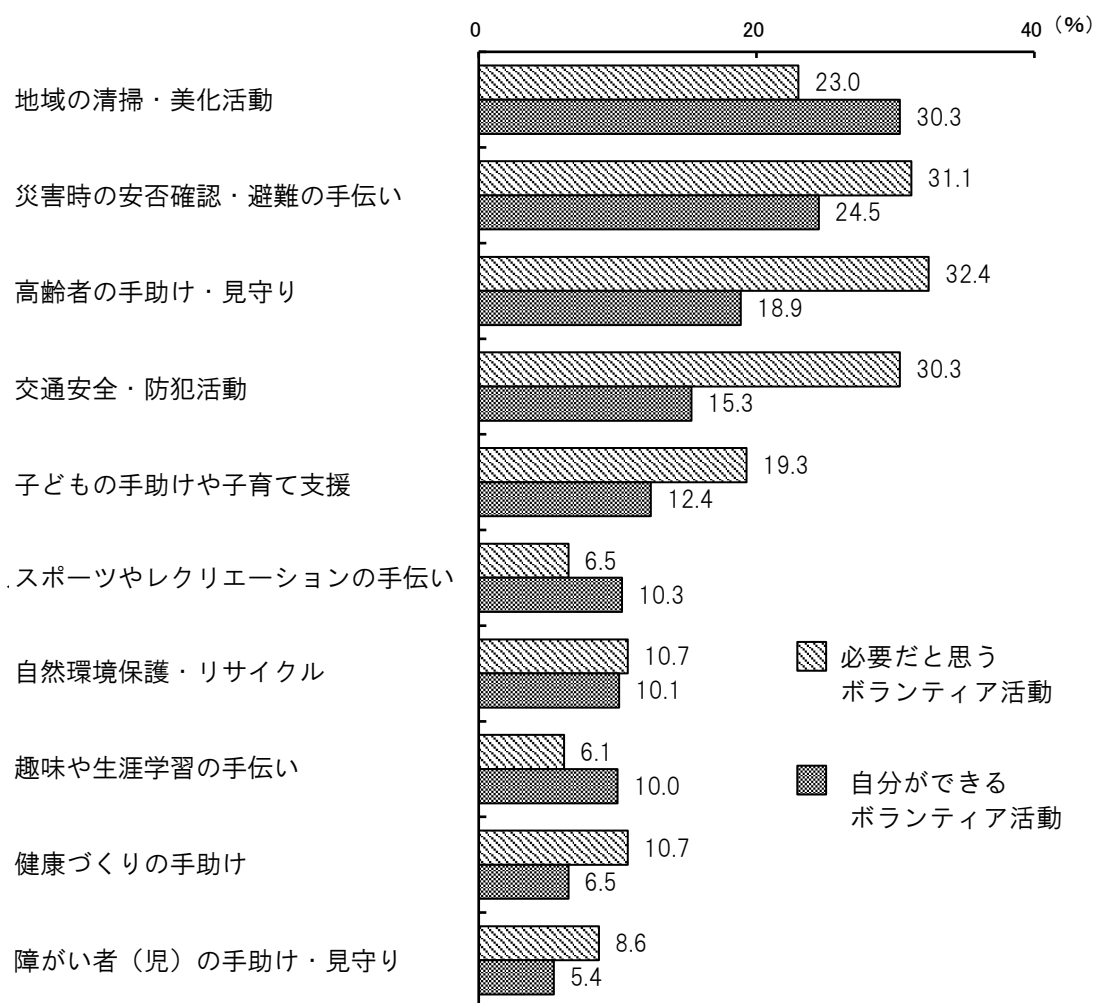


【「問17 必要だと思うボランティア活動」と「問18 自分ができるボランティア活動」の比較】

「問17 必要だと思うボランティア活動」、「問18 自分ができるボランティア活動」の結果を比較しました。「地域の清掃・美化活動」や「スポーツやレクリエーションの手伝い」、「趣味や生涯学習の手伝い」については、必要だと思うボランティア活動の割合より自分が
できるボランティア活動の割合のほうが多くなっています。

一方、「災害時の安否確認・避難の手伝い」や「高齢者の手助け・見守り」、「交通安全・防犯活動」、「子どもの手助けや子育て支援」といった項目では、自分ができるボランティア活動より必要だと思うボランティア活動の割合が多くなっています。

■「問17 必要だと思うボランティア活動」と「問18 自分ができるボランティア活動」の比較



(4) ボランティア活動を活発化するために必要な取組

問19 白岡市でボランティア活動を活発にしていけるためには、どのような取組が特に必要だと思いますか。〔3つ以内で○〕

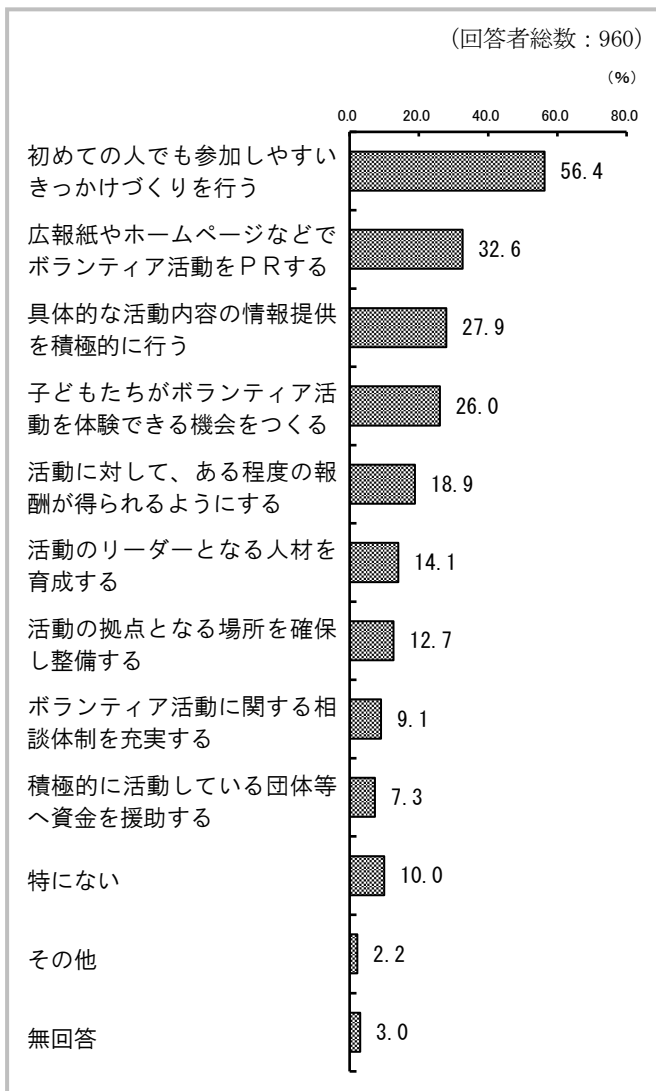
「参加しやすいきっかけ」が56.4%で最も多い

白岡市でボランティア活動を活発にしていけるために必要だと思うことについては、「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が56.4%で最も多く、続いて「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が32.6%、「具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う」が27.9%となっています。

表 ボランティア活動を活発化するために必要な取組
単位：人（％）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う	541 (56.4)
広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする	313 (32.6)
具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う	268 (27.9)
子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる	250 (26.0)
活動に対して、ある程度の報酬が得られるようにする	181 (18.9)
活動のリーダーとなる人材を育成する	135 (14.1)
活動の拠点となる場所を確保し整備する	122 (12.7)
ボランティア活動に関する相談体制を充実する	87 (9.1)
積極的に活動している団体等へ資金を援助する	70 (7.3)
特にない	96 (10.0)
その他	21 (2.2)
無回答	29 (3.0)

図 ボランティア活動を活発化するために必要な取組





設問間クロス集計

ボランティア活動等の参加状況別にみると、参加状況に関わらず、「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が最も多くなっています。

『よく参加している』では「子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる」が41.7%、『参加したことがある』では「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が38.4%が多くなっています。

■ 問 16 ボランティア活動等の参加状況別

単位：％

	初めての人も参加しやすい きっかけづくりを行う	広報紙やホームページなどで ボランティア活動をPRする	具体的な活動内容の情報提供 を積極的に行う	子どもたちがボランティア活 動を体験できる機会をつくる	活動に対して、ある程度の報 酬が得られるようにする	活動のリーダーとなる人材を 育成する	活動の拠点となる場所を確保 し整備する	ボランティア活動に関する相 談体制を充実する	積極的に活動している団体等 へ資金を援助する	特 に ない	そ の 他	無 回 答
よく参加している (36人)	47. 2	33. 3	33. 3	41. 7	13. 9	19. 4	27. 8	8. 3	16. 7	0. 0	2. 8	13. 9
参加している (83人)	68. 7	36. 1	31. 3	20. 5	15. 7	24. 1	16. 9	15. 7	15. 7	4. 8	0. 0	2. 4
参加したことがある (333人)	57. 1	38. 4	30. 6	31. 2	22. 5	15. 0	12. 0	7. 2	6. 0	5. 4	2. 7	1. 2
参加したことがない (484人)	55. 6	28. 1	25. 4	22. 9	17. 8	10. 7	10. 7	9. 1	6. 0	14. 9	2. 3	3. 1

4 福祉に関する相談やサービスについて

(1) 民生委員・児童委員の周知状況

問20 地域住民の立場で、福祉の相談やサポートを行う「民生委員・児童委員」を知っていますか。
[1つに○]

「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」が26.3%

民生委員・児童委員を知っているかについては、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」が15.9%、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」が12.9%となっています。

また、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」は26.3%で最も多くなっています。

一方、「地区の委員の名前や顔も、活動も知らない」は20.9%、「民生委員・児童委員を知らない」は22.1%となっています。

図 民生委員・児童委員の周知状況

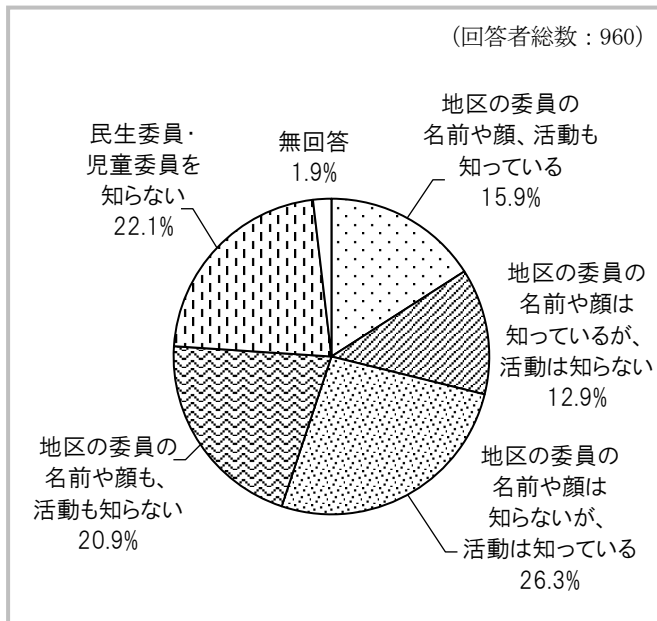


表 民生委員・児童委員の周知状況

単位：人 (%)

回答者総数 (人)	960
項 目	回答数 (構成比)
地区の委員の名前や顔、活動も知っている	153 (15.9)
地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない	124 (12.9)
地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている	252 (26.3)
地区の委員の名前や顔も、活動も知らない	201 (20.9)
民生委員・児童委員を知らない	212 (22.1)
無回答	18 (1.9)

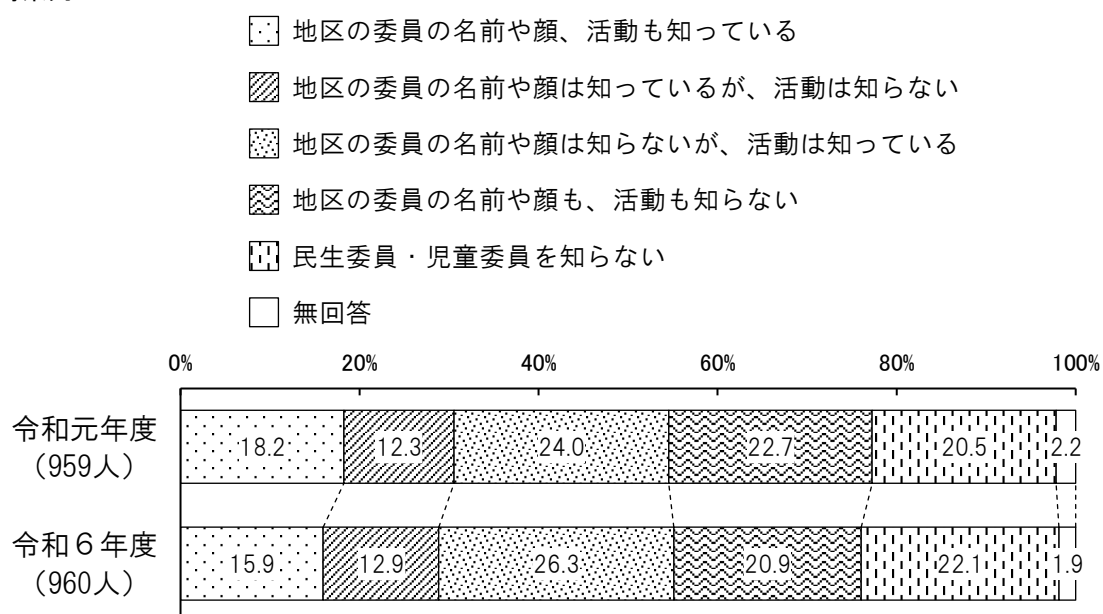
 時系列比較

「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」は、令和元年度の18.2%から令和6年度の15.9%に減少しました。

また、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」は、令和元年度の24.0%から令和6年度の26.3%に増加しました。

「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」と「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」を合わせて、活動を知っているという割合は、令和元年度に42.2%でしたが、令和6年度も同率で42.2%となりました。

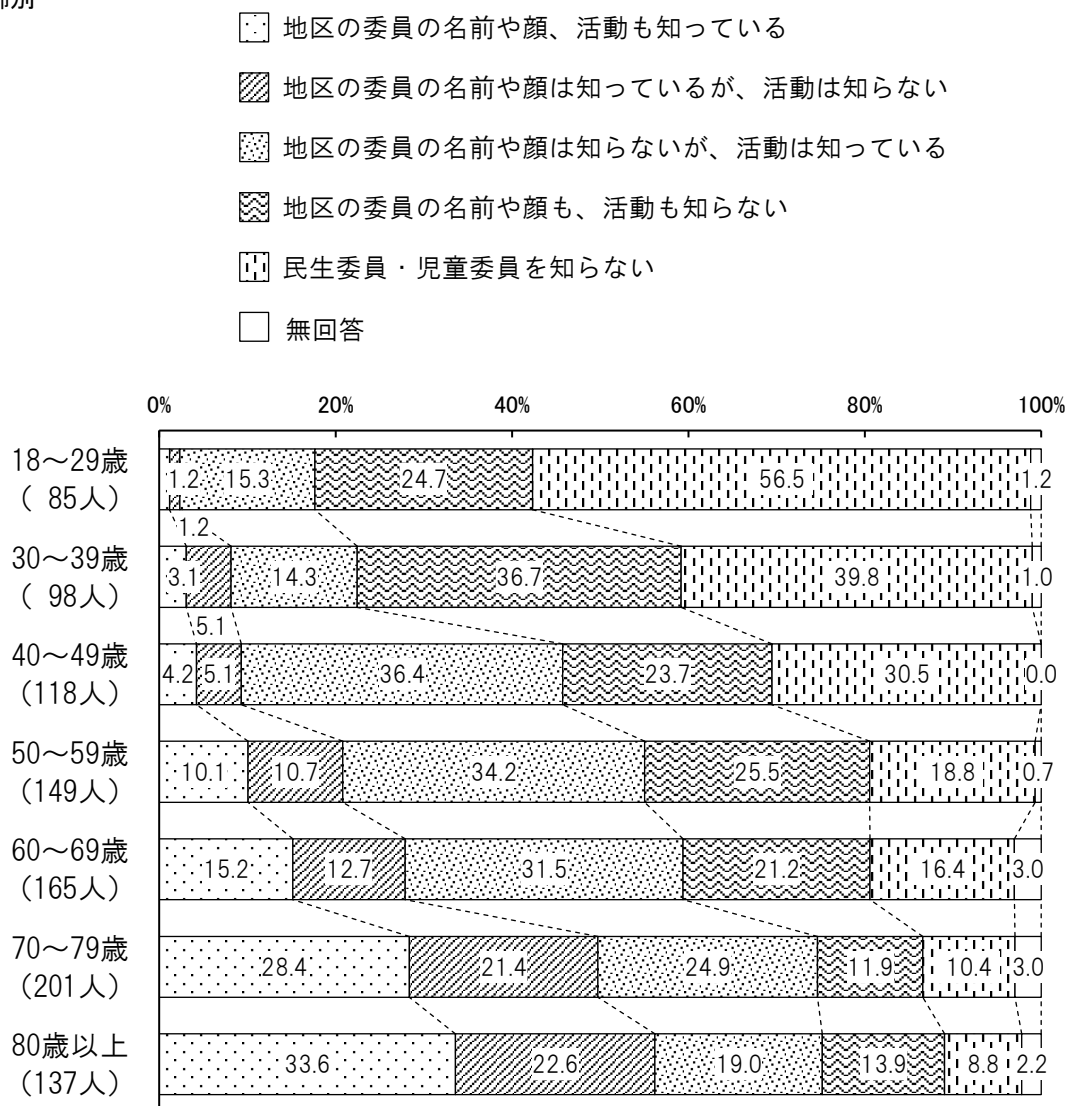
■ 時系列



【年齢別】

年齢別にみると、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」は、70～79歳で28.4%、80歳以上で33.6%と多くなっています。また、若い年代ほど「民生委員・児童委員を知らない」という割合が多く、18～29歳では56.5%となっています。

■ 年齢別



(2) 社会福祉協議会の周知状況

問21 住民同士の支え合い、助け合い活動を行っている「白岡市社会福祉協議会」を知っていますか。
[1つに○]

「活動までは知らないが、
名前は聞いたことがある」が47.0%

「白岡市社会福祉協議会」を知っているかについては、「活動も名前も知っている」が19.0%、「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」が47.0%となっています。

一方、「聞いたことがない」は32.1%となっています。

図 社会福祉協議会の周知状況

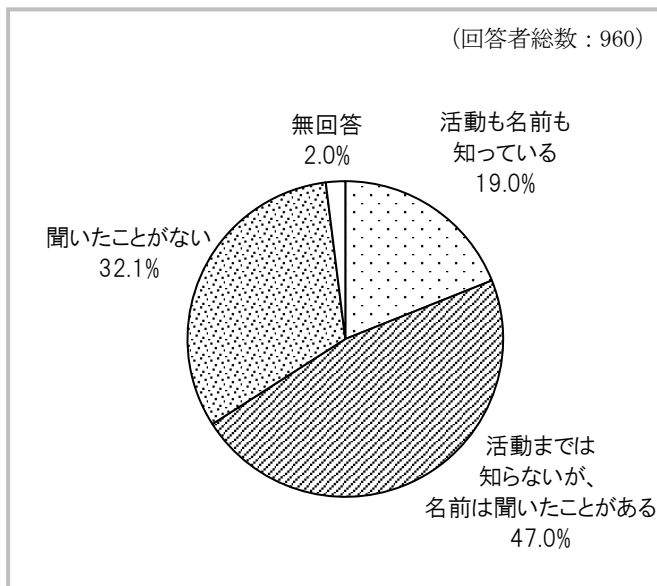


表 社会福祉協議会の周知状況 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	960
項目	回答数 (構成比)
活動も名前も知っている	182 (19.0)
活動までは知らないが、名前は聞いたことがある	451 (47.0)
聞いたことがない	308 (32.1)
無回答	19 (2.0)



時系列比較

「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」は減少傾向にあり、平成26年度は53.2%でしたが、令和元年度に49.8%、令和6年度には47.0%となりました。

一方、「聞いたことがない」は増加傾向にあり、平成26年度は24.7%でしたが、令和元年度に29.7%、令和6年度には32.1%となりました。

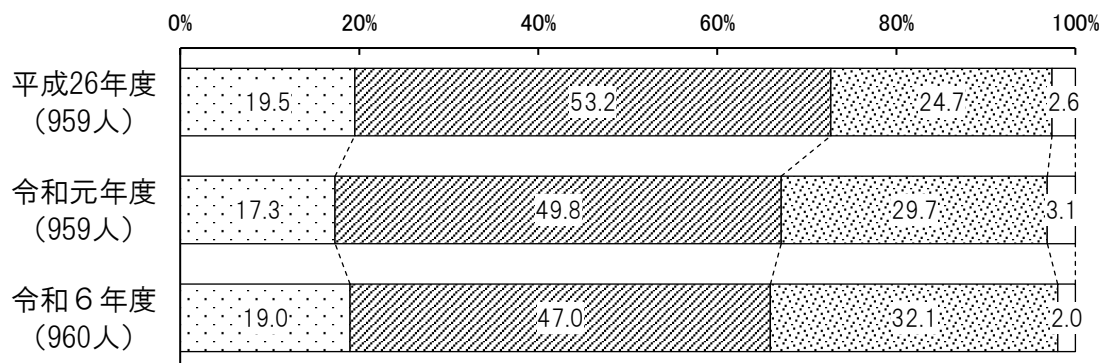
■ 時系列

活動も名前も
知っている

活動までは
知らないが、
名前は聞いた
ことがある

聞いたこと
がない

無回答

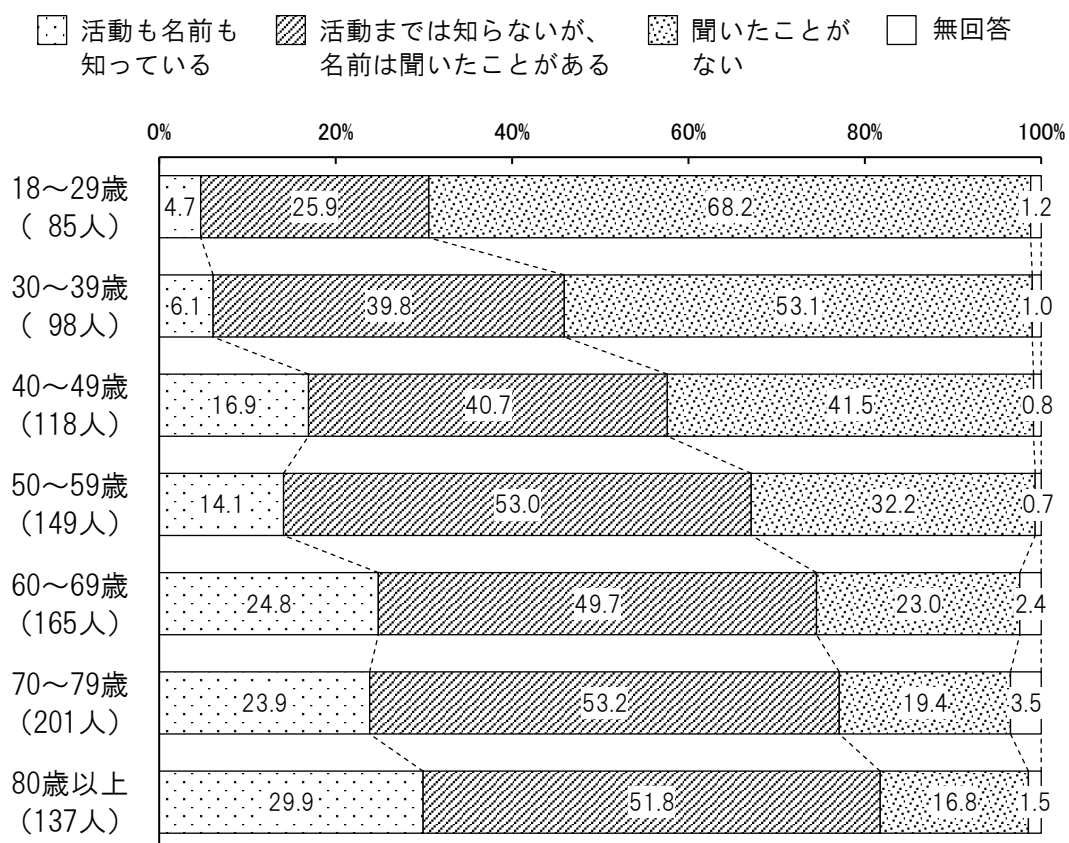


【年齢別】

年齢別にみると、「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」は、50～59歳で53.0%、70～79歳で53.2%、80歳以上で51.8%と多く、名前を聞いたことがある程度という割合が過半数を占めています。

一方、若い年代ほど「聞いたことがない」という割合が多く、18～29歳では68.2%となっています。

■ 年齢別



(3)『福祉の総合相談窓口』の周知状況

問22 白岡市では、「福祉の総合相談窓口」を開設しています。あなたは、「福祉の総合相談窓口」を知っていますか。[1つに○]

福祉の総合相談窓口：「どこに相談したらわからない」など、福祉に関する困りごとや気になることを気軽に相談できる窓口です。窓口、電話、訪問のほか、メールでの相談もできます。

「名前は聞いたことがある」が33.4%

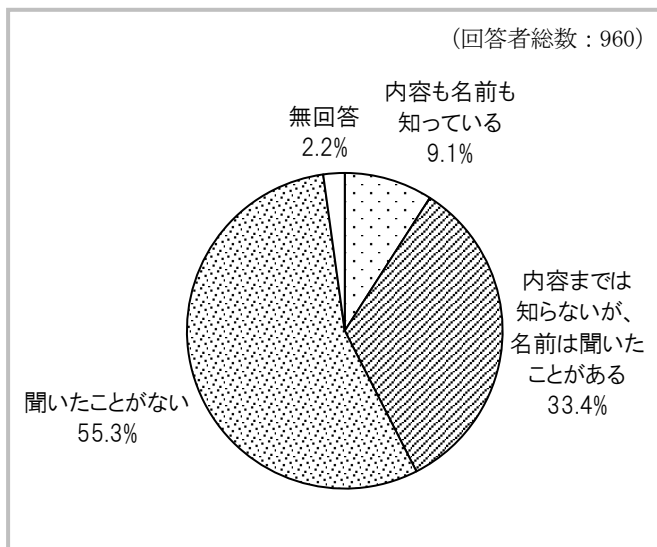
『福祉の総合相談窓口』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が9.1%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が33.4%となっています。一方、「聞いたことがない」は55.3%となっています。

表 『福祉の総合相談窓口』の周知状況

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	87（9.1）
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	321（33.4）
聞いたことがない	531（55.3）
無回答	21（2.2）

図 『福祉の総合相談窓口』の周知状況



(4)『成年後見制度』の周知状況

問23 あなたは、成年後見制度を知っていますか。[1つに○]

成年後見制度：認知症や障がい等で、判断力が十分でない人への法的な支援制度

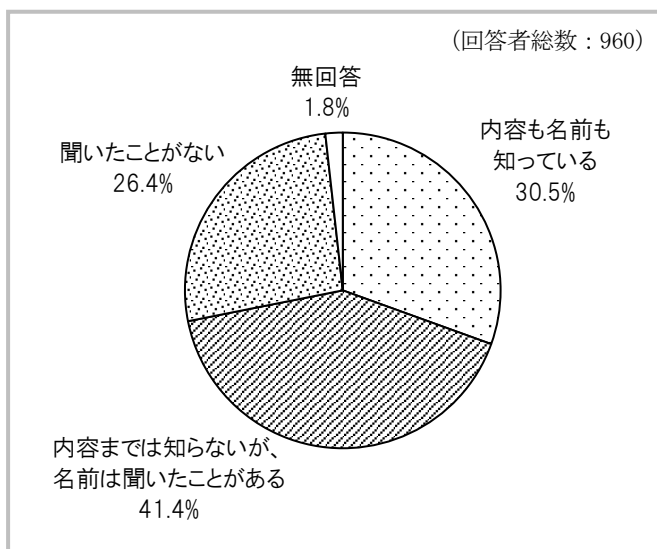
「名前は聞いたことがある」が41.4%

『成年後見制度』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が30.5%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が41.4%となっています。一方、「聞いたことがない」は26.4%となっています。

表 『成年後見制度』の周知状況 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	293（30.5）
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	397（41.4）
聞いたことがない	253（26.4）
無回答	17（1.8）

図 『成年後見制度』の周知状況



(5)『保護司』の周知状況

問24 あなたは、「保護司」を知っていますか。[1つに○]

保護司：犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、法務大臣から委嘱されます。

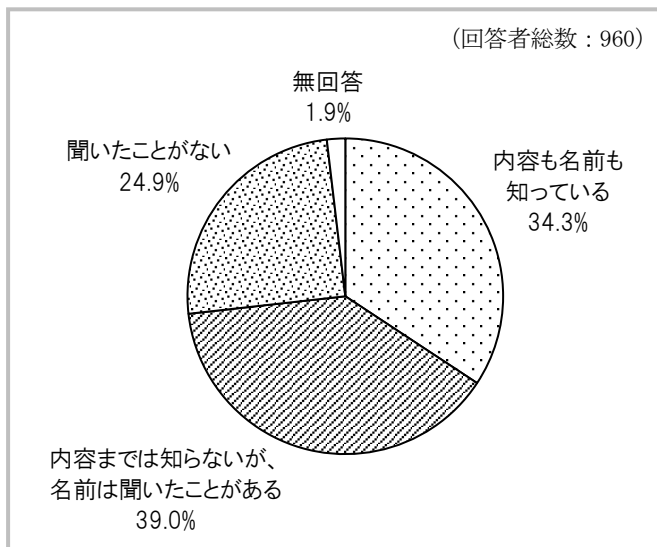
「内容も名前も知っている」が34.3%

『保護司』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が34.3%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が39.0%となっています。一方、「聞いたことがない」は24.9%となっています。

表 『保護司』の周知状況 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	329 (34.3)
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	374 (39.0)
聞いたことがない	239 (24.9)
無回答	18 (1.9)

図 『保護司』の周知状況



(6)『協力雇用主』の周知状況

問25 あなたは、「協力雇用主」を知っていますか。[1つに○]

協力雇用主：自立や社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした人等を雇用、または雇用しようとする民間の事業主です。

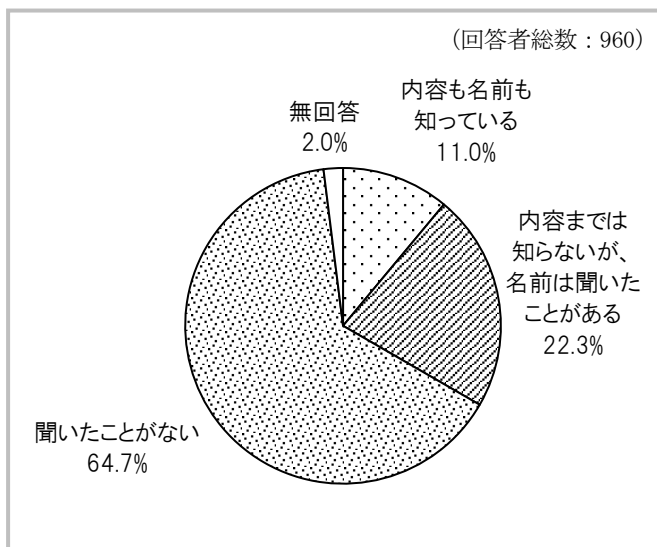
「名前は聞いたことがある」が22.3%

『協力雇用主』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が11.0%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が22.3%となっています。一方、「聞いたことがない」は64.7%となっています。

表 『協力雇用主』の周知状況 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	106 (11.0)
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	214 (22.3)
聞いたことがない	621 (64.7)
無回答	19 (2.0)

図 『協力雇用主』の周知状況



(7)『社会を明るくする運動』の周知状況

問26 あなたは、「社会を明るくする運動」を知っていますか。[1つに○]

社会を明るくする運動：犯罪予防活動と立ち直り支援などにより、犯罪のない明るい社会をみんなで目指す法務省の運動です。

「名前は聞いたことがある」が16.7%

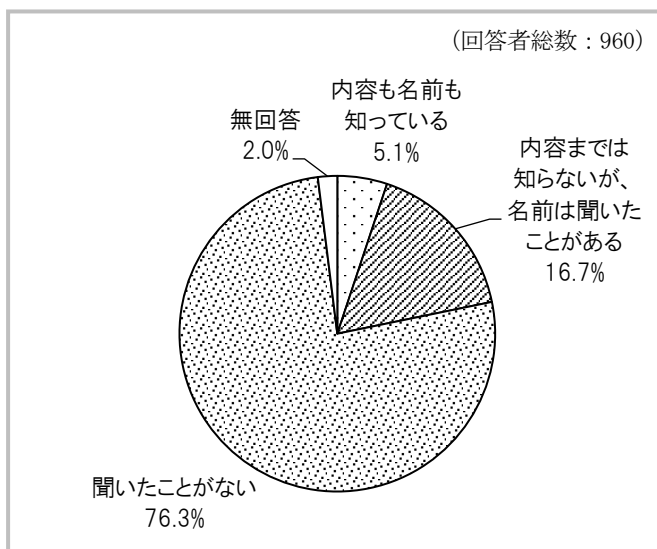
『社会を明るくする運動』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が 5.1%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が16.7%となっています。一方、「聞いたことがない」は76.3%となっています。

表 『社会を明るくする運動』の周知状況

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	49（ 5.1）
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	160（16.7）
聞いたことがない	732（76.3）
無回答	19（ 2.0）

図 『社会を明るくする運動』の周知状況



(8)『福祉の店』の周知状況

問27 あなたは、「福祉の店」を知っていますか。[1つに○]

福祉の店：市役所1階ロビーにある、障害福祉サービス事業所で製造された菓子類や創作品などを展示・販売するコーナーです。

「内容も名前も知っている」が17.4%

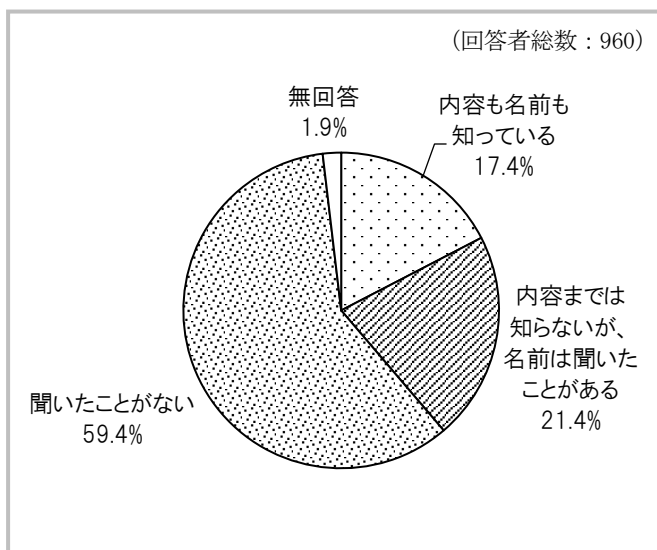
『福祉の店』を知っているかについては、「内容も名前も知っている」が 17.4%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が21.4%となっています。一方、「聞いたことがない」は59.4%となっています。

表 『福祉の店』の周知状況

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
内容も名前も知っている	167（17.4）
内容までは知らないが、名前は聞いたことがある	205（21.4）
聞いたことがない	570（59.4）
無回答	18（ 1.9）

図 『福祉の店』の周知状況



(9) 市や社会福祉協議会の事業の周知状況

問28 市や社会福祉協議会でやっている ア)～シ) のサービスや事業を知っていますか。
[項目ごとに1つずつ○]

『日本赤十字社における活動』や『車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し』を知っている割合は約5割

図 市や社会福祉協議会の事業の周知状況

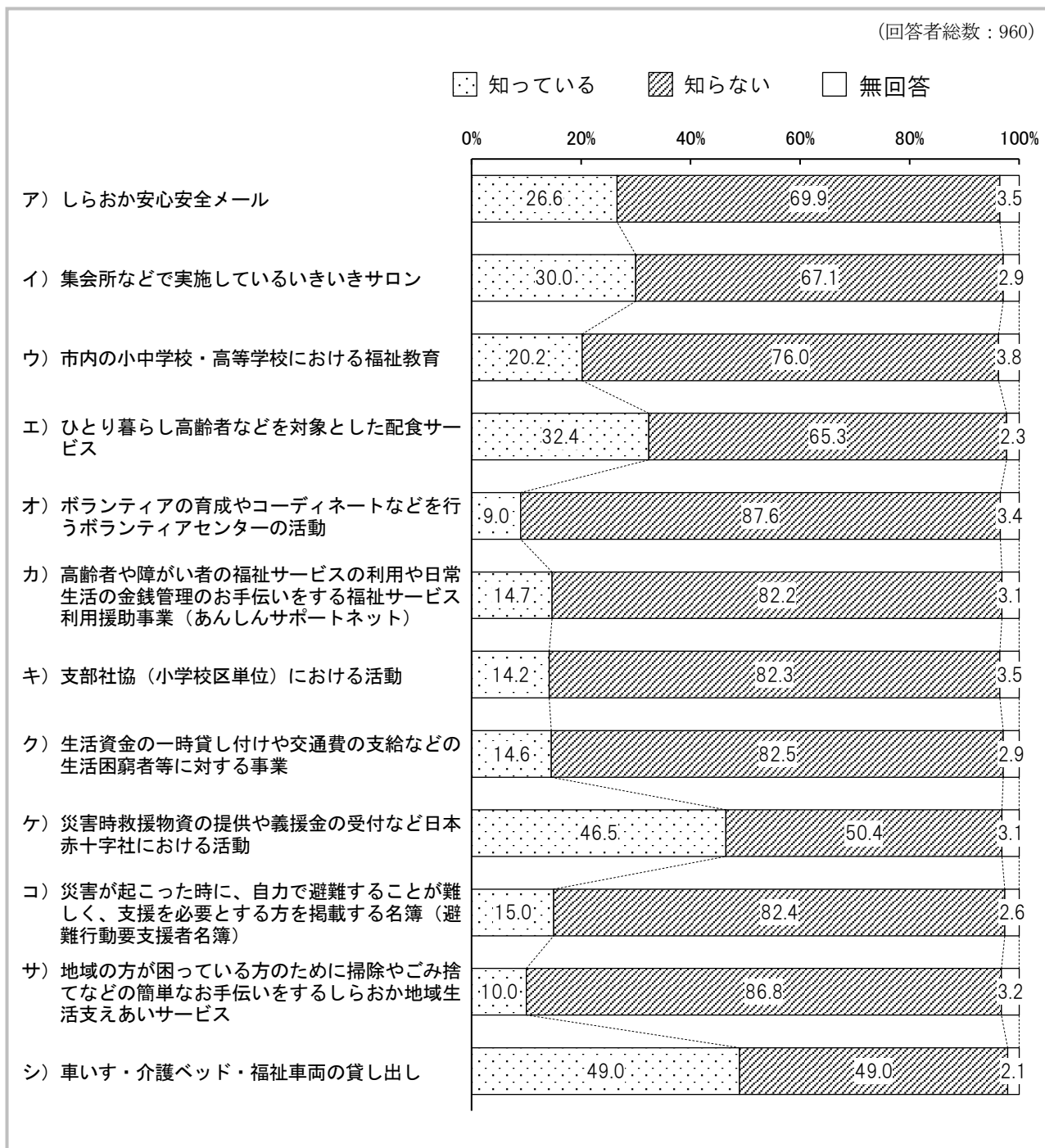


表 市や社会福祉協議会の事業の周知状況

回答者総数：960人 単位：人（％）

	知っている	知らない	無回答
ア) しらおか安心安全メール	255 (26.6)	671 (69.9)	34 (3.5)
イ) 集会所などで実施しているいきいきサロン	288 (30.0)	644 (67.1)	28 (2.9)
ウ) 市内の小中学校・高等学校における福祉教育	194 (20.2)	730 (76.0)	36 (3.8)
エ) ひとり暮らし高齢者などを対象とした配食サービス	311 (32.4)	627 (65.3)	22 (2.3)
オ) ボランティアの育成やコーディネートなどを行うボランティアセンターの活動	86 (9.0)	841 (87.6)	33 (3.4)
カ) 高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートネット）	141 (14.7)	789 (82.2)	30 (3.1)
キ) 支部社協（小学校区単位）における活動	136 (14.2)	790 (82.3)	34 (3.5)
ク) 生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業	140 (14.6)	792 (82.5)	28 (2.9)
ケ) 災害時救援物資の提供や義援金の受付など日本赤十字社における活動	446 (46.5)	484 (50.4)	30 (3.1)
コ) 災害が起こった時に、自力で避難することが難しく、支援を必要とする方を掲載する名簿（避難行動要支援者名簿）	144 (15.0)	791 (82.4)	25 (2.6)
サ) 地域の方が困っている方のために掃除やごみ捨てなどの簡単なお手伝いをするしらおか地域生活支えあいサービス	96 (10.0)	833 (86.8)	31 (3.2)
シ) 車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し	470 (49.0)	470 (49.0)	20 (2.1)

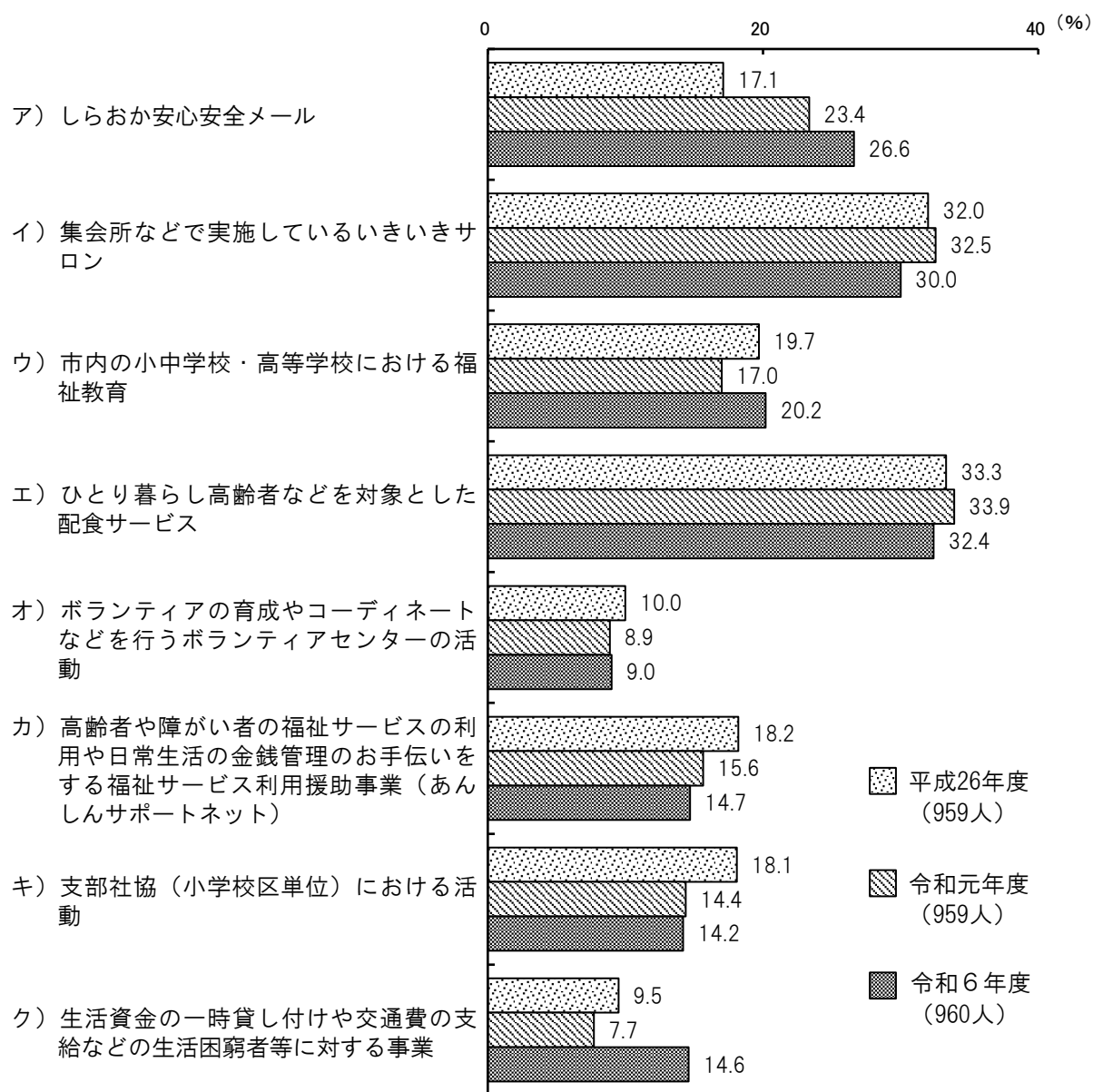
市や社会福祉協議会で行っているサービスや事業について、項目別に周知状況をたずねました。「知っている」という割合が多かった項目は、『車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し』（49.0％）、『災害時救援物資の提供や義援金の受付など日本赤十字社における活動』（46.5％）です。

一方、「知っている」という割合が少なかった項目は、『ボランティアの育成やコーディネートなどを行うボランティアセンターの活動』（9.0％）、『地域の方が困っている方のために掃除やごみ捨てなどの簡単なお手伝いをするしらおか地域生活支えあいサービス』（10.0％）です。

時系列比較

平成26年度、令和元年度に調査した項目（ア～ク）について「知っている」の割合について比較しました。「しらおか安心安全メール」は増加傾向にあり、平成26年度は17.1%でしたが、令和元年度に23.4%、令和6年度には26.6%となっています。「高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートネット）」は減少傾向にあり、平成26年度は18.2%でしたが、令和元年度に15.6%、令和6年度には14.7%となっています。また、「生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業」は、令和元年度の7.7%から令和6年度の14.6%に増加しました。

■ 時系列（「知っている」の割合）



【年齢別】

年齢別に「知っている」の割合をみると、「しらおか安心安全メール」については、40～49歳、50～59歳で約4割となり、70～79歳では20.4%、80歳以上では11.7%と少なくなっています。

また、「集会所などで実施しているいきいきサロン」については50歳以上で3割以上となっています。「市内の小中学校・高等学校における福祉教育」については、18～29歳で34.1%となっています。「ひとり暮らし高齢者などを対象とした配食サービス」については、50歳以上で3～4割となっています。「災害時救援物資の提供や義援金の受付など日本赤十字社における活動」や「車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し」については、30歳以上で3～6割となっています。

■ 年齢別（「知っている」の割合）

単位：％

	18～29歳 (85人)	30～39歳 (98人)	40～49歳 (118人)	50～59歳 (149人)	60～69歳 (165人)	70～79歳 (201人)	80歳以上 (137人)
ア) しらおか安心安全メール	24.7	22.4	37.3	40.3	29.7	20.4	11.7
イ) 集会所などで実施しているいきいきサロン	12.9	29.6	24.6	34.9	30.9	31.8	36.5
ウ) 市内の小中学校・高等学校における福祉教育	34.1	25.5	28.0	25.5	17.0	11.4	11.7
エ) ひとり暮らし高齢者などを対象とした配食サービス	11.8	20.4	21.2	30.2	36.4	43.8	41.6
オ) ボランティアの育成やコーディネートなどを行うボランティアセンターの活動	7.1	5.1	5.9	10.7	9.1	10.9	10.2
カ) 高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートネット）	10.6	9.2	14.4	16.8	18.8	16.4	10.9
キ) 支部社協（小学校区単位）における活動	5.9	12.2	11.0	14.1	15.2	16.9	19.0
ク) 生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業	10.6	12.2	22.9	16.1	15.8	11.4	12.4
ケ) 災害時救援物資の提供や義援金の受付など日本赤十字社における活動	25.9	31.6	43.2	42.3	53.9	56.7	53.3
コ) 災害が起こった時に、自力で避難することが難しく、支援を必要とする方を掲載する名簿（避難行動要支援者名簿）	12.9	7.1	12.7	15.4	17.6	16.9	17.5
サ) 地域の方が困っている方のために掃除やごみ捨てなどの簡単なお手伝いをするしらおか地域生活支えあいサービス	4.7	9.2	9.3	16.1	7.9	10.0	10.2
シ) 車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し	28.2	36.7	43.2	45.0	48.5	60.2	63.5

(10) 福祉に関する情報源

問29 福祉に関する情報を主にどこから得ていますか。[あてはまるものすべてに○]

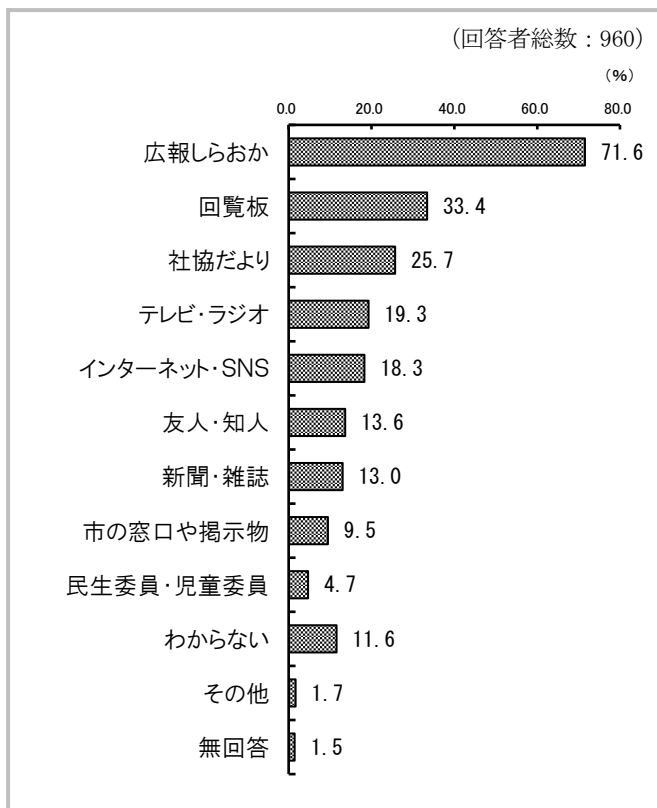
「広報しらおか」が71.6%で最も多い

福祉に関する情報を主にどこから得ているかについては、「広報しらおか」が71.6%で最も多く、続いて「回覧板」が33.4%、「社協だより」が25.7%となっています。

表 福祉に関する情報源 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
広報しらおか	687 (71.6)
回覧板	321 (33.4)
社協だより	247 (25.7)
テレビ・ラジオ	185 (19.3)
インターネット・SNS	176 (18.3)
友人・知人	131 (13.6)
新聞・雑誌	125 (13.0)
市の窓口や掲示物	91 (9.5)
民生委員・児童委員	45 (4.7)
わからない	111 (11.6)
その他	16 (1.7)
無回答	14 (1.5)

図 福祉に関する情報源



【年齢別】

年齢別にみると、どの年代でも「広報しらおか」が最も多くなっています。「社協だより」は若い年代では少なく、高年齢層ほど多くなっていますが、「新聞・雑誌」や「民生委員・児童委員」についても同様の傾向がみられます。「インターネット・SNS」は、18～29歳から60～69歳の年代で2～3割となっています。

■ 年齢別

単位：％

	広報しらおか	回覧板	社協だより	テレビ・ラジオ	インターネット・SNS	友人・知人	新聞・雑誌	市の窓口や掲示物	民生委員・児童委員	わからない	その他	無回答
18～29歳 (85人)	41. 2	23. 5	2. 4	7. 1	23. 5	7. 1	1. 2	10. 6	0. 0	31. 8	4. 7	0. 0
30～39歳 (98人)	67. 3	28. 6	13. 3	9. 2	22. 4	11. 2	2. 0	11. 2	0. 0	20. 4	1. 0	0. 0
40～49歳 (118人)	77. 1	28. 8	16. 1	9. 3	28. 0	14. 4	3. 4	7. 6	0. 8	11. 0	0. 8	0. 0
50～59歳 (149人)	66. 4	24. 2	20. 8	18. 1	29. 5	13. 4	9. 4	16. 1	2. 0	12. 8	2. 0	0. 7
60～69歳 (165人)	79. 4	34. 5	30. 3	22. 4	20. 6	11. 5	16. 4	9. 1	4. 8	6. 7	0. 6	0. 6
70～79歳 (201人)	78. 6	42. 3	35. 3	23. 4	8. 0	18. 4	19. 4	6. 5	8. 0	6. 0	0. 5	3. 0
80歳以上 (137人)	74. 5	42. 3	43. 1	32. 8	3. 6	15. 3	26. 3	6. 6	12. 4	6. 6	2. 9	3. 6

(11) 困ったときの相談先

問30 あなたは、生活上のことで困ったことがあったとき、主にだれに（どこに）相談や手助けを頼みますか。[あてはまるものすべてに○]

「身近にいる家族」が81.0%で最も多い

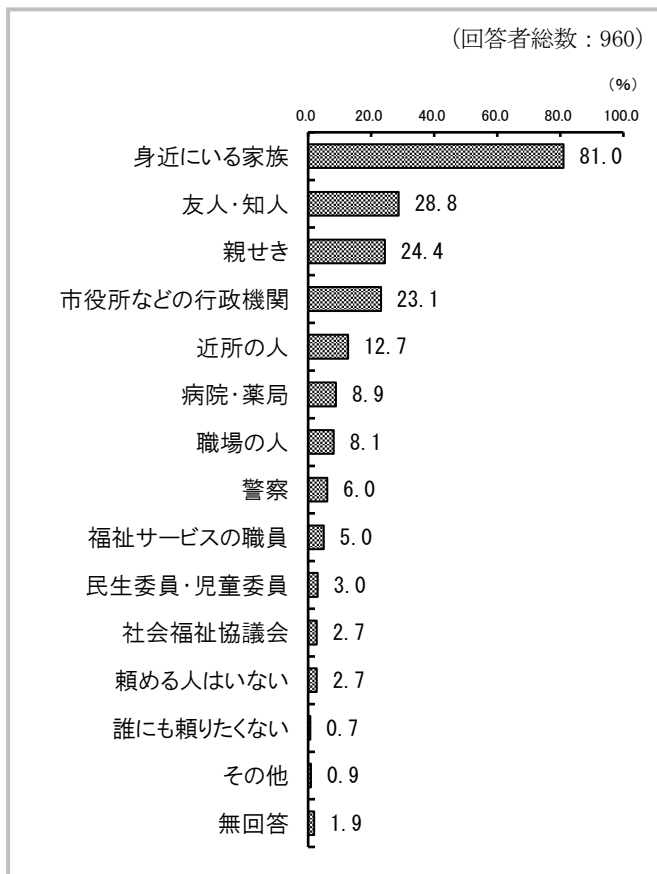
生活上のことで困ったことがあったとき、主にだれに（どこに）相談や手助けを頼むかについては、「身近にいる家族」が81.0%で最も多く、続いて「友人・知人」が28.8%、「親せき」が24.4%となっています。

一方、「頼める人はいない」は2.7%、「誰にも頼りたくない」は0.7%となっています。

表 困ったときの相談先 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
身近にいる家族	778 (81.0)
友人・知人	276 (28.8)
親せき	234 (24.4)
市役所などの行政機関	222 (23.1)
近所の人	122 (12.7)
病院・薬局	85 (8.9)
職場の人	78 (8.1)
警察	58 (6.0)
福祉サービスの職員	48 (5.0)
民生委員・児童委員	29 (3.0)
社会福祉協議会	26 (2.7)
頼める人はいない	26 (2.7)
誰にも頼りたくない	7 (0.7)
その他	9 (0.9)
無回答	18 (1.9)

図 困ったときの相談先



【年齢別】

年齢別にみると、どの年代でも「身近にいる家族」が最も多くなっています。2番目に多いのは、18～29歳、30～39歳、40～49歳では「友人・知人」、60～69歳では「友人・知人」と「市役所などの行政機関」、70～79歳では「親せき」、80歳以上では「親せき」と「近所の人」となっています。

■ 年齢別

単位：％

	身近にいる家族	友人・知人	親せき	市役所などの行政機関	近所の人	病院・薬局	職場の人	警察	福祉サービスの職員	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	頼める人はいない	誰にも頼りたくない	その他	無回答
18～29歳 (85人)	90.6	45.9	15.3	10.6	3.5	8.2	11.8	4.7	2.4	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (98人)	93.9	40.8	23.5	17.3	9.2	8.2	16.3	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
40～49歳 (118人)	85.6	36.4	25.4	29.7	8.5	5.9	19.5	2.5	4.2	1.7	5.1	2.5	0.0	0.8	1.7
50～59歳 (149人)	79.2	25.5	26.2	26.8	7.4	9.4	12.8	7.4	4.7	1.3	2.7	4.0	2.0	0.7	0.0
60～69歳 (165人)	75.2	25.5	23.6	25.5	9.7	6.7	4.2	7.3	7.3	3.0	3.0	5.5	1.2	1.2	1.2
70～79歳 (201人)	75.1	24.9	29.4	26.4	22.4	9.5	1.0	4.5	7.5	5.5	1.0	0.5	0.5	1.0	3.0
80歳以上 (137人)	80.3	16.8	20.4	18.2	20.4	13.1	0.7	11.7	5.1	6.6	6.6	2.2	0.0	2.2	5.1

5 地域福祉に対する考え方について

地域福祉とは

地域において人々が安心して暮らせるよう、住民、団体、企業、行政がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決等に取り組む考え方です。具体的には、法律等の制度に基づき提供される公的福祉サービスや住民・ボランティア団体などによる支え合いの取組などを相互に生かしながら、住民の福祉ニーズに応じていくものです。

(1) 『地域福祉』の認知度

問31 あなたは、上に書いてあるような意味での『地域福祉』という言葉を知っていましたか。
[1つに○]

知っていたという割合は47.1%

図 『地域福祉』の認知度

(回答者総数：960)

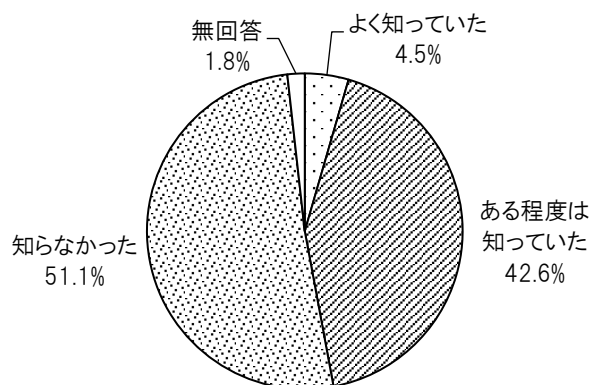


表 『地域福祉』の認知度 単位：人（%）

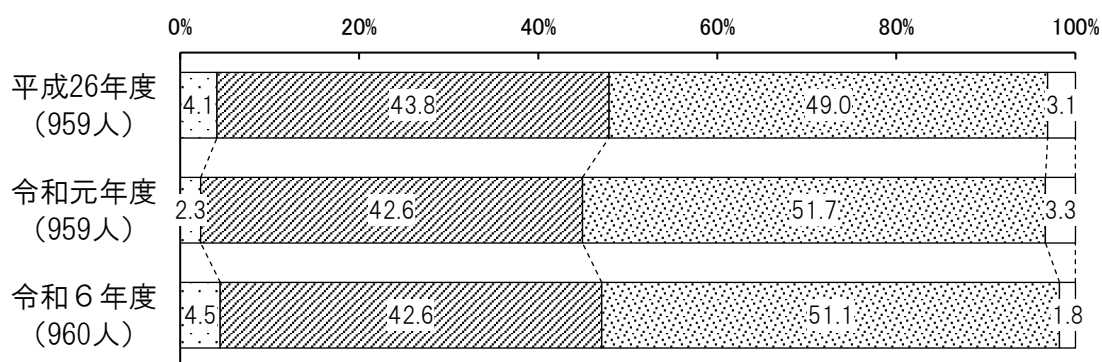
回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
よく知っていた	43（4.5）
ある程度は知っていた	409（42.6）
知らなかった	491（51.1）
無回答	17（1.8）

時系列比較

「よく知っていた」、「ある程度は知っていた」、「知らなかった」の各割合は、わずかに増減はありますが、大きな変化はありませんでした。

■ 時系列

よく知っていた ある程度は知っていた 知らなかった 無回答

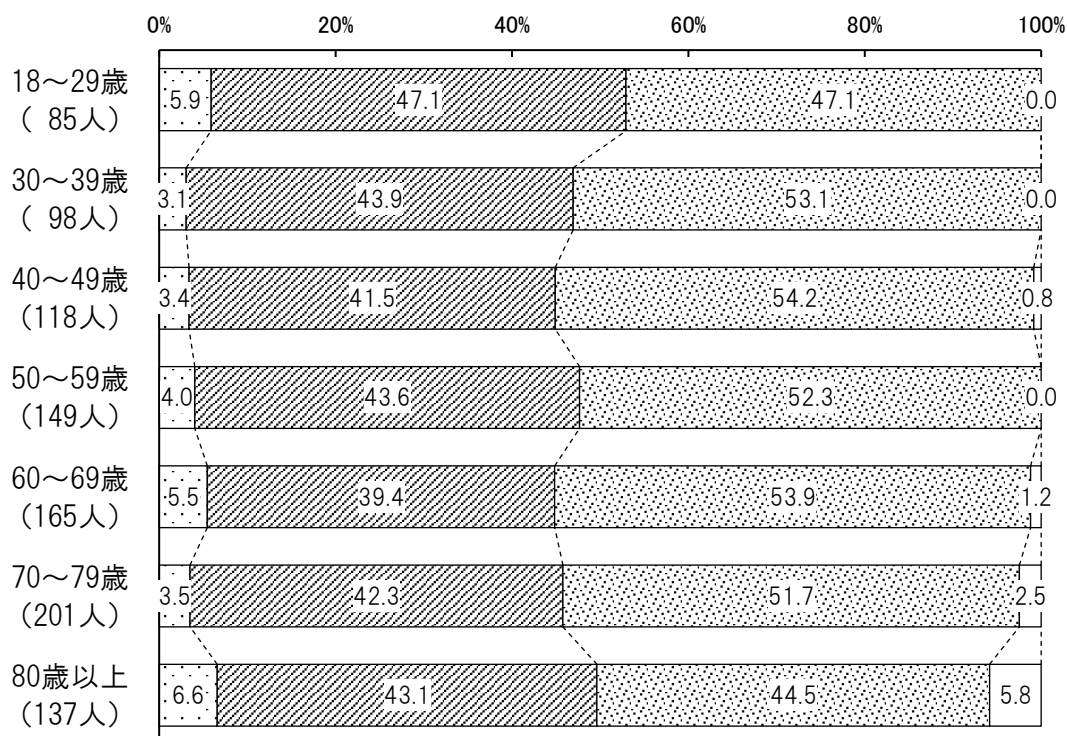


【年齢別】

年齢別にみると、「よく知っていた」と「ある程度は知っていた」を合わせた割合は、18～29歳では53.0%で最も多い年代となっています。「知らなかった」という割合は、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70～79歳では50%を超えて多くなっています。

■ 年齢別

よく知っていた ある程度は知っていた 知らなかった 無回答



(2)『地域福祉』推進の必要性

問32 『地域福祉』を推進することが必要だと思いますか。[1つに○]

「必要だと思う」が76.9%

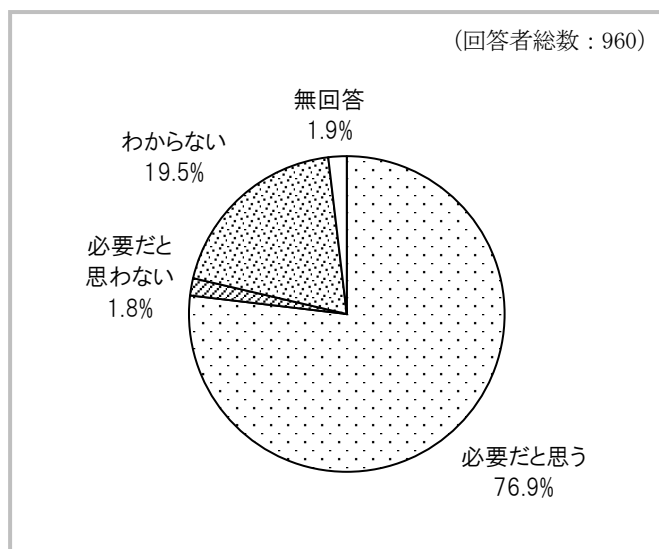
『地域福祉』を推進することが必要だと思うかについては、「必要だと思う」が76.9%で多くなっています。

一方、「必要だと思わない」は1.8%、「わからない」は19.5%となっています。

表 『地域福祉』推進の必要性 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
必要だと思う	738 (76.9)
必要だと思わない	17 (1.8)
わからない	187 (19.5)
無回答	18 (1.9)

図 『地域福祉』推進の必要性

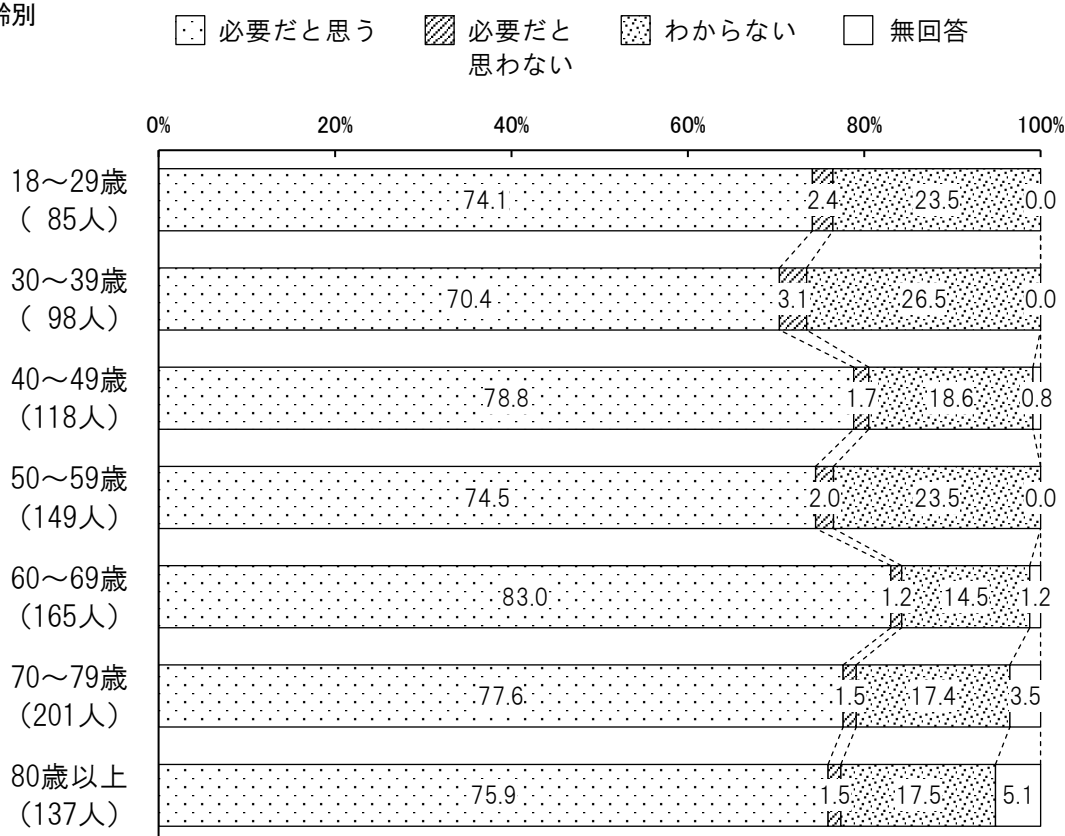


【年齢別】

年齢別にみると、「必要だと思う」は各年代で70%を超えて多くっており、特に60～69歳では83.0%で多くなっています。

また、「わからない」は30～39歳で26.5%となっており、最も多い年代となっています。

■ 年齢別



(3)『地域福祉』に対する考え方

問33 『地域福祉』と聞いて、あなたの考え方に近いものはどれですか。[1つに○]

「行政と市民などがお互いに協力し支え合う」が
64.1%

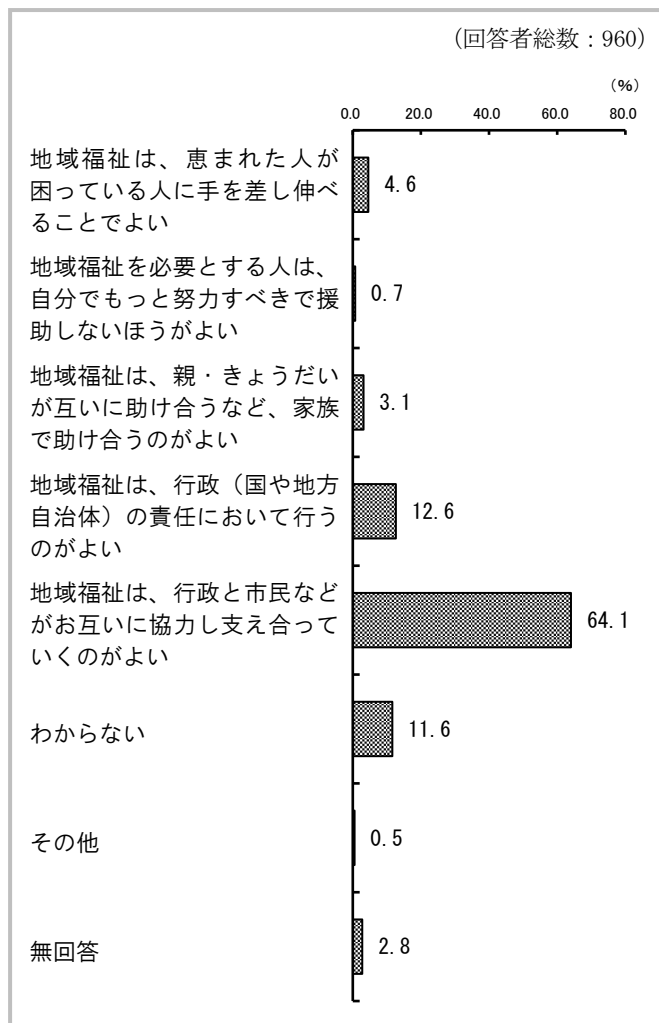
『地域福祉』に対する考え方については、「地域福祉は行政と市民などが、お互いに協力し支え合っていくのがよい」が64.1%で最も多くなっています。

また、「地域福祉は行政（国や地方自治体）の責任において行うのがよい」は12.6%となっています。

表 『地域福祉』に対する考え方 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
地域福祉は、恵まれた人が困っている人に手を差し伸べることでよい	44（4.6）
地域福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきで援助しないほうがよい	7（0.7）
地域福祉は、親・きょうだいが互いに助け合うなど、家族で助け合うのがよい	30（3.1）
地域福祉は、行政（国や地方自治体）の責任において行うのがよい	121（12.6）
地域福祉は、行政と市民などがお互いに協力し支え合っていくのがよい	615（64.1）
わからない	111（11.6）
その他	5（0.5）
無回答	27（2.8）

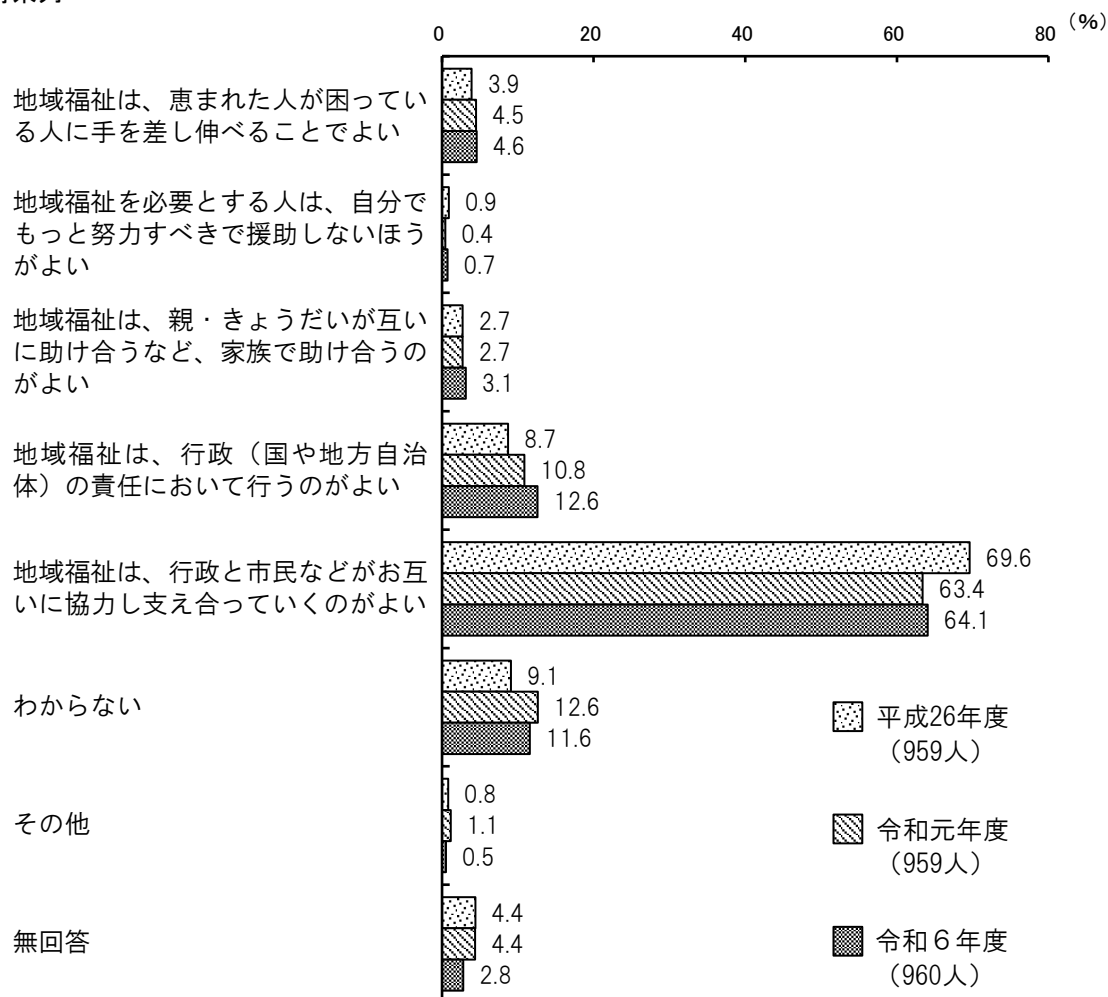
図 『地域福祉』に対する考え方



時系列比較

「地域福祉は、行政と市民などがお互いに協力し支え合っていくのがよい」は、平成26年度の69.6%から減少し、令和元年度に63.4%、令和6年度には64.1%となっています。

■ 時系列



(4) 地域での支え合いの評価

問34 あなたから見て、白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。[1つに○]

「やっている」という評価は41.3%

白岡市における地域の支え合いや助け合いについての評価については、「よくやっていると思う」が 4.6%、「どちらかといえばやっていると思う」が36.7%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は41.3%となっています。

一方、「あまりやっていないと思う」は 40.5%、「やっていないと思う」は 9.8%で、これらを合わせると、「やっていない」という割合は50.3%となっています。

図 地域での支え合いの評価

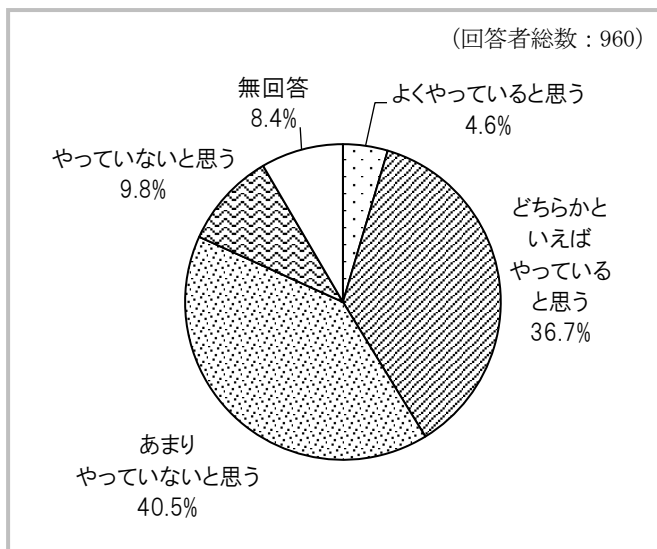


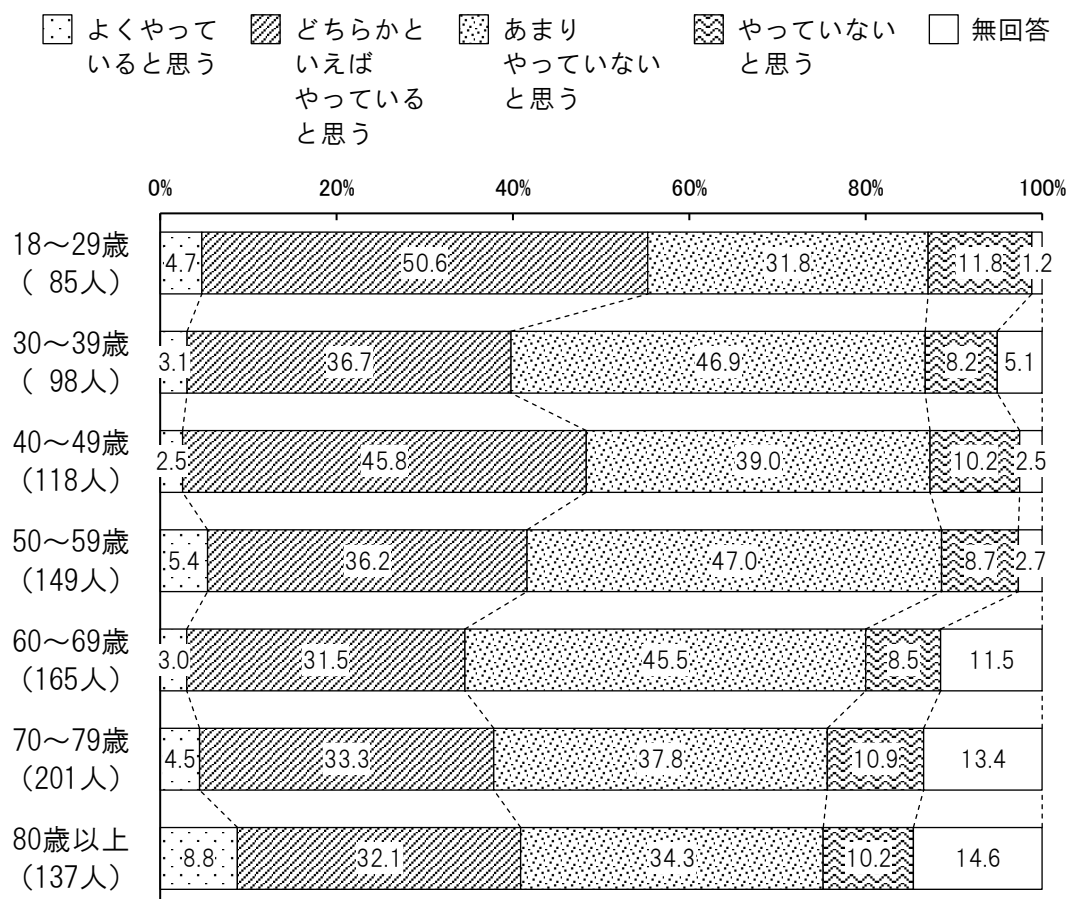
表 地域での支え合いの評価 単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項 目	回答数（構成比）
よくやっていると思う	44（ 4.6）
どちらかといえばやっていると思う	352（36.7）
あまりやっていないと思う	389（40.5）
やっていないと思う	94（ 9.8）
無回答	81（ 8.4）

【年齢別】

年齢別にみると、「よくやっていると思う」と「どちらかといえばやっていると思う」を合わせた割合は、18～29歳では55.3%となり、最も多い年代となっています。一方、60～69歳では34.5%で、最も少ない年代となっています。18～29歳の55.3%と60～69歳の34.5%を比較すると、20.8ポイントの差があります。

■ 年齢別

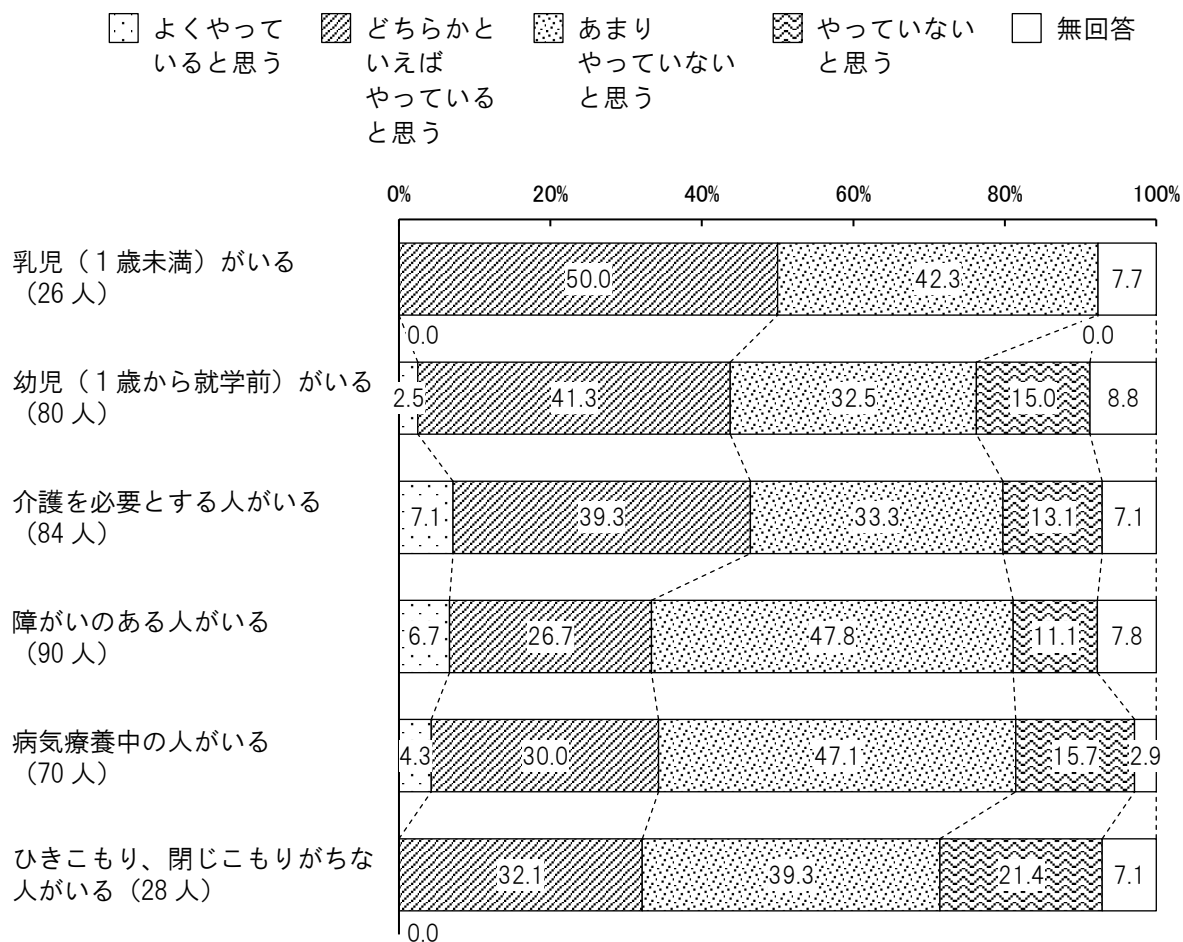


【家族状況別】

家族状況別にみると、乳児がいる世帯では「どちらかといえばやっていると思う」が50.0%で多くなっていますが、「あまりやっていないと思う」も42.3%となっています。

また、ひきこもり、閉じこもりがちな人がある世帯では、「やっていないと思う」が21.4%で、多くなっています。

■ 家族状況別

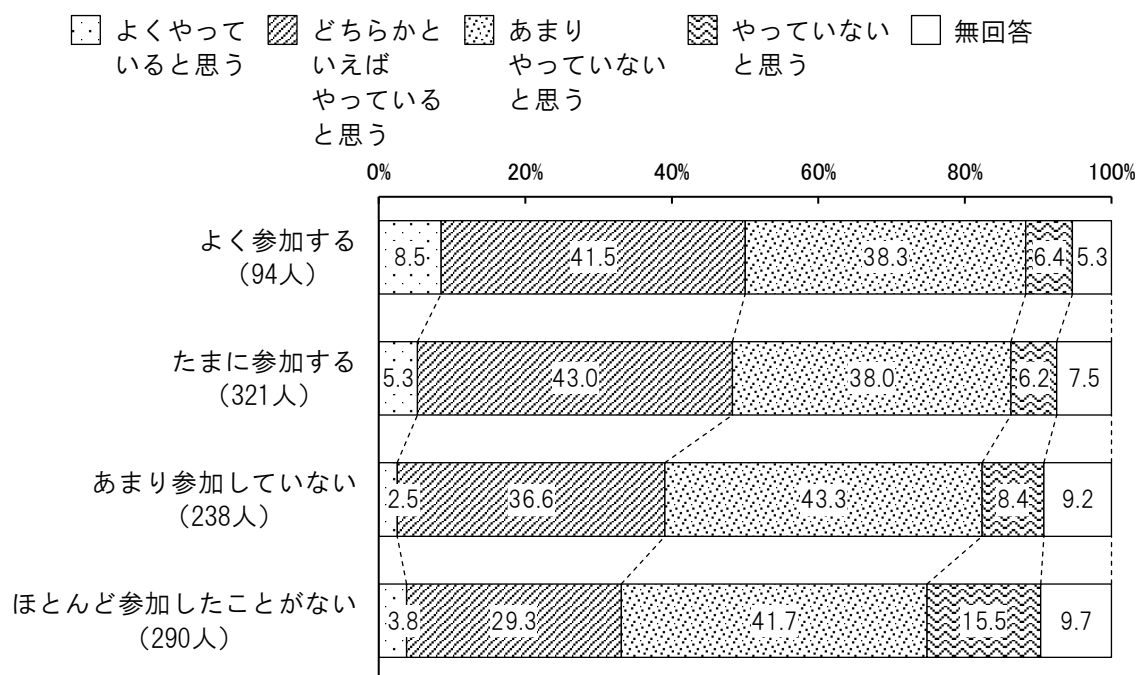




設問間クロス集計

地域行事等への参加状況別にみると、『よく参加する』という人では「よくやっていると思う」と「どちらかといえばやっていると思う」を合わせると50.0%で半数を占めています。一方、『ほとんど参加したことがない』という人では、「やっていないと思う」が15.5%で他の参加状況より多くなっています。

■ 問 11 地域行事等への参加状況別



(5) 障がいがある人に対する差別や偏見

問35 暮らしの中で、病気や障がいのある人などに対する差別や偏見を感じることはありますか。
[1つに○]

「感じたことはないが、あると思う」が51.3%

暮らしの中で、病気や障がいのある人などに対する差別や偏見を感じることはあるかについては、「感じることもある」が15.9%、「感じたことはないが、あると思う」が51.3%となっています。

一方、「特に感じない」は30.3%となっています。

図 障がいがある人に対する差別や偏見

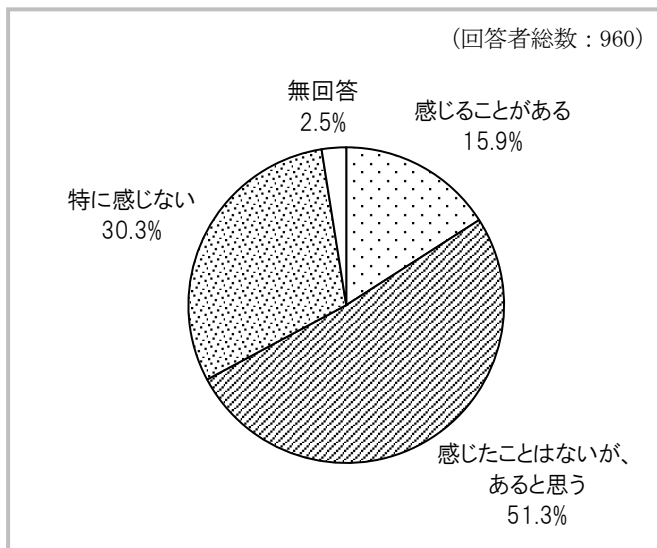


表 障がいがある人に対する差別や偏見

単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
感じることもある	153（15.9）
感じたことはないが、あると思う	492（51.3）
特に感じない	291（30.3）
無回答	24（2.5）



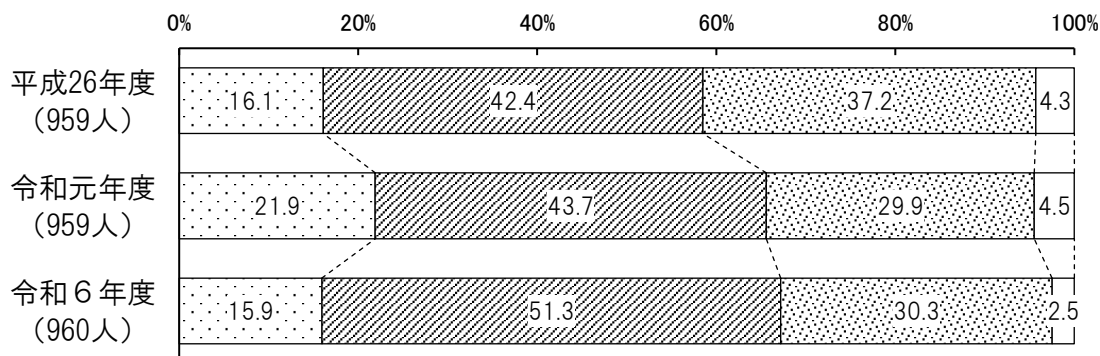
時系列比較

「感じることもある」は、平成26年度の16.1%から増加して令和元年度は21.9%となりましたが、令和6年度には減少して15.9%となっています。

「感じたことはないが、あると思う」は増加傾向にあり、平成26年度の42.4%から令和6年度の51.3%になっています。

■ 時系列

感じることもある
 感じたことはないが、あると思う
 特に感じない
 無回答



(6) 白岡市の住みよさ意識

問36 白岡市は住みよいまちだと感じますか。[1つに○]

「住みよい」は約8割

白岡市は住みよいまちだと感じるかについては、「とても住みよい」が15.9%、「まあまあ住みよい」が65.6%で、これらを合わせると、住みよいと感じている割合は81.5%となっています。

一方、「あまり住みよくない」は12.3%、「住みよくない」は3.6%で、これらを合わせると、住みよくないと感じている割合は15.9%となっています。

図 白岡市の住みよさ意識

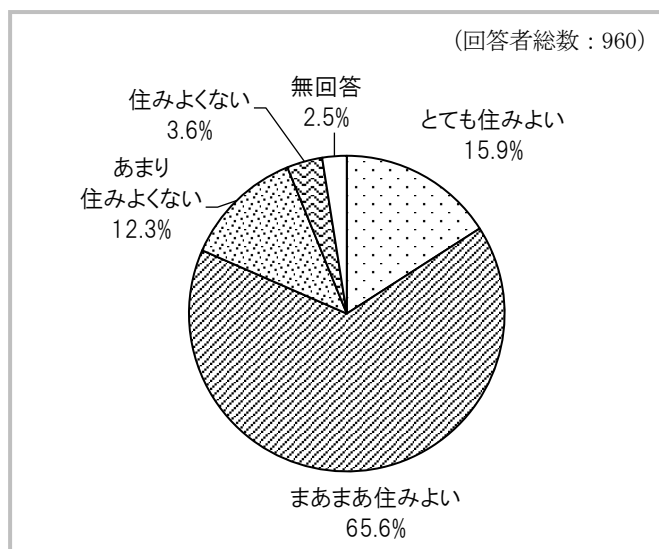


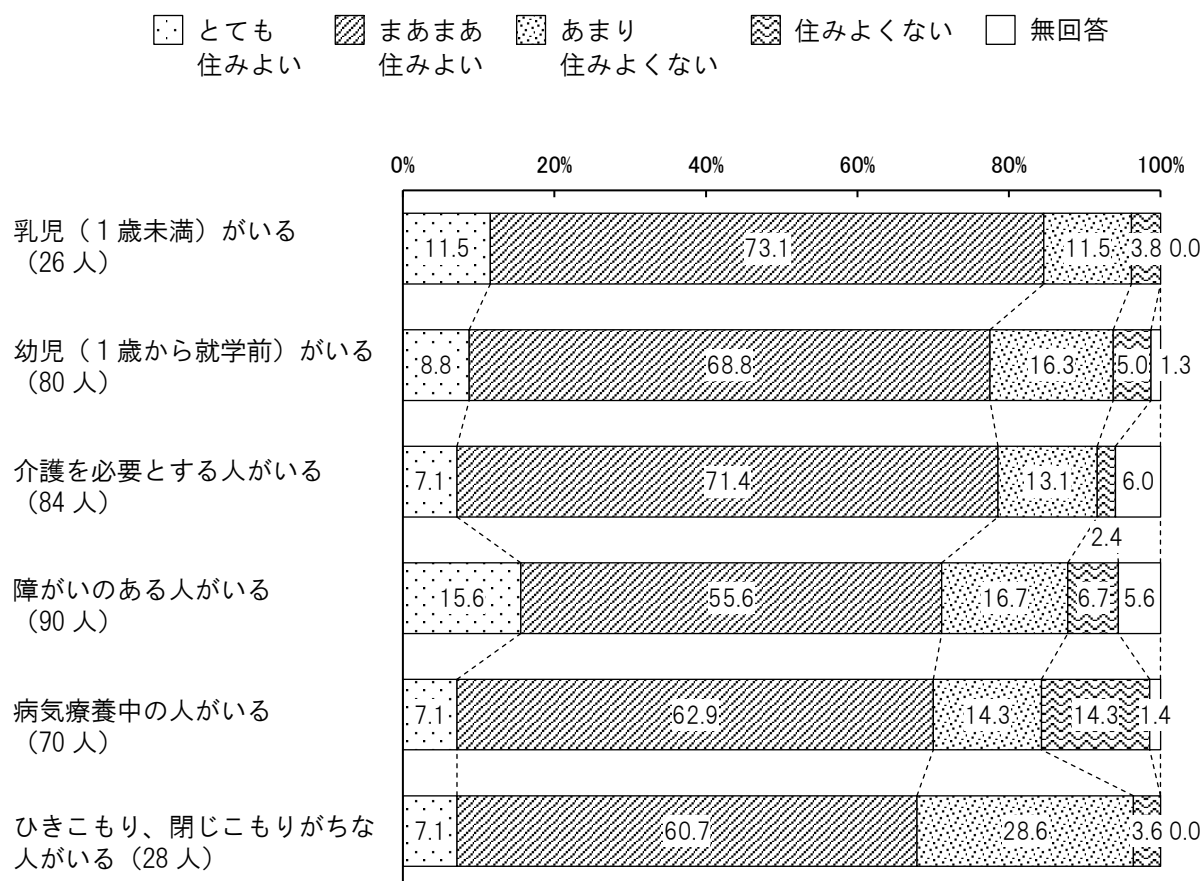
表 白岡市の住みよさ意識 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	960
項 目	回答数 (構成比)
とても住みよい	153 (15.9)
まあまあ住みよい	630 (65.6)
あまり住みよくない	118 (12.3)
住みよくない	35 (3.6)
無回答	24 (2.5)

【家族状況別】

家族状況別にみると、「とても住みよい」が、乳児がいる世帯では11.5%、障がいのある人がいる世帯では15.6%となっています。「とても住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせると、乳児がいる世帯では84.6%となり多くなっています。また、「あまり住みよくない」と「住みよくない」を合わせた割合は、病気療養中の人がある世帯では28.6%、ひきこもり、閉じこもりがちな人がある世帯では32.2%となっています。

■ 家族状況別



(7) 地域福祉を推進していくために重要なこと

問37 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。[3つ以内で○]

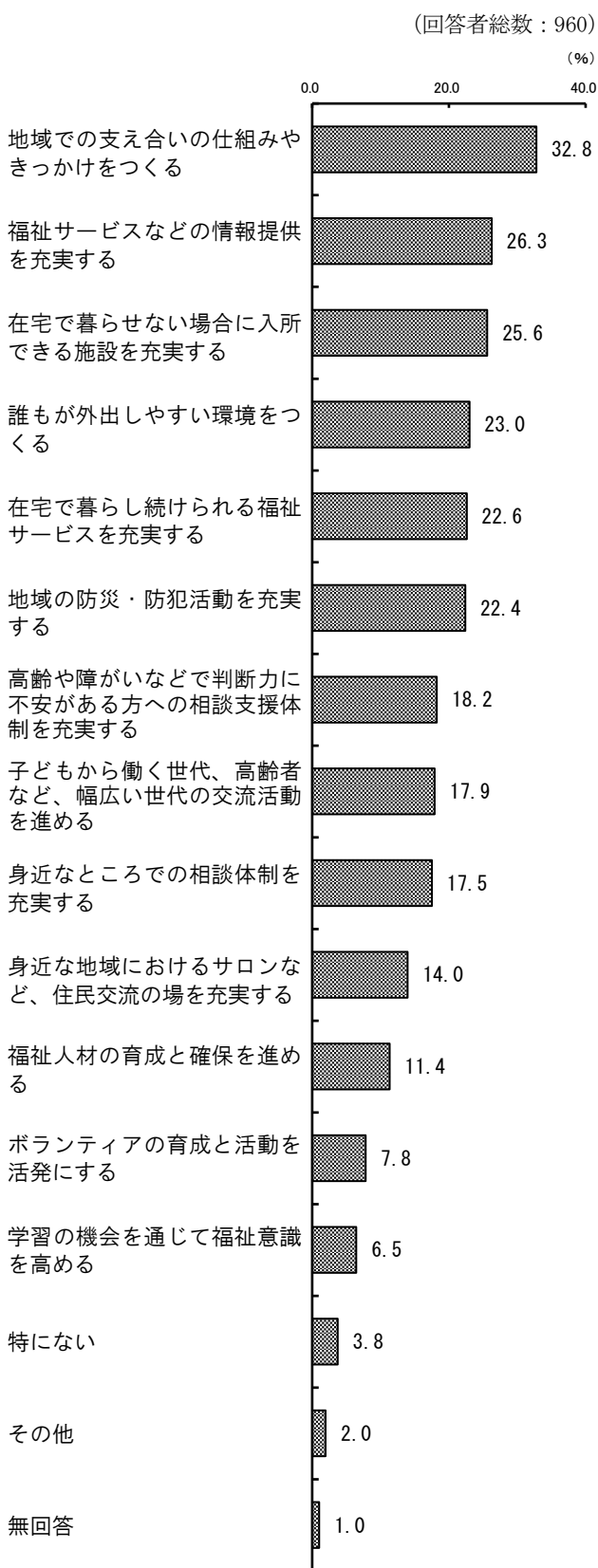
「支え合いの仕組みやきっかけ」が32.8%で最も多い

白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことについては、「地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる」が32.8%で最も多く、続いて「福祉サービスなどの情報提供を充実する」が26.3%、「在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する」が25.6%となっています。

表 地域福祉を推進していくために重要なこと
単位：人（%）

回答者総数（人）	960
項目	回答数（構成比）
地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	315 (32.8)
福祉サービスなどの情報提供を充実する	252 (26.3)
在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	246 (25.6)
誰もが外出しやすい環境をつくる	221 (23.0)
在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	217 (22.6)
地域の防災・防犯活動を充実する	215 (22.4)
高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	175 (18.2)
子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	172 (17.9)
身近なところでの相談体制を充実する	168 (17.5)
身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	134 (14.0)
福祉人材の育成と確保を進める	109 (11.4)
ボランティアの育成と活動を活発にする	75 (7.8)
学習の機会を通じて福祉意識を高める	62 (6.5)
特にない	36 (3.8)
その他	19 (2.0)
無回答	10 (1.0)

図 地域福祉を推進していくために重要なこと



【年齢別】

年齢別にみると、18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳では、「地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる」が最も多くなっています。70～79歳では、「在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する」が35.3%、80歳以上では「在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する」が38.0%で最も多くなっています。

また、30～39歳、40～49歳では、「子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める」が約3割で他の年代より多くなっています。

■ 年齢別

単位：％

	地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	福祉サービスなどの情報提供を充実する	在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	誰もが外出しやすい環境をつくる	在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	地域の防災・防犯活動を充実する	高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	身近なところでの相談体制を充実する	身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	福祉人材の育成と確保を進める	ボランティアの育成と活動を活発にする	学習の機会を通じて福祉意識を高める	特にない	その他	無回答
18～29歳 (85人)	38.8	15.3	9.4	29.4	12.9	16.5	11.8	23.5	12.9	16.5	9.4	10.6	9.4	7.1	2.4	0.0
30～39歳 (98人)	40.8	13.3	19.4	23.5	11.2	22.4	6.1	30.6	19.4	10.2	15.3	9.2	13.3	7.1	2.0	1.0
40～49歳 (118人)	41.5	21.2	13.6	22.0	11.0	27.1	16.9	30.5	8.5	12.7	7.6	8.5	12.7	1.7	5.1	0.0
50～59歳 (149人)	38.3	28.2	22.8	27.5	16.8	18.8	17.4	13.4	22.1	10.7	10.7	10.1	6.0	4.7	0.7	2.0
60～69歳 (165人)	32.7	32.1	29.7	15.2	23.6	20.6	20.6	15.2	18.2	12.7	14.5	8.5	4.2	4.2	1.2	0.6
70～79歳 (201人)	27.9	33.3	35.3	23.4	31.3	24.9	18.9	12.9	17.4	15.9	12.4	6.0	2.0	1.5	2.0	1.0
80歳以上 (137人)	18.2	24.1	33.6	24.1	38.0	24.1	29.2	10.9	20.4	19.0	8.8	4.4	3.6	2.9	1.5	1.5

【家族状況別】

家族状況別にみると、乳児がいる世帯と幼児がいる世帯では、「地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる」が最も多くなっています。介護を必要とする人がいる世帯では、「在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する」が34.5%で多く、障がいのある人がいる世帯では、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」と「在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する」、「在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する」の3項目が30.0%の同率で多くなっています。病気療養中の人がいる世帯とひきこもり、閉じこもりがちな人がある世帯では、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」が約4割で多くなっています。

■ 家族状況別

単位：％

	地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	福祉サービスなどの情報提供を充実する	在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	誰もが外出しやすい環境をつくる	在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	地域の防災・防犯活動を充実する	高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	身近なところでの相談体制を充実する	身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	福祉人材の育成と確保を進める	ボランティアの育成と活動を活発にする	学習の機会を通じて福祉意識を高める	特になし	その他	無回答
乳児（1歳未満）がいる（26人）	50.0	26.9	15.4	23.1	7.7	19.2	3.8	30.8	23.1	11.5	19.2	15.4	3.8	7.7	0.0	0.0
幼児（1歳から就学前）がいる（80人）	38.8	15.0	15.0	22.5	12.5	23.8	7.5	36.3	16.3	12.5	12.5	5.0	12.5	8.8	2.5	2.5
介護を必要とする人がいる（84人）	25.0	29.8	32.1	25.0	34.5	15.5	25.0	11.9	17.9	16.7	17.9	9.5	2.4	0.0	4.8	0.0
障がいのある人がいる（90人）	28.9	30.0	30.0	20.0	30.0	21.1	26.7	17.8	16.7	13.3	12.2	7.8	8.9	2.2	3.3	1.1
病気療養中の人がある（70人）	22.9	41.4	24.3	24.3	27.1	22.9	21.4	15.7	18.6	10.0	10.0	11.4	2.9	4.3	4.3	1.4
ひきこもり、閉じこもりがちな人がある（28人）	28.6	42.9	35.7	17.9	28.6	17.9	14.3	10.7	28.6	10.7	10.7	14.3	0.0	3.6	0.0	0.0

Ⅲ 民生委員・児童委員アンケート調査結果

Ⅲ 民生委員・児童委員アンケート調査結果

1 回答者の属性等について

(1) 地区（小学校区）

問1 担当している地域はどちらの小学校区ですか。[1つに○]

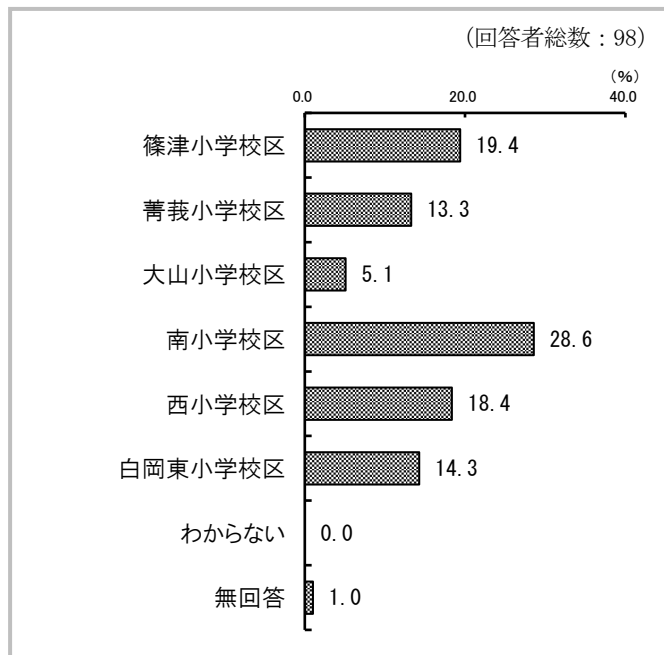
南小学校区が最も多い

担当している地域については、「南小学校区」が28.6%で多くなっています。

表 地区（小学校区） 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
篠津小学校区	19 (19.4)
菁莪小学校区	13 (13.3)
大山小学校区	5 (5.1)
南小学校区	28 (28.6)
西小学校区	18 (18.4)
白岡東小学校区	14 (14.3)
わからない	0 (0.0)
無回答	1 (1.0)

図 地区（小学校区）



(2) 経験年数

問2 民生委員の経験年数は。[1つに○]

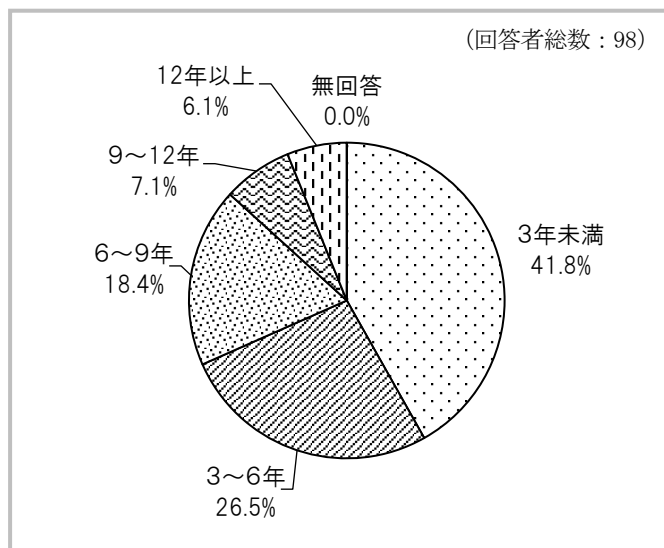
「3年未満」が41.8%

経験年数については、「3年未満」が41.8%で最も多く、続いて「3～6年」が26.5%、「6～9年」が18.4%となっています。

表 経験年数 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
3年未満	41 (41.8)
3～6年	26 (26.5)
6～9年	18 (18.4)
9～12年	7 (7.1)
12年以上	6 (6.1)
無回答	0 (0.0)

図 経験年数



2 活動について

(1) 地域で問題と感ずること

問3 地域で気になること、問題と感ずることがあります。〔あてはまるものすべてに○〕

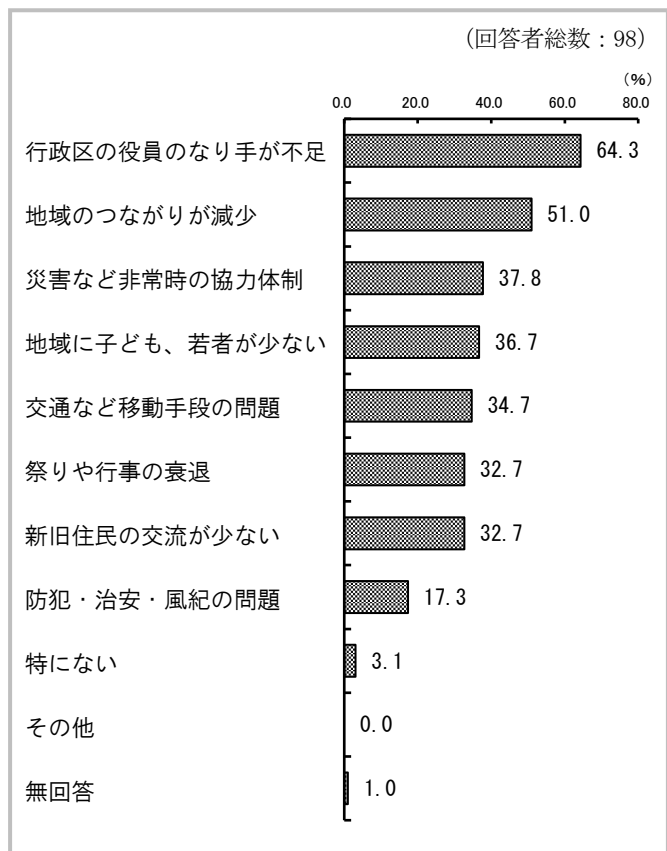
「行政区の役員のなり手が不足」が64.3%で最も多い

地域で気になること、問題と感ずることについては、「行政区の役員のなり手が不足」が64.3%で最も多く、続いて「地域のつながりが減少」が51.0%、「災害など非常時の協力体制」が37.8%となっています。

表 地域で問題と感ずること 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項目	回答数（構成比）
行政区の役員のなり手が不足	63 (64.3)
地域のつながりが減少	50 (51.0)
災害など非常時の協力体制	37 (37.8)
地域に子ども、若者が少ない	36 (36.7)
交通など移動手段の問題	34 (34.7)
祭りや行事の衰退	32 (32.7)
新旧住民の交流が少ない	32 (32.7)
防犯・治安・風紀の問題	17 (17.3)
特にない	3 (3.1)
その他	0 (0.0)
無回答	1 (1.0)

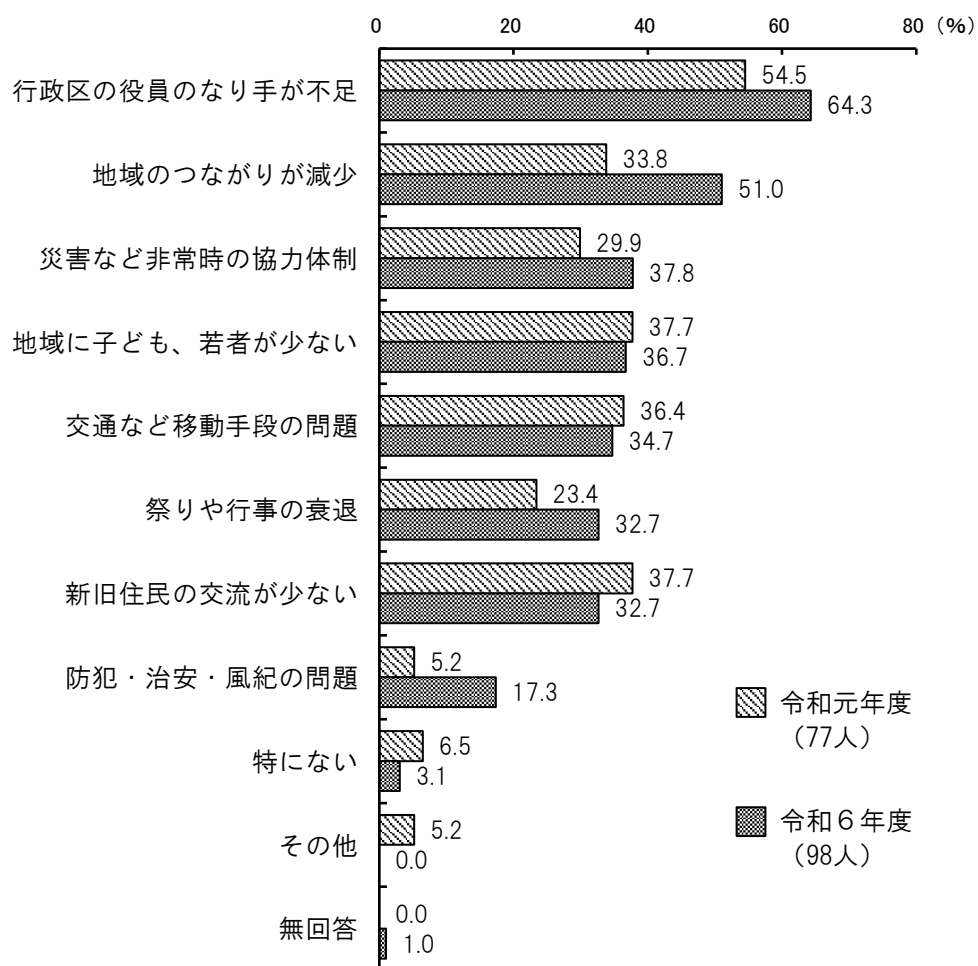
図 地域で問題と感ずること



時系列比較

「地域のつながりが減少」については、令和元年度と令和6年度を比較すると、令和元年度の33.8%から令和6年度の51.0%に減少し、一方で「防犯・治安・風紀の問題」については、令和元年度の5.2%から令和6年度の17.3%に増加しました。

■ 時系列



(2) 気がかりな人の有無

問4 地域の中で、次のような、見守り等が必要な人や気にかかる人（何らかの課題を抱えている人）はいらっしゃいますか。[あてはまるものすべてに○]

「高齢者のひとり暮らしの世帯」が80.6%

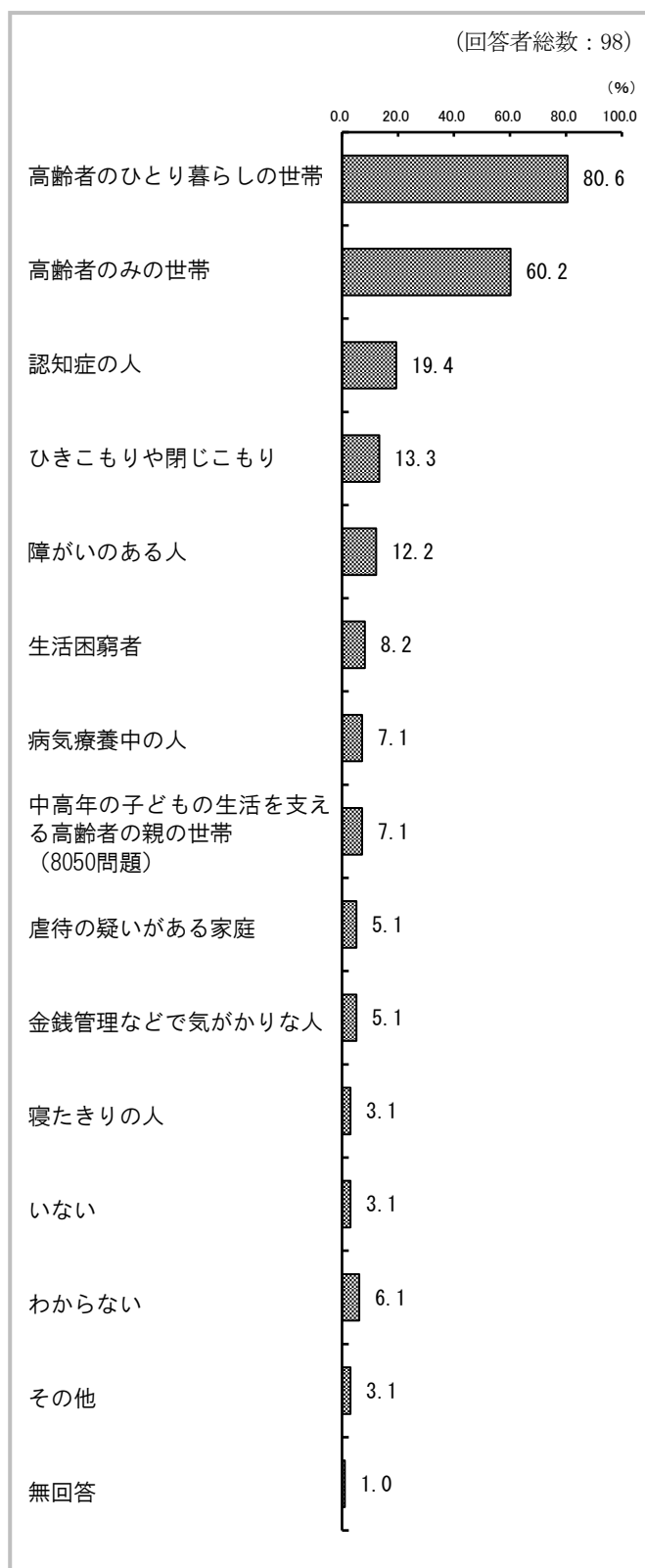
地域で見守り等が必要な人の状況については、「高齢者のひとり暮らしの世帯」が80.6%で最も多く、続いて「高齢者のみの世帯」が60.2%、「認知症の人」が19.4%となっています。また、「ひきこもりや閉じこもり」は13.3%となっています。

表 気がかりな人の有無

単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
高齢者のひとり暮らしの世帯	79 (80.6)
高齢者のみの世帯	59 (60.2)
認知症の人	19 (19.4)
ひきこもりや閉じこもり	13 (13.3)
障がいのある人	12 (12.2)
生活困窮者	8 (8.2)
病気療養中の人	7 (7.1)
中高年の子どもの生活を支える 高齢者の親の世帯（8050問題）	7 (7.1)
虐待の疑いがある家庭	5 (5.1)
金銭管理などで気がかりな人	5 (5.1)
寝たきりの人	3 (3.1)
いない	3 (3.1)
わからない	6 (6.1)
その他	3 (3.1)
無回答	1 (1.0)

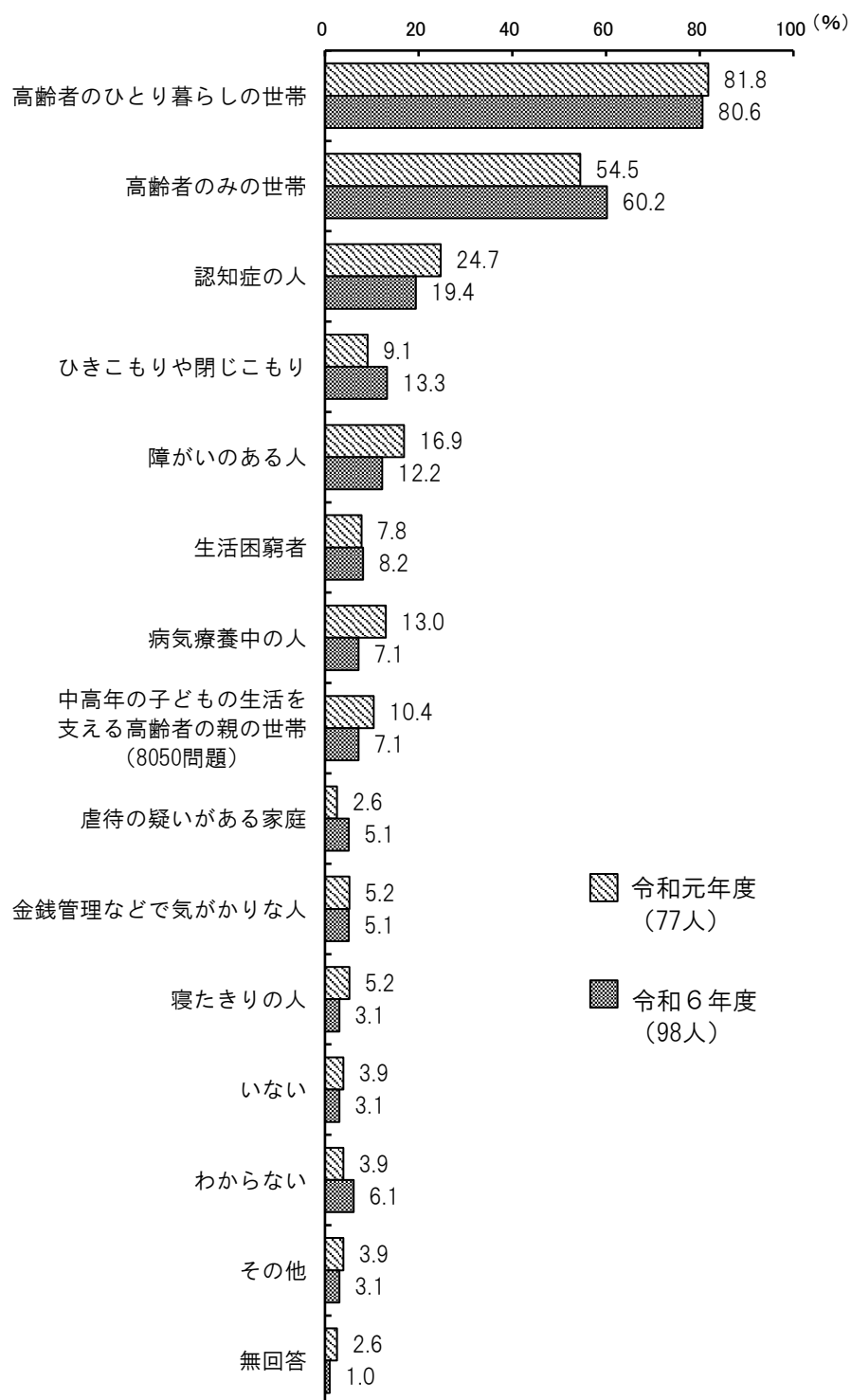
図 気がかりな人の有無



時系列比較

「高齢者のみの世帯」、「ひきこもりや閉じこもり」、「生活困窮者」、「虐待の疑いがある家庭」について、令和元年度の割合より令和6年度の割合がそれぞれ微増となっています。

■ 時系列



(3) 住民同士で手助けがあるといいもの

問5 近所や地域の人同士で手助けがあるといいと思うものはありますか。
[あてはまるものすべてに○]

「安否確認の声かけ」が70.4%で最も多い

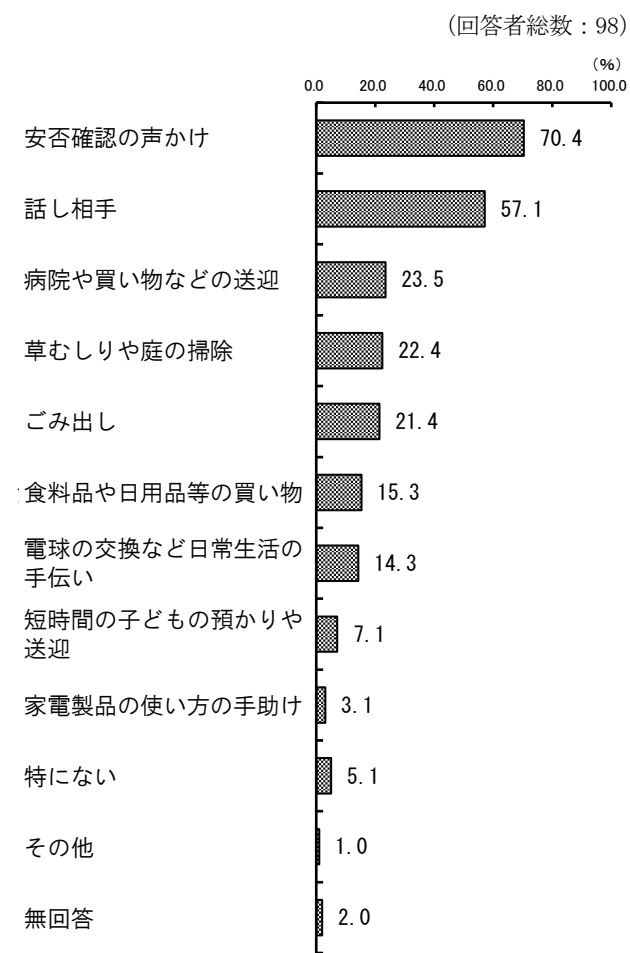
近所や地域の人同士で手助けがあるといいと思うものについては、「安否確認の声かけ」が70.4%で最も多く、続いて「話し相手」が57.1%、「病院や買い物などの送迎」が23.5%となっています。

表 住民同士で手助けがあるといいもの

単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
安否確認の声かけ	69 (70.4)
話し相手	56 (57.1)
病院や買い物などの送迎	23 (23.5)
草むしりや庭の掃除	22 (22.4)
ごみ出し	21 (21.4)
食料品や日用品等の買い物	15 (15.3)
電球の交換など日常生活の手伝い	14 (14.3)
短時間の子どもの預かりや送迎	7 (7.1)
家電製品の使い方の手助け	3 (3.1)
特にない	5 (5.1)
その他	1 (1.0)
無回答	2 (2.0)

図 住民同士で手助けがあるといいもの



(4) 活動を行う上での課題

問6 活動を行う上で、課題と覚えることなどあります。〔あてはまるものすべてに○〕

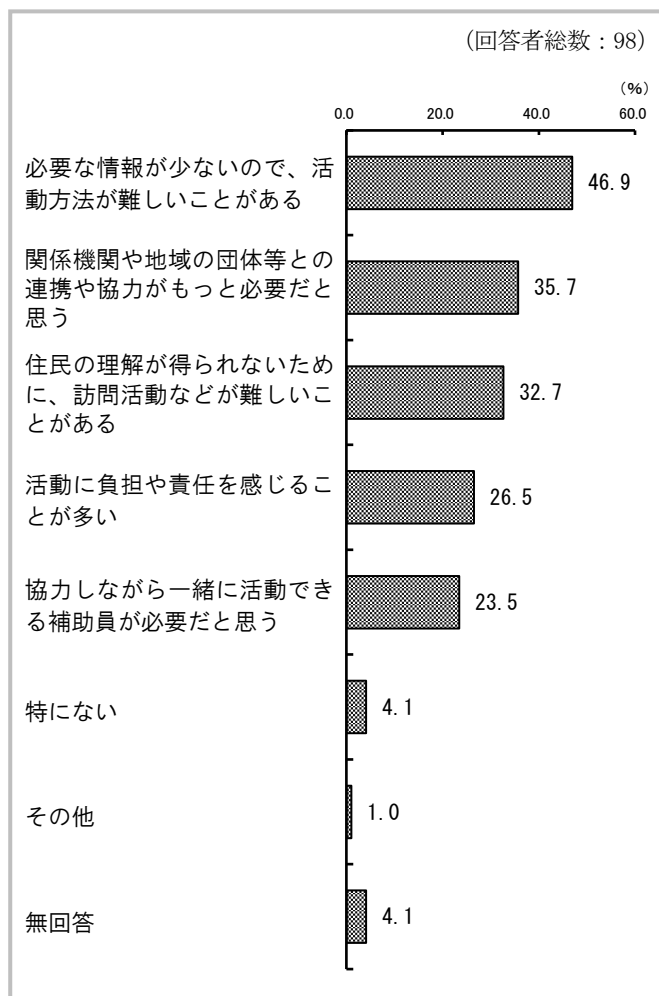
「必要な情報が少ない」が46.9%で最も多い

民生委員・児童委員活動を行う上で課題と覚えることについては、「必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある」が46.9%で最も多く、続いて「関係機関や地域の団体等との連携や協力がもっと必要だと思う」が35.7%、「住民の理解が得られないために、訪問活動などが難しいことがある」が32.7%となっています。

表 活動を行う上での課題

単位：人（％）	
回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある	46（46.9）
関係機関や地域の団体等との連携や協力がもっと必要だと思う	35（35.7）
住民の理解が得られないために、訪問活動などが難しいことがある	32（32.7）
活動に負担や責任を覚えることが多い	26（26.5）
協力しながら一緒に活動できる補助員が必要だと思う	23（23.5）
特にない	4（4.1）
その他	1（1.0）
無回答	4（4.1）

図 活動を行う上での課題



(5) 連携を強化したいところ

問7 今後の見守り活動の上で、もっと連携を強化したいと思うところはどこですか。
[3つ以内で○]

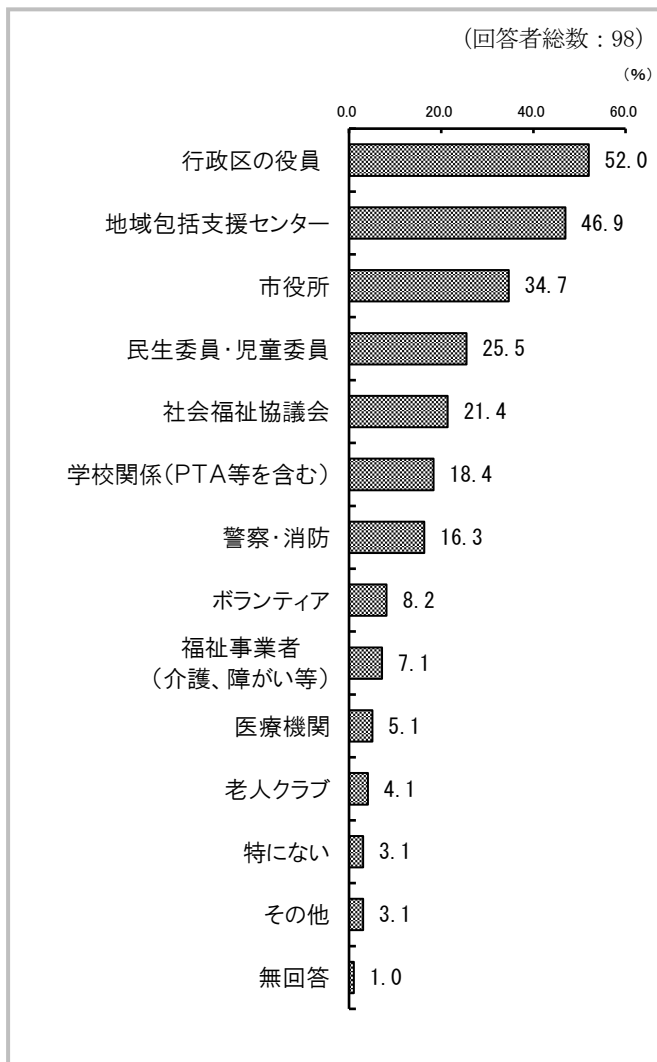
「行政区の役員」が52.0%で最も多い

見守り活動の上で、もっと連携を強化したいと思うところについては、「行政区の役員」が52.0%で最も多く、続いて「地域包括支援センター」が46.9%、「市役所」が34.7%となっています。

表 連携を強化したいところ 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
行政区の役員	51 (52.0)
地域包括支援センター	46 (46.9)
市役所	34 (34.7)
民生委員・児童委員	25 (25.5)
社会福祉協議会	21 (21.4)
学校関係（PTA等を含む）	18 (18.4)
警察・消防	16 (16.3)
ボランティア	8 (8.2)
福祉事業者（介護、障がい等）	7 (7.1)
医療機関	5 (5.1)
老人クラブ	4 (4.1)
特にない	3 (3.1)
その他	3 (3.1)
無回答	1 (1.0)

図 連携を強化したいところ



(6) 利用している情報サービス

問8 普段、利用している情報サービスはありますか。[あてはまるものすべてに○]

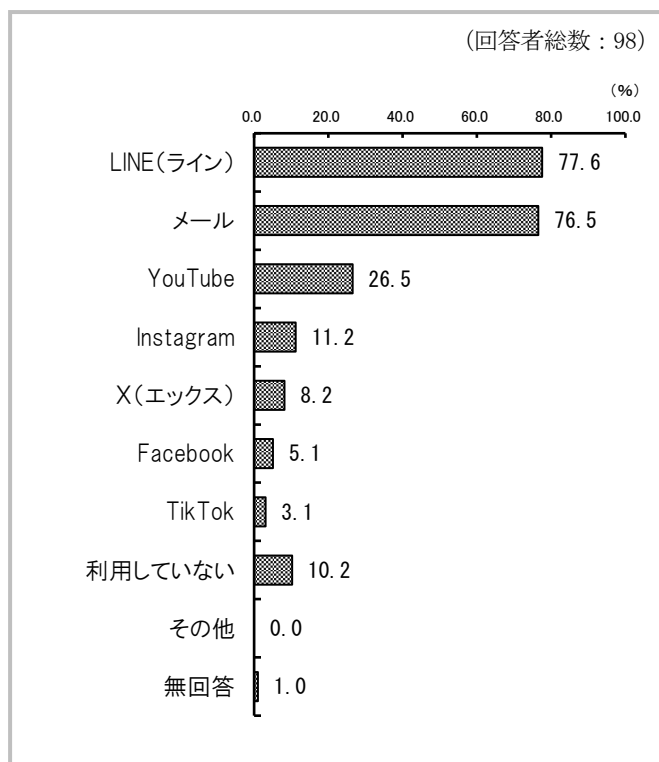
「LINE (ライン)」と「メール」が多い

普段、利用している情報サービスについては、「LINE (ライン)」が77.6%、「メール」が76.5%で、この2項目が多くなっています。また、「YouTube」は26.5%となっています。

表 利用している情報サービス 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
LINE（ライン）	76（77.6）
メール	75（76.5）
YouTube	26（26.5）
Instagram	11（11.2）
X（エックス）	8（8.2）
Facebook	5（5.1）
TikTok	3（3.1）
利用していない	10（10.2）
その他	0（0.0）
無回答	1（1.0）

図 利用している情報サービス



3 白岡市における地域福祉に対する考え方について

(1) 地域での支え合いの評価

問9 あなたから見て、白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。[1つに○]

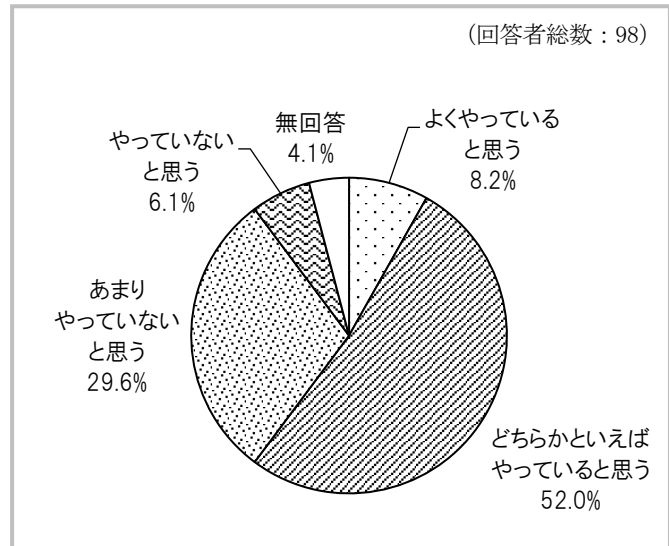
「やっている」という評価は約6割

白岡市における地域の支え合い、助け合いの評価については、「よくやっていると思う」が8.2%、「どちらかといえばやっていると思う」が52.0%で、これらを合わせると「やっている」と評価している割合は約6割となっています。

表 地域での支え合いの評価 単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項 目	回答数（構成比）
よくやっていると思う	8（8.2）
どちらかといえばやっていると思う	51（52.0）
あまりやっていないと思う	29（29.6）
やっていないと思う	6（6.1）
無回答	4（4.1）

図 地域での支え合いの評価



(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと

問10 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。[3つ以内で○]

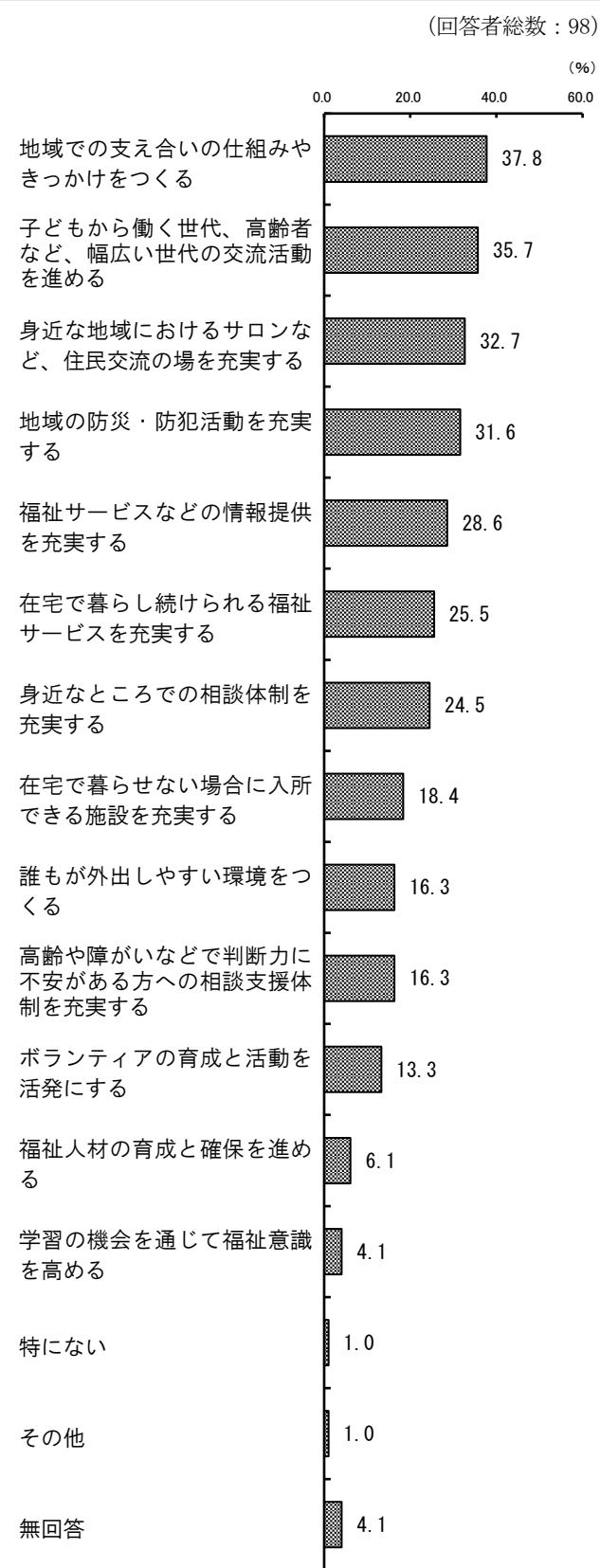
「支え合いの仕組みやきっかけ」が37.8%で最も多い

白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことについては、「地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる」が37.8%で最も多く、続いて「子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める」が35.7%、「身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する」が32.7%となっています。

表 地域福祉を推進していくために重要なこと
単位：人（%）

回答者総数（人）	98
項目	回答数（構成比）
地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	37 (37.8)
子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	35 (35.7)
身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	32 (32.7)
地域の防災・防犯活動を充実する	31 (31.6)
福祉サービスなどの情報提供を充実する	28 (28.6)
在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	25 (25.5)
身近なところでの相談体制を充実する	24 (24.5)
在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	18 (18.4)
誰もが外出しやすい環境をつくる	16 (16.3)
高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	16 (16.3)
ボランティアの育成と活動を活発にする	13 (13.3)
福祉人材の育成と確保を進める	6 (6.1)
学習の機会を通じて福祉意識を高める	4 (4.1)
特にない	1 (1.0)
その他	1 (1.0)
無回答	4 (4.1)

図 地域福祉を推進していくために重要なこと



IV ボランティア団体アンケート調査結果

Ⅳ ボランティア団体アンケート調査結果

1 ボランティア団体の概要

(1) 名称、活動内容、活動対象

問1 団体名や活動内容をご記入ください。

表 名称、活動内容（記入内容 原文）

(回答団体総数：18)

整理 No.	団体名	主な活動内容
1	クルボー	小・中学生を対象とした福祉活動としての車イスへの関心、車イスの体験を通し、車イス利用者への理解、福祉について感じてもらえる活動。
2	人形劇サークルあい	毎週金曜日に練習を行い、依頼が入った場合、現地に行き公演をしています。
3	朗読ひまわり	白岡市在住の視覚障がい者および高齢者を対象とした音声サービスを提供。広報しらおか。今、休んでいるが、社協だより、議会だより。
4	生き生き筋力体操会	ラジオ体操→ストレッチ体操→筋力体操（セラバンド、ダンベルを使用）→ストレッチ体操。週1回。はぴすしらおか、または、こもれびの森にて。
5	ボランティアグループ梅の実	書き損じはがきの回収、使用済み切手の整理。
6	きずなの会	ありの実館、東ありの実館で行っていること（アルミ缶、ダンボール、バザー用品、廃油、その他を集めること）。
7	おはなしのたね「もこもこ」	絵本の読み聞かせ、手遊び等。
8	てんとう虫	視覚障がい者への点訳サービスや福祉体験等への参加。
9	ボランティアグループつくし 手づくりサークル	特別支援学校（中学生）陶芸授業、介護施設にて陶芸教室・ポンポン人形作り、社協・自治会の行事に協力（無料ポンポン人形作り）、夏休み子ども陶芸教室、白岡東小学校6年陶芸授業。
10	すみれ会	サロン、Café、イベントの主催。
11	ミモザ・ヨガの会	高齢者に無理なく、やさしい骨ヨガで、脳トレも。
12	トマトの会	月2回の高齢者の方々への調理弁当づくり。
13	白岡市手話サークルありの実会	聴覚障がい者と交流、手話の学習。
14	新白岡エリアマネジメント	白岡市内において世代を問わずに集う場を創り出す。
15	医療生協さいたま白岡支部	地域まるごと健康づくり。
16	子どもと本を読むあゆみ会	小学校や放課後デイサービス施設、病院など依頼のあった場所へ、絵本の読み聞かせへ行きます。また、図書館ボランティアにも属していますので、図書館イベントのお手伝いもしています。
17	友愛通信 そよかぜ	トマトの会さんのお弁当と一緒にお届けする絵手紙の作成。
18	リサイクルの会	子ども服の無料交換会。

表 活動の対象

(延べ団体数)

高齢者等	10団体	児 童	7団体
障がい者（児）	6団体	その他	5団体

2 活動状況や今後の展開

(1) 活動上の課題

問2 ボランティア活動上の課題や問題点がありますか。[3つ以内で○]

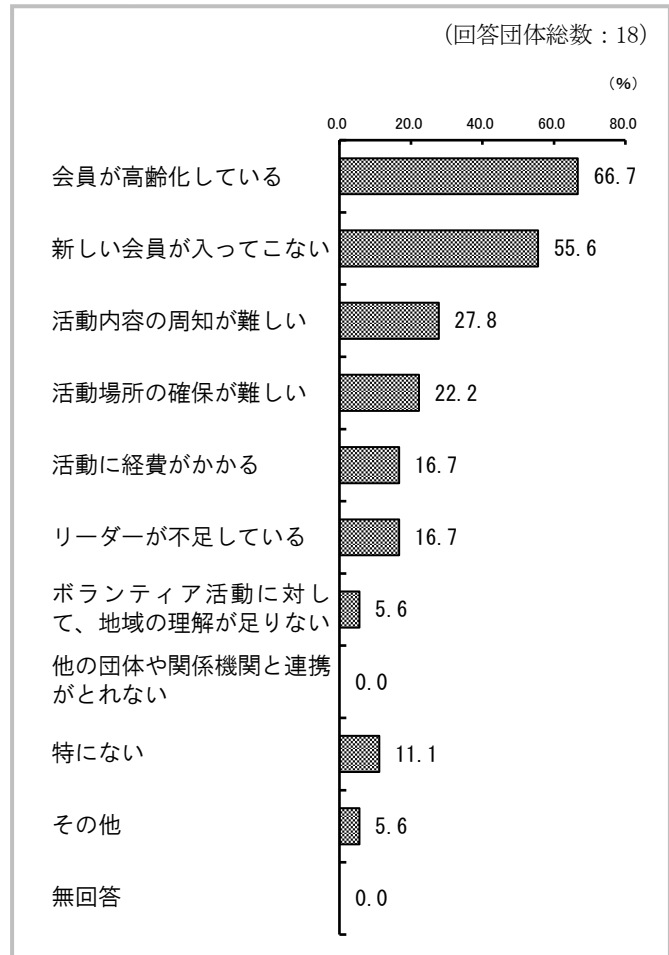
「会員が高齢化している」が66.7%で最も多い

ボランティア活動上の課題や問題点については、「会員が高齢化している」が66.7%で最も多く、続いて「新しい会員が入ってこない」が55.6%、「活動内容の周知が難しい」が27.8%となっています。

表 活動上の課題 単位：人（%）

回答団体総数（人）	18
項目	回答数（構成比）
会員が高齢化している	12（66.7）
新しい会員が入ってこない	10（55.6）
活動内容の周知が難しい	5（27.8）
活動場所の確保が難しい	4（22.2）
活動に経費がかかる	3（16.7）
リーダーが不足している	3（16.7）
ボランティア活動に対して、地域の理解が足りない	1（5.6）
他の団体や関係機関と連携がとれない	0（0.0）
特にない	2（11.1）
その他	1（5.6）
無回答	0（0.0）

図 活動上の課題



(2) 活動内容を広げたい点など

問3 今後、活動内容を広げたい点や強化したい点などがありますか。[どちらかに○]

「ある」が50.0%

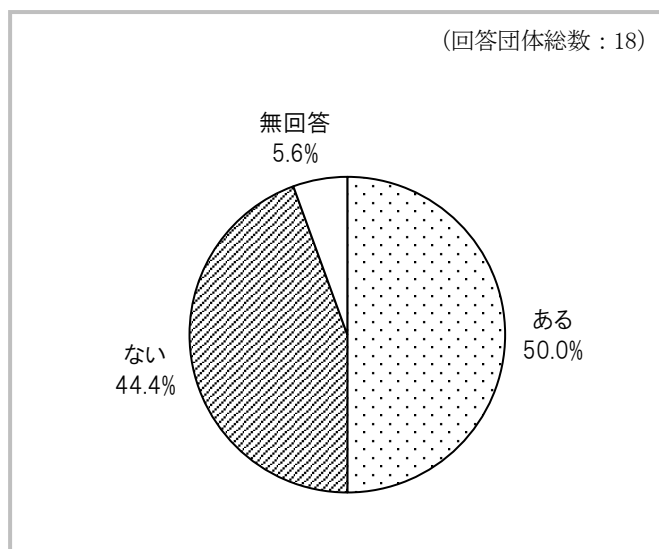
図 活動内容を広げたい点などの有無

今後、活動内容を広げたい点や強化したい点については、「ある」が50.0%、「ない」が44.4%となっています。

表 活動内容を広げたい点などの有無

単位：人（%）

回答団体総数（人）	18
項 目	回答数（構成比）
ある	9 (50.0)
ない	8 (44.4)
無回答	1 (5.6)



内容については、以下のようになっています。

■ 記入内容（原文）

整理 No.	内 容
2	団員が高齢化しているので、若い方が入って、これからもサークルが長く続くよう考えなくては…と思っています。
3	現状、50代の利用者1名のため、子ども関係の内容は読んでいません。社協だより、議会だよりも休んでいます。利用者が増え、メンバーが倍以上増えないと、活動内容は広げられません。
9	高齢者と子ども一緒に活動する機会を作りたい。
10	がんピアサポーターを考える会を医療関係や行政の参加者を増やして継続したい。過去に講演して頂いた医師・教授から、今のがん治療について、また話を聞きたい。
11	今まで、施設で活動をしていましたが、地域や出向く足のない人の車の手配。ヨガは女性だけでなく、男性に向けてもPRしてほしい。（骨ヨガは優しい動きです。男性にも有効です。）
13	手話の啓蒙。
14	学生（中学生～大学生）と一緒に活動していく・企画運営するような場。
15	健康や平和に関する学習会を開催したい。
16	高齢化などにより実際に活動できる会員が減っており、現在依頼のある件数を今後お断りを検討するようになってきているので、読み聞かせに興味のある方への入会のお誘いと随時募集の周知を実施・強化したい。

3 白岡市における地域福祉に対する考え方について

(1) ボランティア活動を活発化するために必要な取組

問4 白岡市でボランティア活動を活発にしていくためには、どのような取組が特に必要だと思いますか。[3つ以内で○]

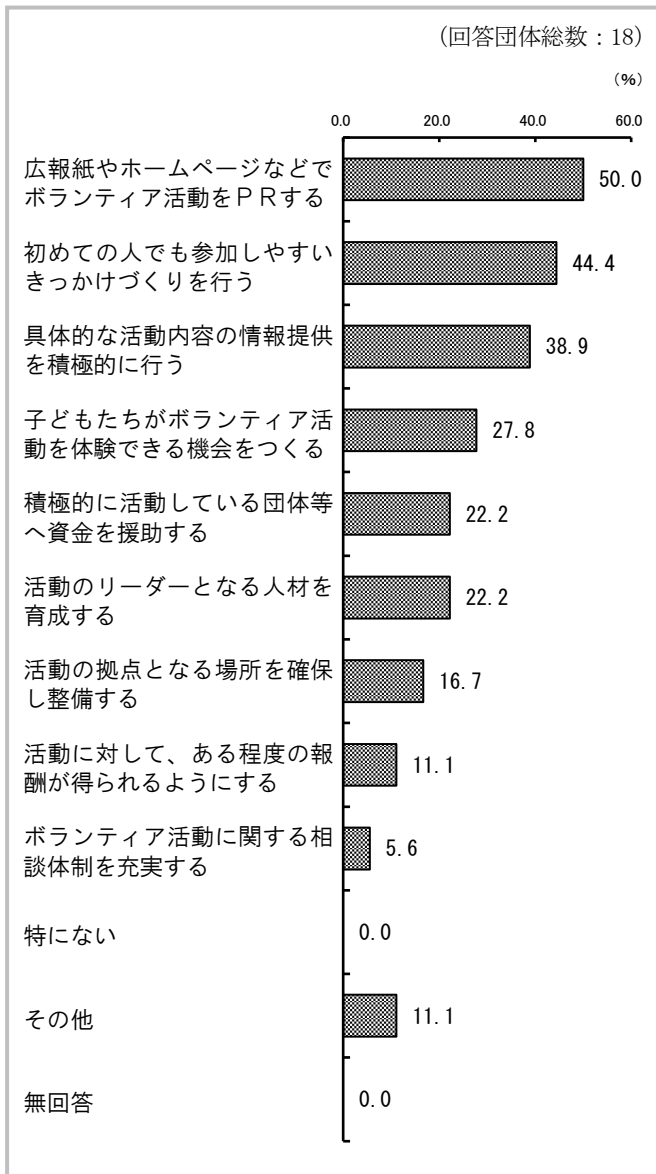
「広報紙やホームページなどでPR」が50.0%で最も多い

ボランティア活動を活発化するために必要な取組については、「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が50.0%で最も多く、続いて「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が44.4%、「具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う」が38.9%となっています。

表 ボランティア活動を活発化するために必要な取組
単位：人（%）

回答団体総数（人）	18
項目	回答数（構成比）
広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする	9 (50.0)
初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う	8 (44.4)
具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う	7 (38.9)
子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる	5 (27.8)
積極的に活動している団体等へ資金を援助する	4 (22.2)
活動のリーダーとなる人材を育成する	4 (22.2)
活動の拠点となる場所を確保し整備する	3 (16.7)
活動に対して、ある程度の報酬が得られるようにする	2 (11.1)
ボランティア活動に関する相談体制を充実する	1 (5.6)
特にない	0 (0.0)
その他	2 (11.1)
無回答	0 (0.0)

図 ボランティア活動を活発化するために必要な取組



(2) 地域での支え合いの評価

問5 白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。[1つに○]

「やっている」という評価は55.6%

白岡市における地域の支え合い、助け合いの評価については、「よくやっていると思う」が16.7%、「どちらかといえばやっていると思う」が38.9%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は、55.6%となっています。

図 地域での支え合いの評価

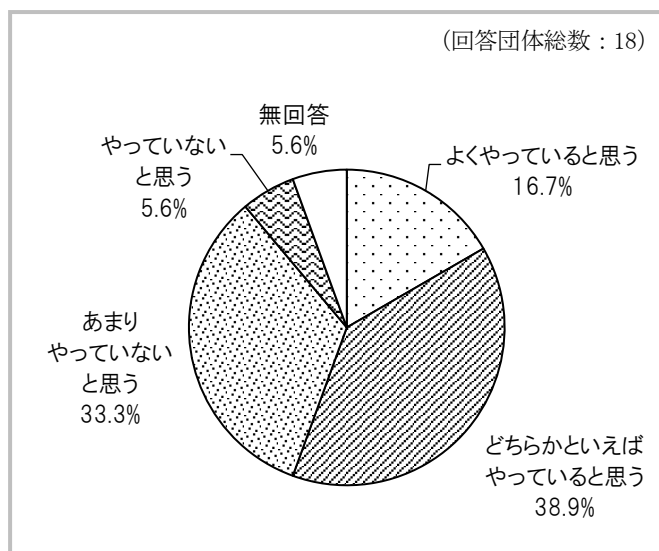


表 地域での支え合いの評価 単位：人（%）

回答団体総数（人）	18
項目	回答数（構成比）
よくやっていると思う	3（16.7）
どちらかといえばやっていると思う	7（38.9）
あまりやっていないと思う	6（33.3）
やっていないと思う	1（5.6）
無回答	1（5.6）

(3) 地域福祉を推進していくために重要なこと

問6 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。[3つ以内で○]

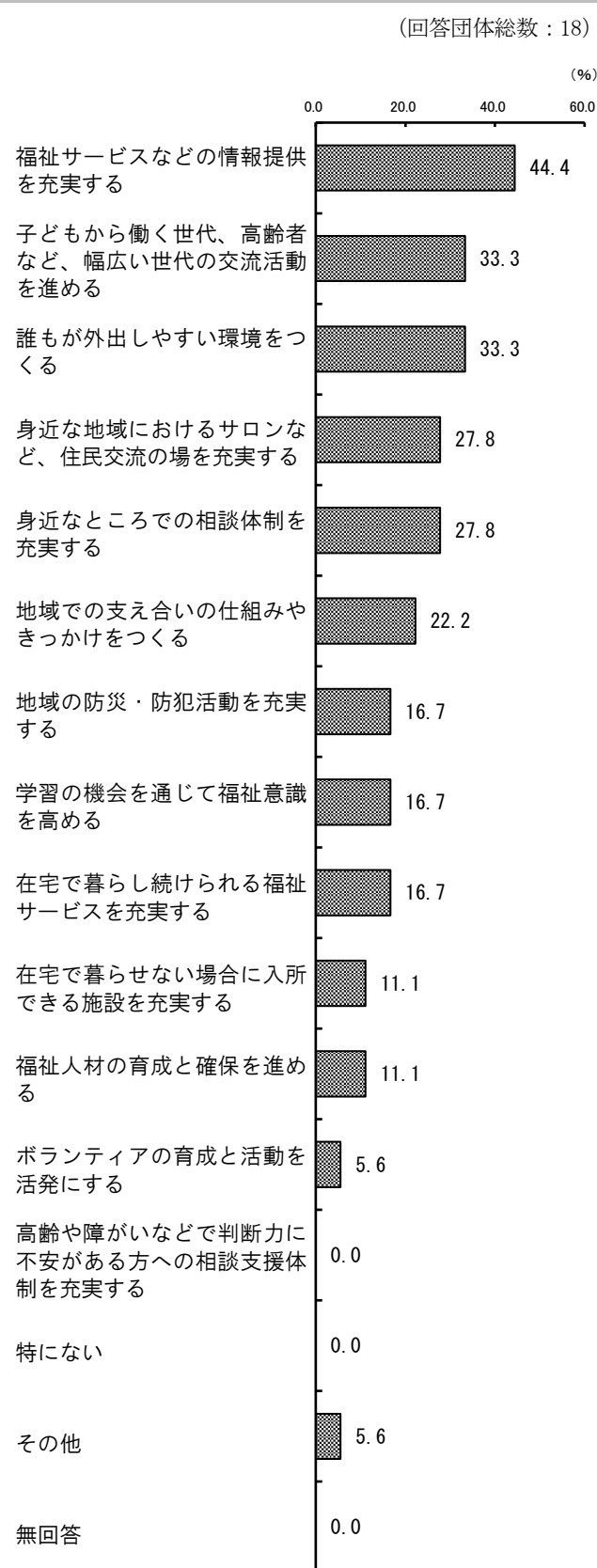
「情報提供を充実する」が44.4%で最も多い

白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことについては、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」が44.4%で最も多く、次に「子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める」と「誰もが外出しやすい環境をつくる」が同率で33.3%となっています。

表 地域福祉を推進していくために重要なこと
単位：人（%）

回答団体総数（人）	18
項目	回答数（構成比）
福祉サービスなどの情報提供を充実する	8 (44.4)
子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	6 (33.3)
誰もが外出しやすい環境をつくる	6 (33.3)
身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	5 (27.8)
身近なところでの相談体制を充実する	5 (27.8)
地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	4 (22.2)
地域の防災・防犯活動を充実する	3 (16.7)
学習の機会を通じて福祉意識を高める	3 (16.7)
在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	3 (16.7)
在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	2 (11.1)
福祉人材の育成と確保を進める	2 (11.1)
ボランティアの育成と活動を活発にする	1 (5.6)
高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	0 (0.0)
特にない	0 (0.0)
その他	1 (5.6)
無回答	0 (0.0)

図 地域福祉を推進していくために重要なこと



V 社会福祉法人アンケート調査結果

V 社会福祉法人アンケート調査結果

1 法人の事業概要

(1) 法人名等・事業概要

問1 貴法人・事業所の概要についてご記入ください。

12の法人から回答があり、高齢者施設・事業所が7法人で最も多く、保育施設・事業所が3法人、障がい者施設・事業所が2法人となっています。

表 法人の事業概要

回答法人総数：12

整理 No.	施設種別	提供している事業の概要（記入内容 原文）
1	保育施設・事業所	乳幼児保育
2	高齢者施設・事業所	小規模保育事業所A型
3	高齢者施設・事業所	短期入所生活介護
4	高齢者施設・事業所	介護老人福祉施設サービス（特別養護老人ホームの運営）、短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護（ショートステイの運営）
5	保育施設・事業所	認可保育園
6	高齢者施設・事業所	要介護3以上の常時介護を必要とする高齢者に対して24時間体制で生活支援を提供します。入居者様の尊厳を守りつつ暮らしの継続を目指しています。
7	高齢者施設・事業所	介護老人保健施設、通所リハビリテーション
8	障がい者施設・事業所	就労継続支援B型
9	保育施設・事業所	0歳から5歳児までの保育、地域子育て支援センター
10	高齢者施設・事業所	社会福祉事業
11	障がい者施設・事業所	障害者支援施設事業、生活介護事業、短期入所事業
12	高齢者施設・事業所	特別養護老人ホーム、短期入所、居宅介護支援、定期巡回随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能、訪問看護ステーション、福祉用具貸与・販売、住宅型有料老人ホーム、調剤薬局

2 運営状況や今後の展開

(1) 地域連携の取組状況

問2 貴法人・貴事業所において、地域との連携（地域団体との連携や住民との交流など）はどうですか。[1つに○]

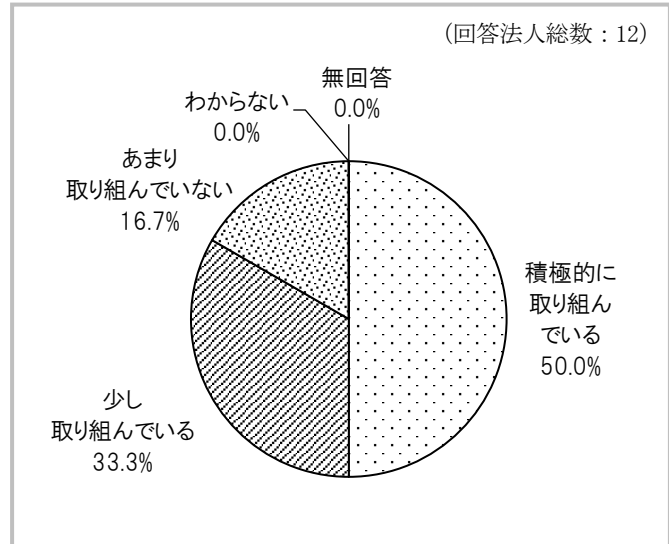
「積極的に取り組んでいる」が50.0%

事業所と地域の連携については、「積極的に取り組んでいる」が50.0%、「少し取り組んでいる」が33.3%、「あまり取り組んでいない」が16.7%となっています。

表 地域連携の取組状況 単位：人（%）

回答法人総数（人）	12
項 目	回答数（構成比）
積極的に取り組んでいる	6 (50.0)
少し取り組んでいる	4 (33.3)
あまり取り組んでいない	2 (16.7)
わからない	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 地域連携の取組状況



(2) 連携を強化したい機関・団体

問3 もっと連携を取りたいと思う機関・団体などありますか。[3つ以内で○]

「民生委員・児童委員」、「ボランティア団体」、「地域のサークル・団体」、「障がい者に関する福祉事業者」、「小・中学校」が多い

もっと連携を取りたいと思う機関・団体などについては、「民生委員・児童委員」、「ボランティア団体」、「地域のサークル・団体」、「障がい者に関する福祉事業者」、「小・中学校」が、それぞれ33.3%となっています。

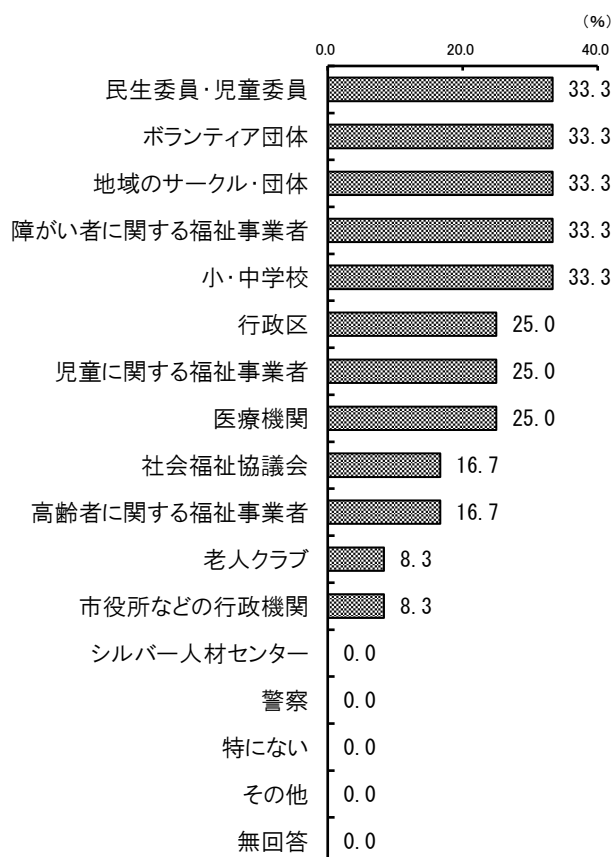
表 連携を強化したい機関・団体

単位：人（%）

回答法人総数（人）	12
項 目	回答数（構成比）
民生委員・児童委員	4 (33.3)
ボランティア団体	4 (33.3)
地域のサークル・団体	4 (33.3)
障がい者に関する福祉事業者	4 (33.3)
小・中学校	4 (33.3)
行政区	3 (25.0)
児童に関する福祉事業者	3 (25.0)
医療機関	3 (25.0)
社会福祉協議会	2 (16.7)
高齢者に関する福祉事業者	2 (16.7)
老人クラブ	1 (8.3)
市役所などの行政機関	1 (8.3)
シルバー人材センター	0 (0.0)
警察	0 (0.0)
特にない	0 (0.0)
その他	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 連携を強化したい機関・団体

(回答法人総数：12)



(3) 地域における公益的な取組 - ①現在 ②今後

問4 貴法人・貴事業所における「地域における公益的な取組」について、「①現在、取り組んでいること」や「②今後、取り組みたいこと」がありましたら、ご記入ください。提案や課題についてもお考えがありましたらお願いします。

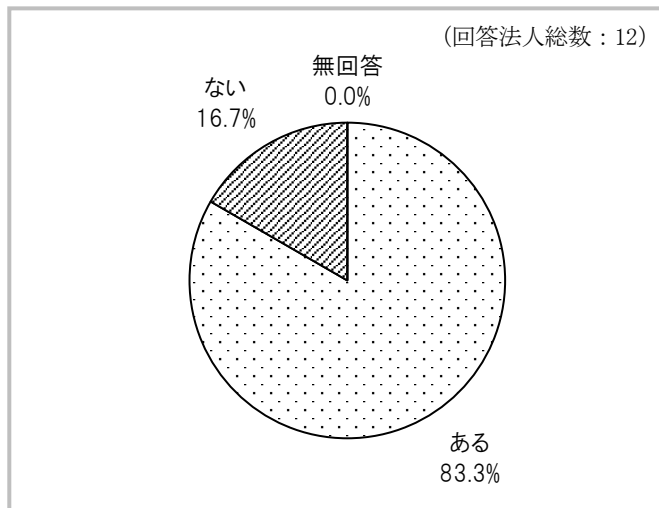
公益的な取組に積極的な法人が多い

「地域における公益的な取組」については、現在取り組んでいる法人が83.3%あり、今後取り組みたいという法人も83.3%ありました。

表 地域における公益的な取組 ①現在の取組

単位：人（%）	
回答法人総数（人）	12
項目	回答数（構成比）
ある	10（83.3）
ない	2（16.7）
無回答	0（0.0）

図 地域における公益的な取組 ①現在の取組



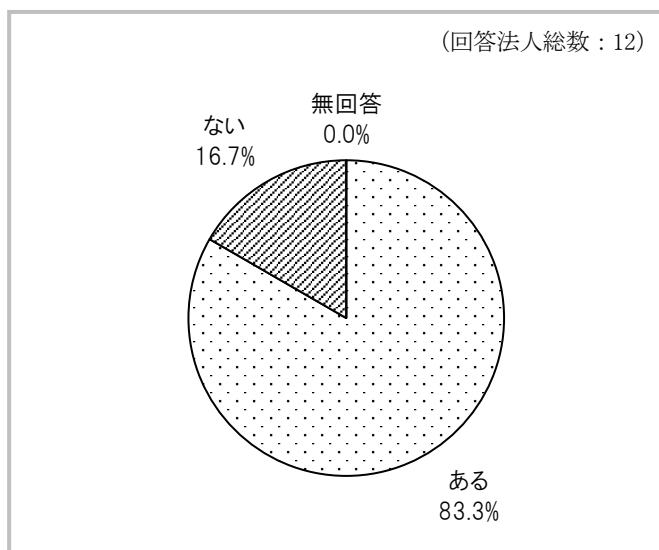
①現在、取り組んでいること 記入内容

整理 No.	施設種別	記入内容（原文）
1	保育施設・事業所	年に一度、ボランティア団体による青空コンサートを実施（近隣へのご招待あり）。
3	高齢者施設・事業所	バラ園にて5月にオープンガーデンが行われている。施設でも同敷地内の関係事業所とお祭りを行うが、地域のかたも気軽にお立ち寄りいただけたらと思う。
4	高齢者施設・事業所	わかばサロンの開催。毎月（8月を除く）第2水曜日に近隣の住民の方々を招き、昼食をとっていただき（有料500円）、その後、様々な講（公）演やレクリエーション、健康体操を実施し、楽しみながら健康維持や地域交流に資する活動を行っている。
6	高齢者施設・事業所	地域の会議等を当施設の研修室などを使用していただいている。 地域のお祭りの休憩所として利用していただいている。
7	高齢者施設・事業所	年に一度、当施設で地域の祭りを行っている。 月に1回、運動交流会を開催し地域の方（高齢者）に参加いただき運動や住人通しの交流の場を作りフレイル予防や閉じこもり予防を行っている。
8	障がい者施設・事業所	生活困窮者に対する相談支援・就労支援（彩の国あんしんセーフティネット事業） 子どもの居場所づくり（みんなのひろば） 高齢者の健康増進（いきいき百歳体操・ますます元気教室） 地域福祉推進の機関ネットワークづくり（顔の見えるネットワーク会議）
9	保育施設・事業所	図書館との連携
10	高齢者施設・事業所	埼玉県社会福祉法人 社会貢献活動推進協議会の会員となっている。 彩の国あんしんセーフティネット事業で生活困窮者への支援を行っている。
11	障がい者施設・事業所	市内の障害者団体の事務局を担っている。
12	高齢者施設・事業所	介護予防の健康教室。地域イベントへの救護係の派遣。地域イベントへの参加。

表 地域における公益的な取組 ②今後の取組意向

単位：人（％）	
回答法人総数（人）	12
項 目	回答数（構成比）
ある	10（83.3）
ない	2（16.7）
無回答	0（0.0）

図 地域における公益的な取組 ②今後の取組意向



②今後、取り組みたいこと 記入内容

整理 No.	施設種別	記入内容（原文）
1	保育施設・事業所	地域の方々に開かれた園として活動していきたい。
2	高齢者施設・事業所	地域の子どもに役立つ、子育て相談、教育相談、学習相談等の子どもたちの健全な生長や発達に資する事業全般。
3	高齢者施設・事業所	ボランティア団体の方との交流を深めたりできると良いと思う。また、ショートステイの施設がどの様に活用できる場なのか知らなかったと話されることも多いので、発信出来る取組を考えていきたい。
5	保育施設・事業所	地域の方々と園児の交流。
6	高齢者施設・事業所	今後も積極的に関わりを持っていきたい。
7	高齢者施設・事業所	当施設や敷地内のスペースを利用して地域住人の方が集まれる場所やクラブ活動など、地域の方が活動できるコミュニティの場となれるようにしていきたい。
8	障がい者施設・事業所	地域の専門職人材育成・市民啓発活動。
9	保育施設・事業所	地域のご老人との交流を課題にしている。
10	高齢者施設・事業所	事業の継続が出来れば良いのではないかなと思う。
11	障がい者施設・事業所	福祉の魅力を行政や社協と取り組んでいきたい。
12	高齢者施設・事業所	子ども食堂のような居場所作り。

3 白岡市における地域福祉に対する考え方について

(1) 地域での支え合いの評価

問5 白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。[1つに○]

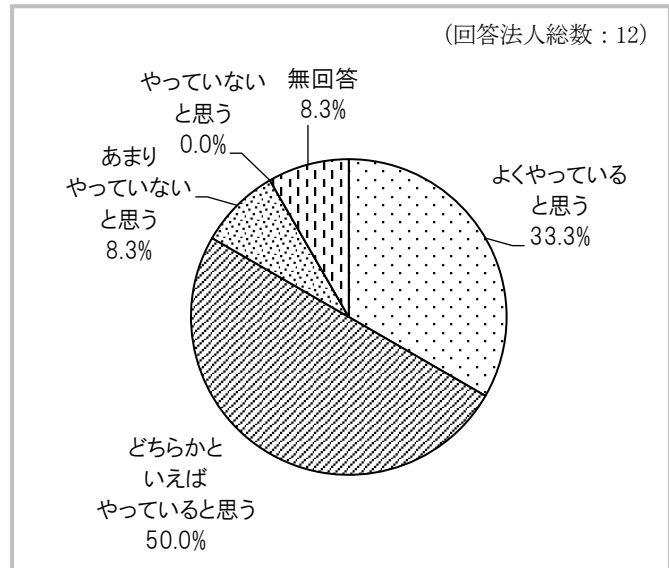
「やっている」という評価は83.3%

白岡市における地域の支え合い、助け合いの評価については、「よくやっていると思う」が33.3%、「どちらかといえばやっていると思う」が50.0%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は、83.3%となっています。

表 地域での支え合いの評価 単位：人（%）

回答法人総数（人）	12
項目	回答数（構成比）
よくやっていると思う	4（33.3）
どちらかといえばやっていると思う	6（50.0）
あまりやっていないと思う	1（8.3）
やっていないと思う	0（0.0）
無回答	1（8.3）

図 地域での支え合いの評価



(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと

問6 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。[3つ以内で○]

「支え合いのしくみやきっかけ」が41.7%

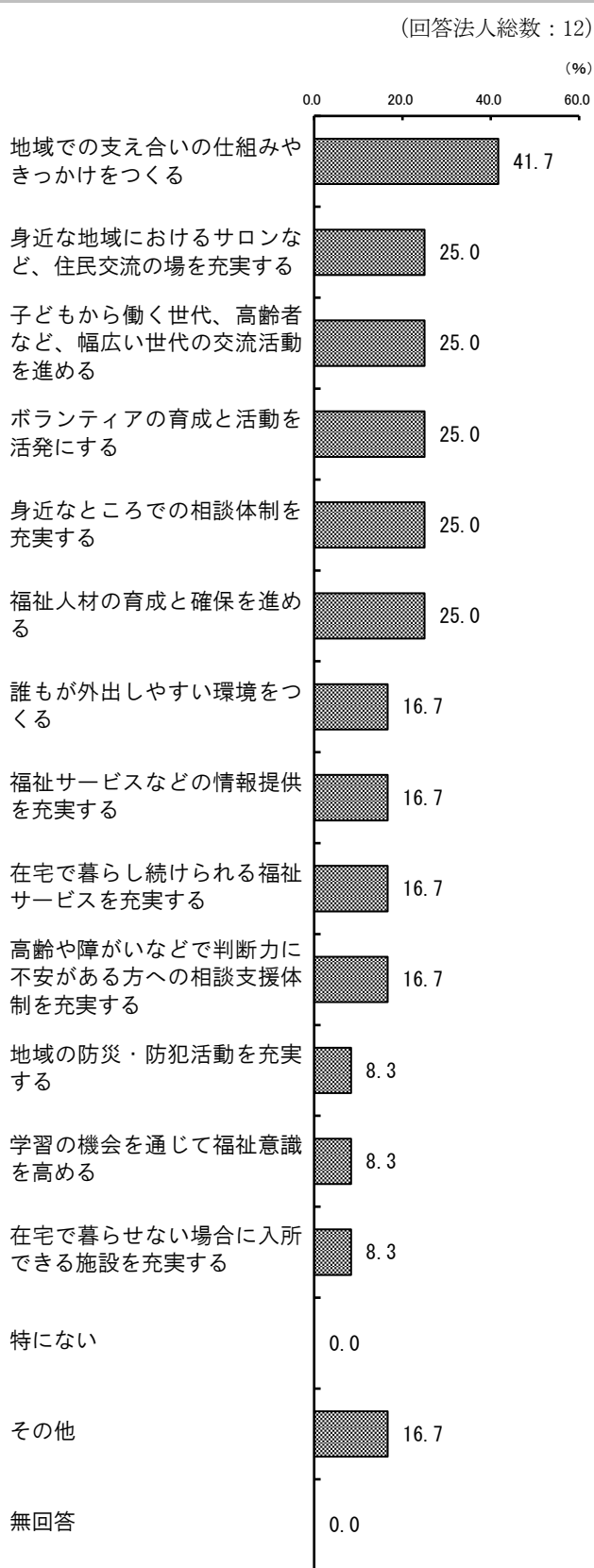
白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことについては、「地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる」が41.7%で最も多くなっています。次に「身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する」、「子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める」、「ボランティアの育成と活動を活発にする」、「身近なところでの相談体制を充実する」、「福祉人材の育成と確保を進める」が同率で25.0%となっています。

表 地域福祉を推進していくために重要なこと

単位：人（%）

回答法人総数（人）	12
項目	回答数（構成比）
地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる	5 (41.7)
身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する	3 (25.0)
子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める	3 (25.0)
ボランティアの育成と活動を活発にする	3 (25.0)
身近なところでの相談体制を充実する	3 (25.0)
福祉人材の育成と確保を進める	3 (25.0)
誰もが外出しやすい環境をつくる	2 (16.7)
福祉サービスなどの情報提供を充実する	2 (16.7)
在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する	2 (16.7)
高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する	2 (16.7)
地域の防災・防犯活動を充実する	1 (8.3)
学習の機会を通じて福祉意識を高める	1 (8.3)
在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する	1 (8.3)
特にない	0 (0.0)
その他	2 (16.7)
無回答	0 (0.0)

図 地域福祉を推進していくために重要なこと



VI 調査結果のまとめ

VI 調査結果のまとめ

調査結果を、「白岡市第2期地域福祉計画」の柱立てに沿ってまとめました。

基本目標1 支え合いで多様な支援ができる地域づくり

取組の基本方向（1）地域の交流を深めよう！

具体的取組① 隣近所のお付き合いを大切にしよう

【市民アンケート】

- 問8の近所でのあいさつについては「している」が89.4%で多くの人があいさつをしています。これを時系列でみると、平成26年度の91.6%から令和元年度には87.8%に減少しましたが、令和6年度には89.4%に増加しました。
- 問9のご近所とのお付き合いについては、「あいさつする程度」が45.1%で最も多くなっています。時系列でみると、「あいさつする程度」の割合が増加傾向にあり、平成26年度は41.9%でしたが、令和6年度には45.1%となりました。「困りごとを話し合えるような付き合い」は、平成26年度は16.2%でしたが、令和元年度に減少して10.7%となり、令和6年度には11.4%となりました。
- コロナ禍で人と人の交流が制限された時期もあり、近所付き合いの希薄化の懸念もあります。困りごとを話せるような親しいご近所のお付き合いは少なくなっている傾向がありますが、あいさつについては多くの人がしており、近所付き合いの基盤は維持されていることがうかがえます。

具体的取組② 地域の交流機会を充実しよう

【市民アンケート】

- 問11のお祭りやイベントといった地域行事等への参加については、「よく参加する」と「たまに参加する」を合わせると、その割合は43.2%となっています。これを時系列でみると、平成26年度は49.8%でしたが、令和元年度に減少して43.5%となり、令和6年度は43.2%となっています。平成26年度の割合と比較すると、6.6ポイントの減少となりました。
- 地区別にみると、「よく参加する」と「たまに参加する」の合計が最も多いのは、白岡東小学校区で52.1%となっています。菁莪小学校区では「よく参加する」と「たまに参加する」の合計が38.4%で、地区別では最も低くなりました。一方、「ほとんど参加したことがない」の割合は、最も多い地区は篠津小学校区で35.4%、最も少ない地区は白岡東小学校区で19.4%となっています。
- 「ほとんど参加したことがない」という割合を家族状況別にみると、介護を必要とする人のいる世帯では38.1%、障がいのある人がいる世帯では36.7%、病気療養中の人がある世帯では37.1%、ひきこもり・閉じこもりの人がいる世帯では53.6%となっています。全体平均の30.2%を上回っており、特に、ひきこもり・閉じこもりの人がいる世帯で多くなっています。

○家族の中に、要介護者や障がいのある人、ひきこもり・閉じこもりの人などがある場合、介護や身の回りの世話などで地域活動への参加機会が制限されることが多いことが考えられます。また、地域による違いも見られます。住民の交流やお付き合いが地域福祉の基礎となることから、地域での交流を市全体に広げていくことが重要です。

取組の基本方向（２） 地域におけるきめ細かい支援を実行しよう！

具体的取組① 見守り活動を活発にしよう

【市民アンケート】

○問12の身近な地域での問題点として、「防犯・治安・風紀の問題」が25.1%で9項目中2番目になっており、令和元年度の16.0%から9.1ポイント増加しました。また、「地域のつながりが減少」は24.0%で9項目中3番目になっています。

○近年、防犯に対する関心も高まっており、地域のつながりが希薄化していることへの不安と、安心安全に対する不安が地域の問題点として意識されていると考えられます。

【民生委員・児童委員アンケート】

○問3の地域で問題と覚えることについては、「地域のつながりが減少」が51.0%となっています。

○問5の住民同士で手助けがあるといいものについて、「安否確認の声かけ」が70.4%で最も多くなっています。

○高齢者世帯が増加していることや閉じこもりがちの人が増えていることなどから、住民同士の声かけによる見守りが重要視されています。

具体的取組② お互い様の気持ちで手助けをしよう

【市民アンケート】

○問14の自分をご近所に手助けできることについては、「話し相手」が28.3%、「ごみ出し」が21.6%、「食料品や日用品等の買い物」が15.9%となっています。

○問13の近所で手助けしてもらいたいことと問14の自分が手助けできることの割合を比較してみると、どの項目でも、手助けできるという割合が手助けしてもらいたいという割合を上回っています。「話し相手」をしてもらいたいという割合は4.2%ありますが、手助けできるという割合が28.3%と多くなっています。

○手助けしてほしいというニーズに対し、それに対応する市民の意識があることから、今後は、手助けできる気持ちを実際の行動に移せるような環境づくりが重要となっています。

具体的取組③ 日頃から災害時の助け合いを考えよう

【市民アンケート】

- 問13の近所で手助けしてもらいたいことでは、「災害時等の安否確認の声かけ」は23.6%となっています。また、問14の自分が手助けできることとして、「災害時等の安否確認の声かけ」は48.5%となっており、手助けできるという割合が大きく上回っています。
- 問17の地域で特に必要だと思うボランティア活動については、「災害時の安否確認・避難の手伝い」が31.1%で10項目中2番目、問18の自分ができるボランティア活動についても、「災害時の安否確認・避難の手伝い」が24.5%で10項目中2番目となりました。

【民生委員・児童委員アンケート】

- 問5の近所や地域の人同士で手助けがあるといいと思うものについては、「安否確認の声かけ」が70.4%で最も多く、次に「話し相手」が57.1%となっています。近所や身近な地域で声をかけあうことが重要視されています。

取組の基本方向（3） 福祉の力を向上させよう！

具体的取組① 民生委員・児童委員の活動を理解しよう

【市民アンケート】

- 問20の民生委員・児童委員の周知状況については、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」が26.3%で最も多くなっています。また、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」が15.9%、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」が12.9%となっています。
- 時系列でみると、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」は、令和元年度の18.2%から令和6年度の15.9%に減少しましたが、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」は、令和元年度の24.0%から令和6年度の26.3%に増加しました。また、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」と「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」の割合を合計すると、令和元年度、令和6年度ともに42.2%となっています。
- 地域福祉の推進のために、民生委員・児童委員活動は重要であり、地域住民にとって身近な存在として、活動の周知と理解を深めていくことが必要です。

【民生委員・児童委員アンケート】

- 問6の活動を行う上での課題については、「必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある」が46.9%で最も多く、続いて「関係機関や地域の団体等との連携や協力がもっと必要だと思う」が35.7%、「住民の理解が得られないために、訪問活動などが難しいことがある」が32.7%となっています。
- 民生委員・児童委員が活動しやすいよう、市民や関係団体等の一層の理解と協力を促進していくことが大切です。

具体的取組② 支え合いの仕組みを強化しよう

【市民アンケート】

- 問21の白岡市社会福祉協議会の周知状況については、「活動も名前も知っている」が19.0%となっています。また、「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」は、平成26年度は53.2%でしたが、令和6年度には47.0%となり、減少傾向となっています。
- 年齢別にみると、若い年代ほど白岡市社会福祉協議会を「聞いたことがない」という割合が多くなっています。
- 問28のサにおいて、地域の方が困っている方のために簡単なお手伝いをするしらか地域生活支えあいサービスの周知状況を聞いています。「知っている」という割合は10.0%となっています。
- 白岡市社会福祉協議会は、地域福祉推進において重要な役割を果たしていく機関です。高齢化が進行する中で、地域福祉の担い手となる若い世代の参加を促していくため、社会福祉協議会について、まずは幅広く活動の周知と理解を進めていくことが大切です。

取組の基本方向（４） 社会復帰を支援しよう！

白岡市再犯防止推進計画

具体的取組① 立ち直りを支援しよう

【市民アンケート】

- 問24の『保護司』の周知状況については、「内容も名前も知っている」が34.3%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が39.0%となっています。
- 問25の『協力雇用主』の周知状況については、「内容も名前も知っている」が11.0%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が22.3%となっています。
- 問26の『社会を明るくする運動』の周知状況については、「内容も名前も知っている」が5.1%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が16.7%となっています。
- 罪を犯した者が地域や社会で孤立し再び罪を犯さないよう、適切な支援を継続的に行っていくことが重要です。保護司や協力雇用主など、立ち直りを支援する活動について、幅広く活動の周知と理解を進めていくことが大切です。

基本目標２ 地域福祉の理解と担い手となる人づくり

取組の基本方向（１） 福祉を理解し、福祉意識を高めよう！

具体的取組① 福祉意識を高めよう

【市民アンケート】

- 問31の『地域福祉』という言葉の認知状況については、「よく知っていた」が 4.5%、「ある程度は知っていた」が42.6%で、これらを合わせると、『地域福祉』という言葉を知っていたという割合は47.1%となります。「よく知っていた」、「ある程度は知っていた」の割合は、わずかな増減はありますが、大きな変化はありませんでした。
- 問33の『地域福祉』に対する考え方については、「地域福祉は行政と市民などが、お互いに協力し支え合っていくのがよい」が64.1%で最も多くなっています。その割合は、平成26年度の69.6%からは減少しているものの、令和元年度の63.4%からわずかに増加しています。
- 問35の病気や障がいのある人などに対する差別や偏見については、「感じることもある」が15.9%、「感じたことはないが、あると思う」が51.3%となっています。「感じることもある」は、平成26年度の16.1%から増加して令和元年度は21.9%となりましたが、令和6年度には減少して15.9%となっています。「感じたことはないが、あると思う」は増加傾向にあり、平成26年度の42.4%から令和6年度の51.3%になっています。
- お互いに協力し支え合うという地域福祉に対する重要性は感じつつも、地域福祉に対する理解の深まりは向上していない状況もうかがえます。

具体的取組② 福祉について学ぼう

【市民アンケート】

- 問28のウにおいて、社会福祉協議会が実施している市内の小中学校・高等学校における福祉教育の周知状況を聞いています。「知っている」という割合は20.2%で、令和元年度調査の17.0%より増加しました。
- 問19のボランティア活動を活発化するために必要な取組について、「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が32.6%、「具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う」が27.9%、「子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる」が26.0%となっています。
- 福祉についての情報提供、周知、体験といったことが挙げられており、こうしたことを通じて地域福祉が学べる機会の充実が望まれています。

【社会福祉法人アンケート】

- 問4の地域における公益的な取組について、現在取り組んでいることや今後取り組みたいこととして、交流イベントや教室の開催、居場所づくりなどが挙げられています。
- こうした取組を通じて、地域住民が福祉について身近に感じ、自然に学べる機会となっていることがうかがえます。

取組の基本方向（２） 地域活動やボランティア活動を活発にしよう！

具体的取組① 地域活動を活発にしよう

【市民アンケート】

○問34の地域での支え合いの評価については、「よくやっていると思う」が 4.6%、「どちらかといえばやっていると思う」が36.7%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は41.3%となっています。一方、「あまりやっていないと思う」は 40.5%、「やっていないと思う」は 9.8%で、これらを合わせると、「やっていない」という割合は50.3%となっています。時系列でその割合をみると、「あまりやっていないと思う」と「やっていないと思う」の合計は、平成26年度は43.6%でしたが、令和6年度には50.3%となり、増加傾向にあります。

【民生委員・児童委員アンケート】

○問9の地域での支え合いの評価については、「よくやっていると思う」が 8.2%、「どちらかといえばやっていると思う」が52.0%で、これらを合わせると「やっている」と評価している割合は、60.2%となっています。

【ボランティア団体アンケート】

○問5の地域での支え合いの評価については、「よくやっていると思う」が16.7%、「どちらかといえばやっていると思う」が38.9%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は、55.6%となっています。

【社会福祉法人アンケート】

○問5の地域での支え合いの評価については、「よくやっていると思う」が33.3%、「どちらかといえばやっていると思う」が50.0%で、これらを合わせると、「やっている」と評価している割合は、83.3%となっています。

○地域での支え合いの評価については、市民アンケートの評価より、民生委員・児童委員やボランティア団体、社会福祉法人など、地域福祉に関わりが深いほうが評価は高くなりました。地域の支え合いや福祉が限定的なものではなく、多くの市民にとって身近なものとなるような取組が求められます。

具体的取組② ボランティア活動を活発にしよう

【市民アンケート】

○問17の住んでいる地域で特に必要だと思うボランティア活動については、「高齢者の手助け・見守り」が32.4%で最も多く、続いて「災害時の安否確認・避難の手伝い」が31.1%、「交通安全・防犯活動」が30.3%となっています。

- 問18の自分がボランティア活動できることについては、「地域の清掃・美化活動」が30.3%で最も多く、続いて「災害時の安否確認・避難の手伝い」が24.5%、「高齢者の手助け・見守り」が18.9%となっています。また、「地域の清掃・美化活動」、「災害時の安否確認・避難の手伝い」、「高齢者の手助け・見守り」、「交通安全・防犯活動」、「スポーツやレクリエーションの手伝い」、「健康づくりの手助け」といった項目は、平成26年度から令和元年度に割合が減少しましたが、令和6年度ではそれぞれ増加しました。
- 問19のボランティア活動を活発化するために必要な取組については、「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が56.4%で最も多く、続いて「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が32.6%、「具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う」が27.9%となっています。
- ボランティア活動をわかりやすく情報提供し、参加に対するハードルを低くしていくとともに、自分が無理なくできそうだと思う活動がボランティアの入り口となるよう、環境づくりが重要となっています。

【ボランティア団体アンケート】

- 問2のボランティア活動上の課題や問題点については、「会員が高齢化している」が66.7%で最も多く、続いて「新しい会員が入ってこない」が55.6%、「活動内容の周知が難しい」が27.8%となっています。
- 問4のボランティア活動を活発化するために必要な取組については、「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が50.0%で最も多く、続いて「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が44.4%、「具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う」が38.9%となっています。
- これまで活動していた人たちの高齢化が進み、また、コロナ禍で様々な活動が制限された時期もあり、担い手不足が懸念されます。情報提供や収集のあり方も広報紙等の従来の方法からインターネットを活用したものへの変化も見られます。多様な情報媒体や参加方法のあり方を検討しつつ、ボランティア活動の活発化に取り組んでいくことが必要となっています。

取組の基本方向（3） 福祉人材を育成しよう！

具体的取組① 福祉の仕事をもっと知ろう

【社会福祉法人アンケート】

- 問6の地域福祉を推進していくために重要なことについて、「福祉人材の育成と確保を進める」が25.0%となっています。
- 問4の地域における公益的な取組について、事業所や利用者と地域住民との交流などが行われており、福祉の仕事について知る機会となっています。
- 福祉の担い手の確保は重要なものとなっています。福祉に関する仕事の意義とやりがいについて市民の理解を深め、福祉の担い手を育成していく環境づくりが大切です。

具体的取組② 関係機関と連携しよう

【民生委員・児童委員アンケート】

- 問7の今後の見守り活動で連携を強化したいと思うところについては、「行政区の役員」が52.0%で最も多く、次に「地域包括支援センター」が46.9%となっています。
- 民生委員・児童委員の活動は、地域に密着したものであることから、行政区との連携強化が望まれています。また、地域の高齢者の増加に伴い、「地域包括支援センター」との連携も重要なものとなっています。

【社会福祉法人アンケート】

- 問3の連携を強化したい機関・団体については、「民生委員・児童委員」、「ボランティア団体」、「地域のサークル・団体」、「障がい者に関する福祉事業者」、「小・中学校」が、それぞれ33.3%となっています。
- 地域福祉の担い手である民生委員・児童委員やボランティア団体をはじめ、小・中学校など地域に根ざした機関・団体との連携を望むものが多くなっています。

基本目標3 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

取組の基本方向（1） 福祉サービスを知ろう！

具体的取組① 福祉サービスに関する情報を収集・提供しよう

【市民アンケート】

- 問29の福祉に関する情報源については、「広報しらおか」が71.6%で最も多く、続いて「回覧板」が33.4%、「社協だより」が25.7%となっています。年齢別にみても、どの年代でも「広報しらおか」が最も多くなっています。「社協だより」、「新聞・雑誌」、「民生委員・児童委員」は、高齢層ほど割合が多い傾向となっています。「インターネット・SNS」は、18～29歳から60～69歳の年代で2～3割となっています。
- 問28の市や社会福祉協議会の事業の周知状況において「知っている」という割合をみると、『車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し』が49.0%、『ひとり暮らし高齢者などを対象とした配食サービス』が32.4%、『集会所などで実施しているいきいきサロン』が30.0%、『高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートネット）』が14.7%、『生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業』が14.6%、『地域の方が困っている方のために掃除やゴミ捨てなどの簡単なお手伝いをするしらおか地域生活支えあいサービス』が10.0%となっています。
- 問37の地域福祉を推進していくために重要なことにおいて、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」が26.3%となっており、13項目中2番目となっています。
- 情報に対する重要性は高くなっています。しかし情報源は、年代によって違いもみられることから、それぞれが入手しやすい情報提供方法について充実していくことが求められています。

具体的取組② 困った時には相談しよう

【市民アンケート】

- 問9のご近所とお付き合いについては、「あいさつする程度」が45.1%で最も多く、「困りごとを話し合えるような付き合い」は11.4%となっています。
- 問30の困ったときの相談先については、「身近にいる家族」が81.0%で最も多くなっています。一方、「頼める人はいない」は2.7%、「誰にも頼りたくない」は0.7%となっています。
- 問13の近所で手助けしてもらいたいことと問14の自分が手助けできることの結果を比較してみると、どの項目でも、手助けできるという割合が手助けしてもらいたいという割合を上回りました。近所で手助けができるという意識は高まっていることから、困っていることを気軽に相談し、助け合えるような環境づくりが望まれます。

取組の基本方向（２） 福祉サービスの提供体制の充実を図ろう！

具体的取組① ニーズに対応したサービスを提供しよう

【市民アンケート】

- 問37の地域福祉を推進していくために重要なことにおいて、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」が26.3%、「在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する」が25.6%、「在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する」が22.6%となっています。
- 問12の身近な地域での問題点については、「交通など移動手段の問題」が36.3%で最も多くなっています。高齢となって自動車での移動が難しくなり、地域での生活に不安を持つ人も多くなっています。
- 福祉サービスを適切に利用するためには、サービスの内容や仕組みを理解することが必要です。さらに、地域での生活を支援する様々なサービスもあることから、これらを有効に活用することが生活のしやすさにつながります。ニーズに応じたサービスの提供を進めていくことともに、サービスに関するきめ細かい情報提供の充実が大切です。

具体的取組② 複合的な課題にも対応できる体制を強化しよう

【市民アンケート】

- 今回の調査で、家族の中に乳幼児や障がい者、要介護者、ひきこもりや閉じこもりがちな人の有無を聞いています。その結果、「障がいのある人」がいる世帯が9.4%、「介護を必要とする人」が8.8%、「幼児（1歳から就学前）」が8.3%となっています。また、「病気療養中の人」がいる世帯は7.3%、「ひきこもり、閉じこもりがちな人」がいる世帯は2.9%、「乳児（1歳未満）」がいる世帯は2.7%となっています。

【民生委員・児童委員アンケート】

- 問4の地域の中で気がかりな人の有無については、「高齢者のひとり暮らしの世帯」が80.6%で最も多く、続いて「高齢者のみの世帯」が60.2%、「認知症の人」が19.4%となっています。また、「ひきこもりや閉じこもり」は13.3%、「生活困窮者」が8.2%、「中高年の子どもの生活を支える高齢者の親の世帯（8050問題）」が7.1%、「虐待の疑いがある家庭」が5.1%、「金銭管理などで気がかりな人」が5.1%となっています。
- 民生委員・児童委員活動の中で、地域に様々な課題を抱えている人が把握されていることがわかります。福祉の総合相談窓口の活用など、必要なときに適切な支援につなげていくことが重要となっています。

取組の基本方向（3）生活困窮者対策の充実を図ろう！

具体的取組① 生活困窮者の自立を支援しよう

【市民アンケート】

- 問28の社会福祉協議会で実施している『生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業』の周知状況については、「知っている」が14.6%で、令和元年度の7.7%から増加しました。
- 近年、生活困窮対策等も実施されたことなどを受け、生活困窮者に対する支援について市民の関心が寄せられていることがうかがえます。

取組の基本方向（4）権利擁護体制の充実を図ろう！

具体的取組① 虐待を防止しよう

【市民アンケート】

- 問12の身近な地域での問題点において、「地域のつながりが減少」が24.0%で9項目中3番目となっています。
- 地域のつながりの希薄化により、家庭内の変化に気づくきっかけが低下していることが懸念されます。

【民生委員・児童委員アンケート】

- 問4の地域の中で気がかりな人の有無について、「虐待の疑いがある家庭」が5.1%となっています。
- 地域の見守りを続けつつ、必要なときには関係機関と連携した取組が可能となるよう民生委員・児童委員活動を支援していくことが求められます。

白岡市成年後見制度利用促進基本計画

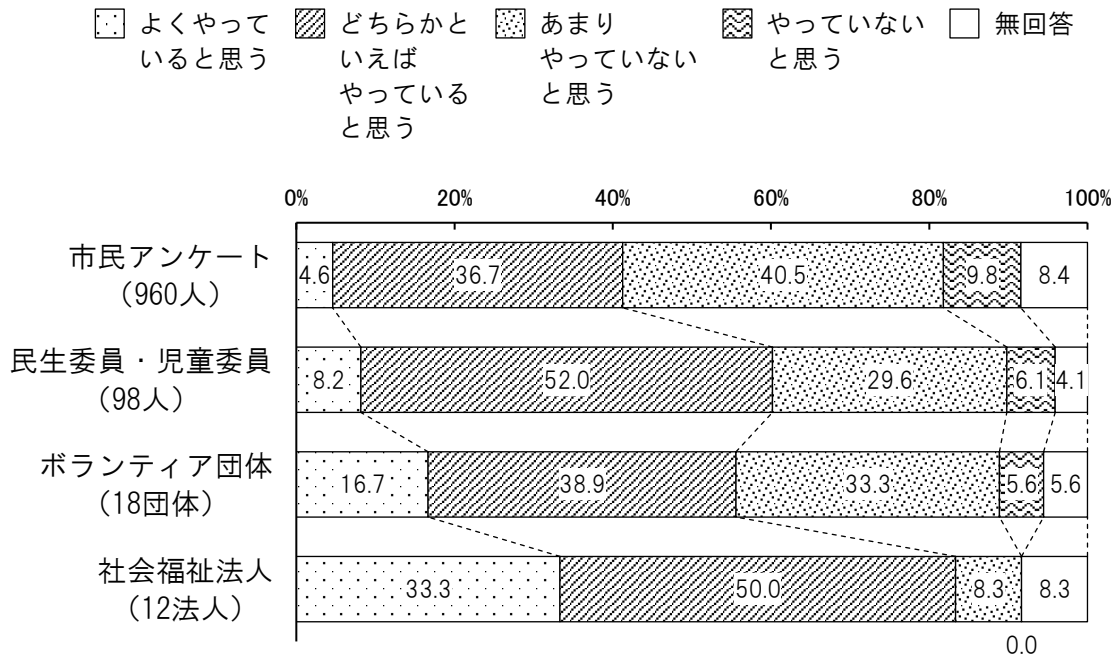
具体的取組② 成年後見制度を利用しやすくしよう

【市民アンケート】

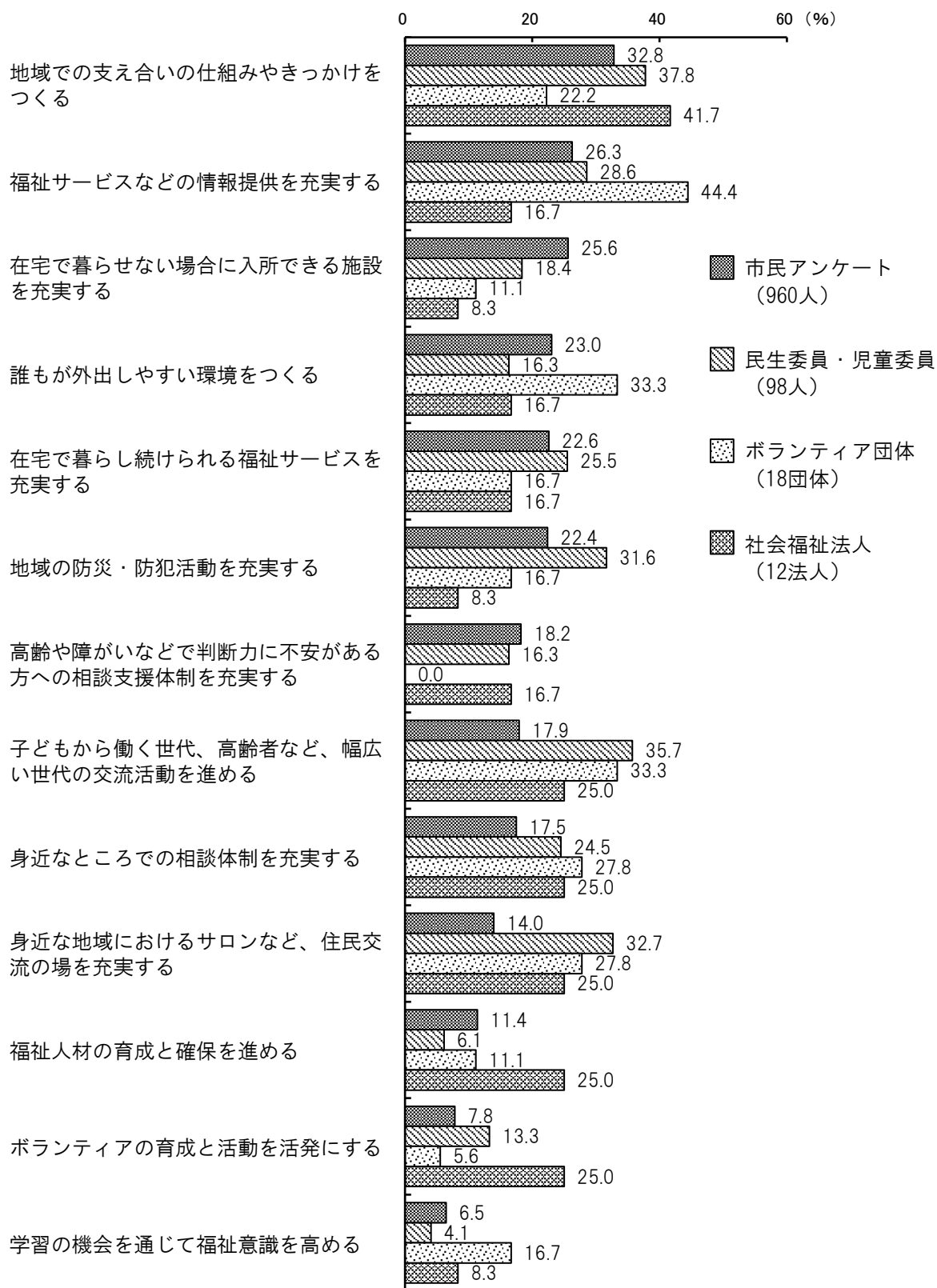
- 問23の『成年後見制度』の周知状況については、「内容も名前も知っている」が30.5%、「内容までは知らないが、名前は聞いたことがある」が41.4%となっています。
- 問28の社会福祉協議会で実施している『高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートネット）』については、「知っている」が14.7%で、平成26年度の18.2%から減少傾向となっています。
- あんしんサポートネットについては周知が進んでいませんが、成年後見制度については周知が広がりつつあります。利用者の状況や必要性に応じたサポートが受けられるよう、幅広い周知が重要となっています。

参考1 各調査の比較

■ 地域での支え合いの評価



■ 地域福祉を推進していくために重要なこと

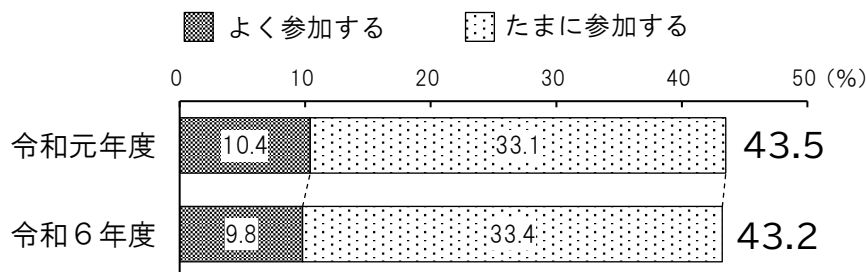


参考2 「白岡市第2期地域福祉計画」における指標の検証

「白岡市第2期地域福祉計画」では、令和元年度の市民アンケート結果を基に目標とする指標を設定しています。次期計画の基礎資料とするため、本調査結果との比較をしました。

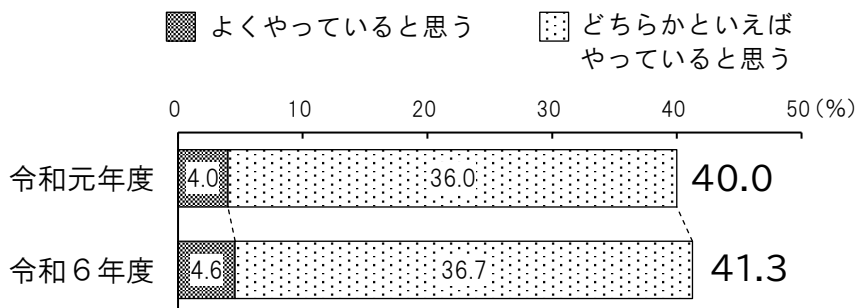
■「基本目標1 支え合いで多様な支援ができる地域づくり」に関するもの

指標①	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
地域行事の参加率 地域のお祭りやイベントに「よく参加する」と「たまに参加する」の割合の合計の増加	43.5%	60%



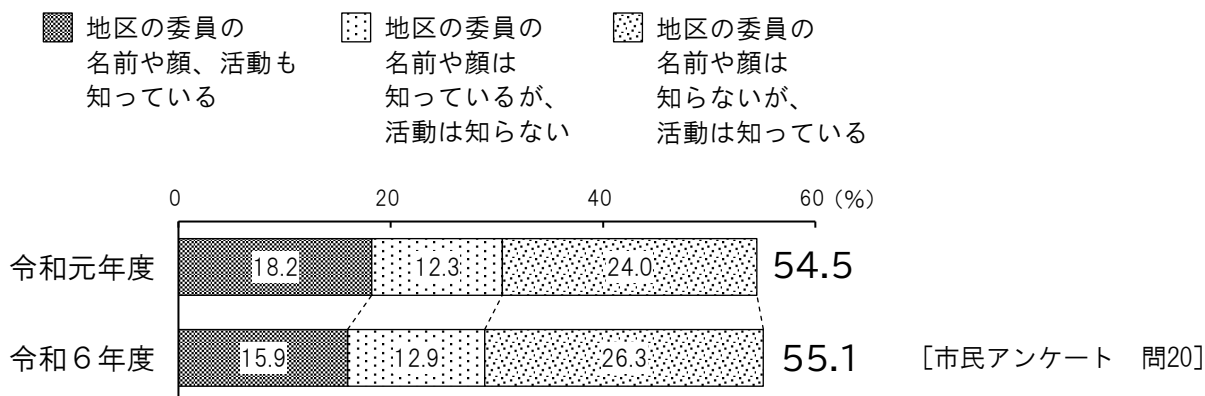
[市民アンケート 問11]

指標②	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
地域の支え合いや助け合いの評価 白岡市における地域の支え合いや助け合いについて「よくやっている」と「どちらかといえばやっている」と感じている割合の合計の増加	40.0%	50%

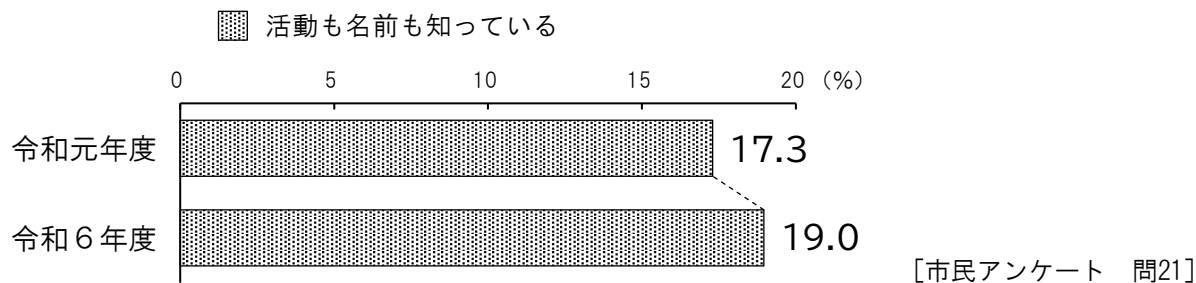


[市民アンケート 問34]

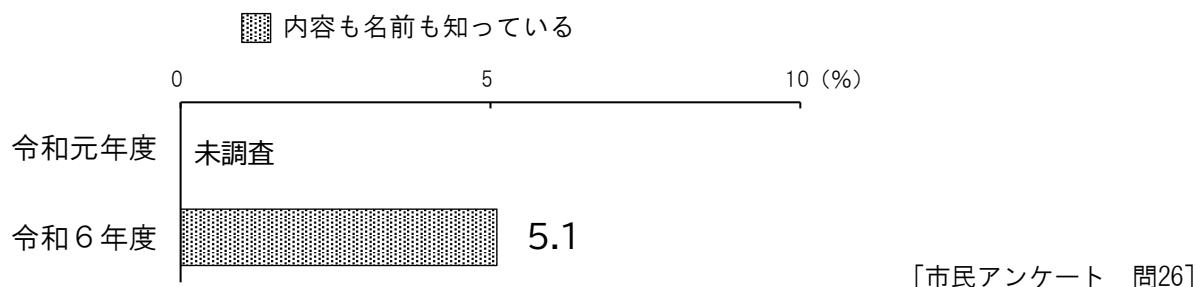
指標③	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
民生委員・児童委員の周知状況 民生委員・児童委員について、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」という割合の合計の増加	54.5%	65%



指標④	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
白岡市社会福祉協議会の周知状況 白岡市社会福祉協議会の「活動も名前も知っている」という割合の増加	17.3%	25%

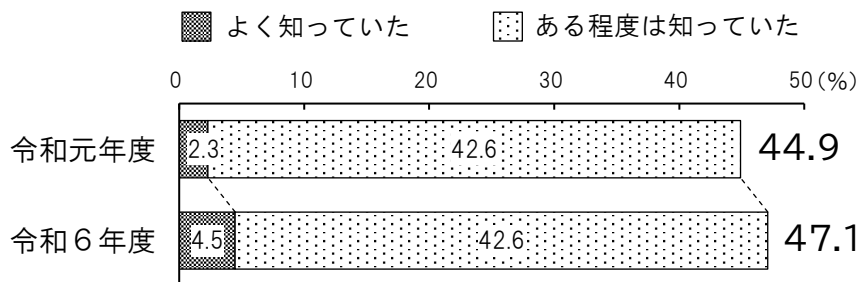


指標⑤	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
「社会を明るくする運動」の周知状況 「社会を明るくする運動」について「名前も内容も知っている」という割合	—	20%



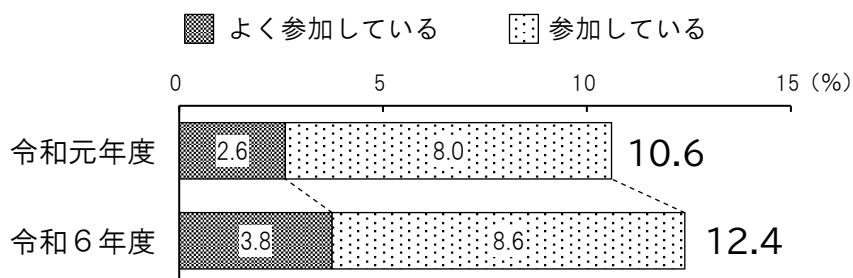
■ 「基本目標2 地域福祉の理解と担い手となる人づくり」に関するもの

指標⑥	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
「地域福祉」という言葉の認知度 「地域福祉」という言葉を「よく知っていた」と「ある程度は知っていた」という割合の合計の増加	44.9%	60%



[市民アンケート 問31]

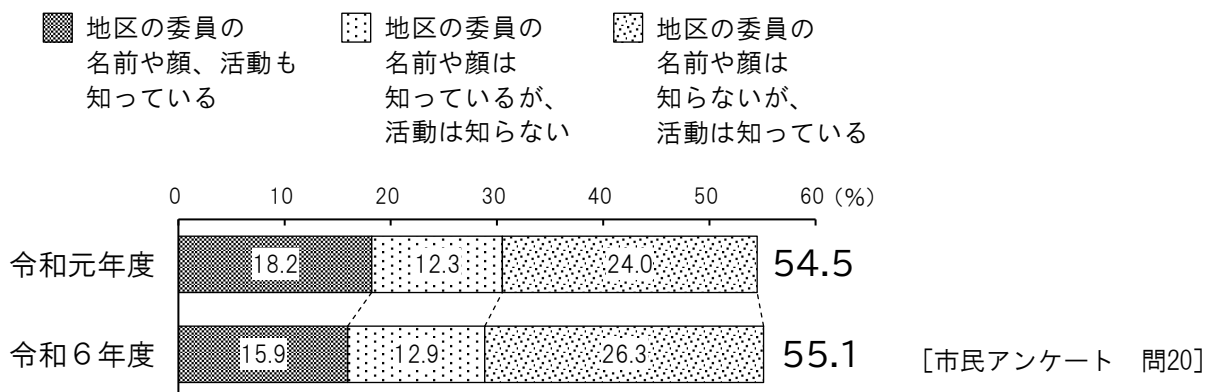
指標⑦	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
地域のボランティアの参加率 地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに「よく参加している」と「参加している」の割合の合計の増加	10.6%	30%



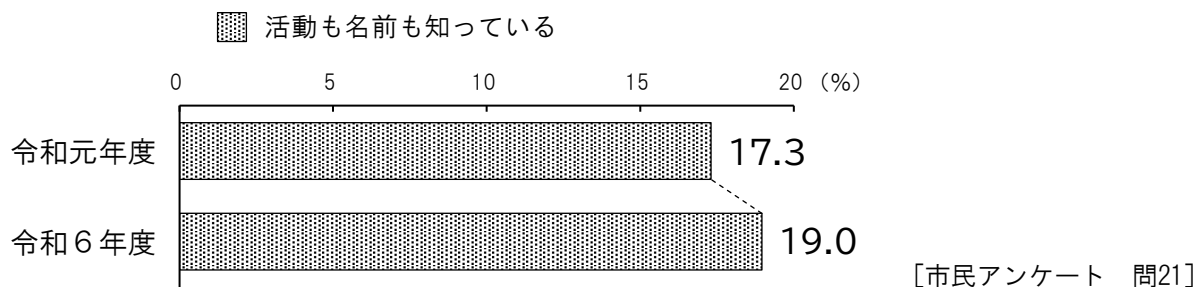
[市民アンケート 問16]

■ 「基本目標3 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり」に関するもの

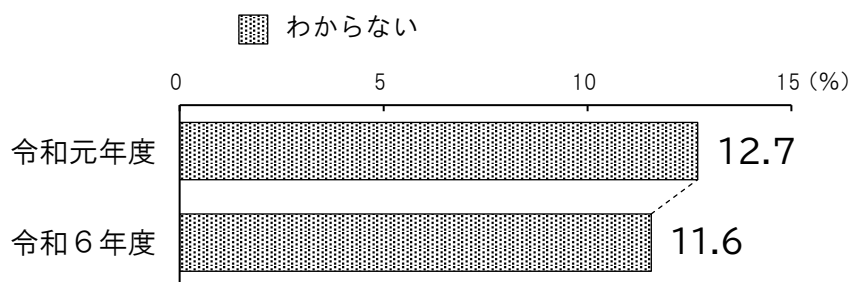
指標⑧（＝指標③再掲）	現状 （令和元年度）	目標 （令和7年度）
民生委員・児童委員の周知状況（再掲） 民生委員・児童委員について、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」という割合の合計の増加	54.5%	65%



指標⑨（＝指標④再掲）	現状 （令和元年度）	目標 （令和7年度）
白岡市社会福祉協議会の周知状況（再掲） 白岡市社会福祉協議会の「活動も名前も知っている」という割合の増加	17.3%	25%

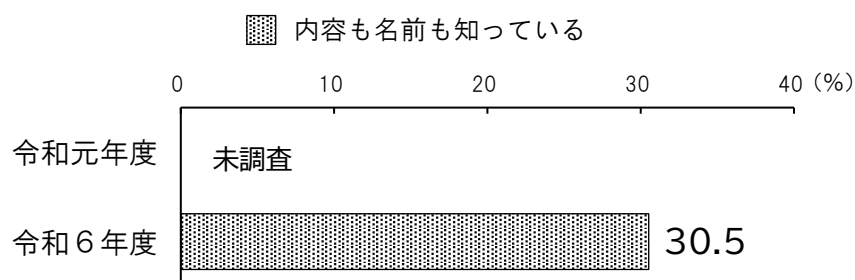


指標⑩	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
福祉に関する情報源の認知度 福祉に関する情報源が「わからない」という割合の減少	12.7%	5%



[市民アンケート 問29]

指標⑪	現状 (令和元年度)	目標 (令和7年度)
「成年後見制度」の周知状況 「成年後見制度」について「名前も内容も知っている」という割合	—	60%



[市民アンケート 問23]

資 料

自由意見

各調査票には、『地域福祉』についての意見、まちづくりのアイディアなどを自由に記載していただく欄を設けました。その結果、様々なご意見をいただきましたので、原文のまま紹介します。

なお、個人等を特定するような文章及び表現等については、削除・修正をしています。

1. 市民アンケート（207件）

（年齢別・性別に整理して掲載）

属性	意見内容
18～29歳・男性	若い世代は地域福祉について、あまり興味を持てていないが、小・中学生の早い段階からそれに関するボランティアがあるのを知っていたら、参加していたと思う。
	大山地区から白岡駅、もしくは新白岡駅まで行ける交通手段（バスなど）を整えてほしい。自動車の運転が難しい、自動車がいない高齢者にとって買い物の手段や移動手段が少ないように思えるから。また、大山地区は病院やクリニックがほとんどないため、診療するだけでひと苦勞に感じる。これから高齢者の割合が増えると予測できるため、ぜひともバスの検討を進めていただきたいです。駅から紫山沼までつないでいただければ、紫山沼は釣りのスポットとして有名なので、利便性が向上し地域活性化につながると考えられます。
	子どもたちが、スポーツができる施設を作ると良いと思う。
	まずゴミ袋を見直して。
	第一に市民の声を聞くこと、事務にチャットGPTを、用いるなどのリベラルを推し進めることが大切。まず行動、やるかやらないかではなく、やるか、やるか、やるか、1. コミュニティスペースの活用。地域住民が自由に集まり、交流できるコミュニティスペースを設けることが大切です。このスペースでは、地域のイベントやワークショップ、趣味の活動などを開催し、住民同士のつながりを強化することができます。2. 多世代交流の促進。高齢者と子ども、若者が一緒に活動できるプログラムを通じて、多世代の交流を促進します。例えば、高齢者が子どもに伝えたい昔の遊びを教えるイベントや、若者が高齢者の話を聞く時間を設けるなど、相互理解を深める機会を作ることが必要です。3. 地域のボランティアネットワーク。地域のボランティア活動を活性化させるためのネットワークを構築します。ボランティアの募集や活動の情報を共有し、住民が参加しやすい環境を整えることで、地域全体の福祉向上に寄与します。4. 福祉に関する情報提供。地域住民が必要な福祉サービスを簡単に見つけられる情報提供システムを構築します。ウェブサイトやアプリを通じて、福祉サービスや支援の情報を集約し、誰でもアクセスできるようにすることが重要です。5. 地域特性を活かしたサービス。地域の特性や資源を活かした福祉サービスを開発します。例えば、地元の農産物を利用した食育プログラムや、地域の文化をテーマにしたアート活動など、地域に根ざしたサービスが住民の関心を引き、参加を促します。6. 持続可能なまちづくり。環境に配慮した持続可能な地域づくりを進めることも重要です。地域の自然環境を保護し、住民が共に参加できるエコ活動や再生可能エネルギーの導入を促進することで、地域全体の生活の質を向上させることができます。これらのアイディアは、地域住民が主体的に関わり、協力し合うことで、よりよい地域福祉を実現するための一助となると考えます。地域の特性や住民のニーズに応じた柔軟なアプローチが求められるでしょう。

属性	意見内容
18～29歳・男性	ご老人に関係している質問が多く感じたのですが、若者に対しての福祉は考えていないのでしょうか。公的に幸せを達成しようと言うならお年寄りだけでなく、若者にも目を向けた取り組み、また他の市や県から来たいと思うような施設ができるといいなと感じます。（個人的にはスパジウムジャポンのようなスーパー銭湯があると、幅広い年代の人に利用して貰えると思います。）白岡はいいところだと思うので、需要ある施設を増やせばもっと住みやすくなると思います。
	若い世代を呼び込むために商業施設を作る。商業が発達しなければ、いつまで経っても栄えずこのまま。シラオカフェは無駄遣いじゃないのか住民に理解を得たのか。人が来なかったらどうするのか。活動しているのかがわかりづらい。
	今回の地域内の社会福祉は、とても良いと思います。ただ、社会的弱者をどこまで指すのかが、非常に気になります。昨今の移民問題で、日本に住むだけで外国人が優遇される現状を目の当たりにしました。社会福祉と名ばかりの外国人ファーストの政策を行い、川口市は、日本人が住みにくい街へと変わりました。白岡市にはそうはなって欲しくありません。日本人が住みやすい、白岡市民の為の地域福祉をして欲しいです。
18～29歳・女性	近くに身内のいないお年寄りに手厚いサービスを充実させてほしい。移動販売など、車がなくても不自由なく生活できたり、銀行に行きたくても気軽にいけないお年寄りのためのサービスを期待します。
	福祉活動をするための拠点づくり。
	ベルクができて良かったです。ダイソーなどの100均もあるとさらに助かります。
	安全な道路
	自治体だけでなく、住民の意見（賛成・反対）をしっかりと取り入れてください。農作物・金属の盗難、不法投棄をどうにかしてほしい。避難所（大山小）が無くなるのでどうにかしてほしい。
	もっと行政が中心になって動いてほしい。そして市民へしっかりと伝えてほしい。でないと市民も協力し動けないと思う。いま行政が何をやっているのかわからず全く伝わっていません。いま市民が何に困っているのか見極めてほしい。
	白岡駅に行くためのバスのダイヤが不便。もう少し増やして欲しい。
	小さなことでも、机上の議論で終わらず、まずは実行し結果が残っていけば、地域福祉の取り組みとして広まっていくと思います。
	私は学童でアルバイトをしています。そこで、子どもたちの障がい者への偏見や馬鹿にしたような態度が見られることが多く、インクルーシブ教育の難しさに直面しています。ただ一緒に過ごすのではなく、互いによりよく過ごすためにどうすれば良いのかを真剣に考え実行し、その案を修正していくような経験を積んでいかなければ偏見を無くすことは難しいのではないのでしょうか。大人も子どもも、障がい者も健常者も、互いのことを「一人の人」として見て助け合うことができる地域になったら嬉しいです。
30～39歳・男性	高齢者にとらわれず、今、将来必要としている子供たちのことも考えてほしい。
	最近やっていた「まちなかマルシェ」をきっかけに白岡市やその付近のまちなかを知ることができたので、こういったものを増やしていくことで地域のつながりや白岡市に住んでいる人同士のつながりを強化できるのではと考えております。
	特別な地域との関わりの機会が無く、何かあった時に地域のつながりが無い点に不安を感じる。地域ボランティアなど交流の場があると良い。

属性	意見内容
30～39歳・男性	地域福祉という言葉をはじめて知りました。私が思うことは地域福祉を成り立たせる前提として街の中心部に人を集めること（コンパクトシティ）が大切だと考えます。しかし、白岡は東西に広いため、現実的には難しいかと思います。なので、周辺地域にある空き家の利活用をしてみたいかと思いますが。白岡市内も空き家が目立つようになりました。特に放置空き家は景観を損ねるだけでなく、犯罪面でも心配です。空き家周辺の地区についてはご年配の方が多く見受けられます。ご年配の方はなかなか外に出るキッカケがございません。（身体的な理由など）そのため、地域を細分化し、老若男女問わず誰でも立ち寄れそうな空き家を利用することで地域コミュニティが図れるのではないかと、思います。そこで、定期的（〇ヶ月に一回など）に福祉の方が販売提供したり、〇〇講座などを設けることで、福祉の「きっかけ」を知ってもらい近隣周辺地域が、コミュニティがとれるような場所の提供をするのが良いかと思います。また、近隣周辺のコミュニティだけでなく、福祉参加型のイベント（梨作り体験など）を設けて、周辺地域以外の住民との交流もたせる「きっかけ」づくりを提供するのもおもしろいかもかもしれません。（所有権の問題等はあるかと思いますが…）大変だと思いますが、引き続き良い街にしていいただければ幸いです。
30～39歳・女性	防災・防犯の点から、深夜にどんぐり公園にたむろしている若者をよくみかけます。ベンチや砂場にたばこがポイ捨てされていることもあり、子どもが手にしたり口にしたりする危険があります。できれば夜間パトロールなども強化していただきたいです。 少子化が進んでいる菁莪地区では地域の人のほとんどが高齢者です。しかし、小学生の登下校の見守りや災害時の防災訓練など多くの高齢者の方が携わっています。こうしたことで幅広い世代で交流できる一方、他の地区よりも働く世代が少なく今後、地域の支え合いがきちんとできるのかとても不安です。 集まる機会がないので、興味ある方を集めて話すことが大事です。こもれびの森に来た方に、その場で10分～、どういう活動をしているのか、ボランティアに興味があるのか話してからが、よいかと思います。 介護施設のスタッフ（介護士）の教育。利用客にひどい言葉や世話をしないほしい。怖い方が多い。細い道路が多いからか、駅前のように左右を確認しないで渡る人、自転車、とても多い。埼信の出口にミラーがないので出にくい。高齢者が見ないで出てきたりするので危険。駅前の市役所なくなったのも困る。 群馬県立観音山ファミリーパークのような全世代が集い利用できる魅力的な公園を作してほしい。隣在市からも白岡へ遊びにくる人が増えると思う。それに伴って飲食店の出店も見込めるのではないかと。新白岡駅にエスカレーターを設置してほしい。 地域で若い人と高齢の方が関わる機会を増やしていくことが必要だと思う。区長をやる人が必ずしも定年を迎えた人でなく、若い世代も入っていくべきだと思う。 高齢ドライバーの問題をどうにかしてほしいです。 共働き家庭において、近所や地域との繋がり、助け合いを求められることは、大変苦痛です。仕事、子育てに加え、ボランティアや望まない交流まで行う余裕はありません。行政が、仕事として（賃金が発生するものとして）対応していただきたいです。 安心して子育てできるような環境があるとありがたいです。子ども達も白岡のことがより好きになると思います。
40～49歳・男性	川口市は介護ボランティアに報酬を与えている。 白岡駅は駅周辺など一部の地域は発展しているが、菁莪地区などは発展していない。伝統のある菁莪小学校を守る活動も考えていただきたい。学区の見直し等もふくめ、菁莪を小中一貫校にして、児童生徒を白岡の他地域からも来るようにしてほしい。

属性	意見内容
40～49歳・男性	地区の役員を経験して、企業をリタイヤした方々が色々動いてくれていることを知った。実に頼もしい。少子高齢化で現役世代は忙しく、高齢人材はたくさんいる。企業で勤め上げた優秀な方も多いので、報酬を与えて担ってもらいたい。高齢人材登録のLINEグループのようなものを作り、仕事内容と報酬額を提示し、その都度参加できる方にやってもらう。
	行政が中心でやって下さい。地域の人に求めるばかりでは困る。時代遅れの紙の回覧や広報紙では手間が多く、伝わらない。
	市役所が駅から遠いので、駅の近くに福祉や地域の相談窓口のような場所があっても良いと思う。
	小中学生や定年を迎えた年配の方は時間に余裕ができ、ボランティアなど福祉に関わることができるが、20～40代など現役世代は何かのきっかけがないかぎり、毎日の仕事や生活がいそがしく、関心をもつこともない。自分自身の体力があるかぎり、自ら福祉の大切さを感じる事は何かのきっかけがないかぎり、ないだろう。
	新しい市営住宅を作ってほしい。
	高齢世帯、独り暮らし世帯と若者世帯・子育て世帯との支え合いマッチング。
	白岡パークラインの所から住宅に入ると街灯がまったくありません。川と田んぼの道には街灯が1本だけで、月明かりがなければ、本当に真っ暗です。何故なのでしょう？子供も若い女性が歩くには正直怖いです。街灯が沢山ついている地域が羨ましいです。一度歩いてみて欲しいですね。
	最近多くの外国人が白岡市にいますが、騒音でうるさかったり騒いでいたりするので、そのうち犯罪に手を出すのでわないかと心配です。
	挨拶の徹底。知らない子供から大人まで誰もが出来ることを徹底的に行えるような街づくり。交流も必然的に増えるし防犯にも繋がる。
	過剰な福祉は軋轢と利益相反を生むため、あくまでもセーフティネットであるべき。
	あまり考えたことがないので、住みながら考えてみます。
	東口と西口をつなげる。
	放課後デイサービスを増やして欲しい。障がいをもつ人が白岡で働ける場所や地域で暮らしていける場所の創設、増設に取り組んで欲しい。現状、ほかの市町村まで利用範囲を広げないといけない。
40～49歳・女性	街の整備が進むのはいいのですが、道幅の確保・通勤通学しやすい道路整備など、まずは「子供の安全」を第一に掲げて頂けると、自然と人が集まる街になるかと思います。大人中心では住み心地の良い街ではありません。「子供＝老人」と考えれば、より分かりやすく誰もが心休まる地域になるのではないのでしょうか。あと、もっと植物を増やすのも魅力的だなと思います。
	子育て世代への支援は昔に比べ充実してきているので、今後は高齢者や福祉についての支援に力を入れていくと良いと思う。情報提供のやり方、アピールのやり方をSNS等を使い若い世代にも届くよう広めていけば良いのではないのでしょうか。
	道があちこちボコボコです。道がせまくて歩く場所がないのが危ないです。バスがなくなってしまう、歩いて移動になってしまったので、車のない方（運転できない方）の為に気軽に使用できる移動の手段がほしい。宮代線橋の幅を広げる&外灯&白線を引いてほしい。

属性	意見内容
40～49歳・女性	若く健康な時には、身近にお年寄りなどがいない場合には、あまり関心が無いかと思います。若い人は若い人で大変だなと思いますし。子どもがいる世帯・お年寄りだけの世帯で別々にコミュニケーションが取りやすくなれば良いのかと思います。畑などをやっているお年寄りに協力してもらい、小さい子どもがいる世帯が芋ほりや野菜の収穫などを通して交流が増えればお互いに関心がわきますし、お年寄りも生きがいになって元気になると思います。
	地域で支え合え、助け合えれば一番ですが、人口減少・少子化の昨今、なかなか難しいと思っています。難しいため、公助をより充実し、将来高齢となっても安心して白岡市で暮らしていけるようになっていたらいいなと思います。また、教育、学校で学ぶ機会があれば福祉・防犯意識が高まって大事なことだと思います。
	マミーマートの（ゴミ）リサイクルステーションと似たようなシステムを地域のお店かチェーン店（ドラッグストア）などで行っていると、リサイクル、街の美化につながると思う。
	近所との関連が希薄な中、やり方を今の時代にあったものにするべきでは？理想論が多すぎる。ボランティアではなくNPOにして、お金を発生すべきでは…。
	自分の住む地域はそこまで不便を感じないと思うが、スーパーが遠い地域には、もっと頻繁に移動スーパーを向かわせてあげたら良いと思う。また、街灯や防犯カメラの設置を推進してくれたら安心して暮らせると思う。
	私は、シングルマザーです。私の母親と同居なので、娘には1人にさせる事はないのですが、習い事の送迎を近いと母に頼めますが、車を運転できない母に遠いと頼みずらいです。ボランティアで、送迎や子供でも1人でタクシーに乗れると嬉しいです。
	福祉施設ばかり作っている。住民や福祉施設利用者が徒歩で行けるショッピングモールや若者達が集まれるチェーン店を白岡駅の東口ロータリーから市役所までの道に作ってほしい。福祉ばかりに力をいれている。市に何も期待出来ない。
50～59歳・男性	白岡市は高齢者の移動手段が少なすぎます。一部タクシー補助やバスなどありますが、きちんと予算を確保し、外部へ委託するのではなく、白岡市として循環バスを整備してほしいです。（1日6回程、白岡市内を循環する程度で良い。）
	回覧板以外、情報を知らない。区長、民生委員も知らない。地域の班長が10年に1回担当になるが、誰か全く知らない。近所、近くの人顔もわからない。
	ランニングマシン等を、お金を払って使用できるトレーニング施設をつくってほしい。
	地域福祉を推進するためには、ボランティアではなく、報酬を受け取る形での人材を募った方がいいと思う。登用条件等は厳格にして、いい人材を集めた方がいい。
	耕作放棄地に大きい商業施設を作ってほしい。
	自分の親は県外にいるため、現在の白岡市の福祉の状況がよく分かりません。あるいはどのような福祉が必要で、何に困っているのか自体がまったく分からない状況です。
	積極的広報ですね。明るい職員しか思い浮かばないくらいの印象付けですね。それだけでも、生活圏が気持ち良い。交通指導員の朝の登校時の笑顔と明るさがイメージですね。
50～59歳・女性	正直、今は仕事のためほぼ白岡（自宅）よりも職場にいる事が多く、地域や白岡の活動を認識してなかったのが、今後退職した後、白岡の近所との関わりがないのが不安です。
	身近に感じ、かわりが持てるようになってほしい（年齢をこえて）。

属性	意見内容
50～59歳・女性	白岡市は他の市町村に比べ福祉活動が遅れていると思う。もっと細かい福祉制度を整えるべきだと思う。
	防犯のために防犯カメラを人通りが少ない場所に取り付けてほしい。各家庭の玄関先とかで取り付けてほしい。子供だけでなく老人のためにも必要ではないかと思っています。
	いろいろな考えの方がいるので、推進はむずかしいと思う。
	岡泉は駅から遠く、高齢者だけでなく子どもも生活に不便を感じるが多々あります。乗り合いタクシーの営業時間の延長や稼働数、率を上げてもらえると多くの住民が、また働く母親にとっても子どもの送迎の心配が減ったり等、恩恵を受けられる人が増えると思います。是非検討をお願いします。
	下大崎に住んでいるので、子供から大人、お年寄りまで利用できるスーパー等が出来ればと思っています。コンビニだけでは不自由です。
	広報をどなたが配っているのかも、この数年は分からなくなっているほど地域に住んでいる人が誰かも分からなくなっています。不審者がウロついていることも多くなった。
	これから考えたいと思います。
	フルタイムで勤務をしているので地域福祉になかなか協力できず、申し訳なく思っています。少しでも自分にできることがあればお手伝いをしたいと思います。
	とにかく交通の手段がない。バスも通っていない。街灯を付けてほしい。暗すぎて歩けない。防犯対策のためにも。空き家の雑草がのびすぎて道路までせまってくる。国保も高すぎて負担が大きすぎる。ゴミ袋が有料で、外で燃やす家が多く、臭いや煙の問題がひどい。ゴミ袋を買いに行けない。
	新白岡は住宅ばかり増えているが、色々な公共施設が全然足りないと思う。駅前駐車場の利用者ばかりで、使用者のモラルの欠如が著しい。
	市内バスを再開してほしいです。
	毎回、集積所がカラスに荒らされる問題があります。近所の方にこの問題を共有できれば、ゴミの出し方が改善するのではと思っています。
	白岡市の行政サービスについて知らないことがわかりました。今は必要としていないから情報を集めていないからですが、今後は必要になるので、高齢者向けのサービスのパンフレットがあるといいです。もうあるなら将来欲しいと思います。
	白岡在住の外国の方にも、常にわかりやすいように、防災行政無線の放送などを外国語でもアナウンスするとか、市内で掲示されている様々な案内・看板を外国語でも表記するなど、工夫があっても良いように思います。緊急時、市内にいる外国の方が、言葉が通じなくて困ってしまうことが無いようにする必要があると思います。
	具体的にこのような不安や悩みは、ここへ相談できます、とわかりやすいと良いなと思います。
60～69歳・男性	何かお手伝い出来る事があれば自分の空いた時間でやりたいと思いますが、情報が無い。
	定年年齢も伸びている中、元気な人は忙しく、なかなかボランティアの発想まで時間的に余裕がないところ。ボランティアを強制する体制にならないように、余暇の一環としてできるといいなと思います。現役世代の遠隔地親世代介護の問題もあります。

属性	意見内容
60～69歳・男性	高齢化や1人暮らし世帯の増加が予測されています。自身も1人暮らしをしており、健康面やアクシデントの対応が必要となった時の不安があります。今回福祉総合相談窓口を知りましたが、広報などを通じて相談事例や窓口の内容をもっと詳しく教えて下さい。
	地域福祉は重要だと思いますが、行きすぎた福祉は川口市や群馬県の市町村みたいになってしまうことが懸念されます。しっかりした対策をして、行うことが必要だと思います。
	各種行政サービスへのアンドロイドの投入。介護ロボット、交通安全ロボット。
	公共交通機関がナイ。新白岡ー白岡ー市役所ーパーク病院等結ぶ交通が必要。バスが出来たがすぐなくなった（白岡→市役所ーパーク病院経由のけんちゃんバス）。市で利用促進が必要。
	限られた予算（人口5万人規模）の中で事業を行うことは大変なことと思います。職員の方々の知恵と行動力（やる気）を期待しています。できない部分などを市民に問いかけて割り振っていかれてはどうでしょうか。100%の賛同が得られなくとも、手を貸す市民とともに、よい方向に動かすことができればと思います。
	個人を尊重した上で、交流をはぐくむことができる、負担の少ない場所の創設。
	環境問題について市が中心となり考えないと。町会の役割？機能していない。
	車の運転をしないので、病院や飲食店、スーパーなど不便なので、バスなど運用してほしい。家の近所しか利用できない。スーパーや色々な店にも足を運びたいがタクシー、自転車も遠方だと無理で困る。
	市民の足となる交通システム～循環バス、タクシーなどの充実。私も含め、車が運転できなくなることが不安。あと10年位かな？
	私的で申し訳ないのですが、生前父親が寝たきりでトイレにも自分では行けない状態で、要介護の段階判定で最初は5と判定いただいたのですが、次回の判定では4になりました。父親の状態は5と判定いただいた時と変わりありませんでした。家族にはなぜ？という疑問しかありませんでした。家族にはちゃんとした説明が必要だと思います。
	地域福祉は、やはり行政が主となって活動を充実させ、内容を明確にし、市民の協力を得るように行動した方が良いと思います。
	行政区内の民生委員の活動が不明。
	通勤に約2時間費やしているので、休日の外出は辛いので社会貢献は75才以降になると思います。以上。
	人にやさしい福祉の町であってほしい。

あいさつ運動の実施（まずはあいさつから）。運動公園の利用者による一坪清掃実施。（落ち葉掃き、草とり等。運動公園に清掃用具、廃棄場所を用意し、利用者の協力を得て公園の美化に努める。経費節減にもなる。）

難しい言葉や表現じゃなくて、お年寄りでもわかり易い問題定義からのマルバツ方式の答えの導き方など、それでも解決しなければ相談先やアドバイス窓口など迅速な対応が出来る白岡市民フォーマットのものを作成して全市民に配布してみるのはいかがでしょう？

コミュニティバス廃止は高齢者からすれば不便である。これから高齢者が増える社会なのに問題だ。免許証返納もなかなか難しくなるのでは。

属性	意見内容
60～69歳・男性	一番身近に感じる事として、市だけでなく、日本人は駐車場のハンディキャップの取扱いに関する意識が低すぎる。使う側の責任が大きい、施設側でもその状況を知っていても何も言う事も無い。この様な一番初歩であり、基本的な事を意識もせず、「福祉」等のアンケート等する時点で少しずれている気がする。アメリカ等ではハンディキャップの駐車スペースなどに対する意識は当然の様に備わっている。まず、その様な基本的なリテラシーを醸成するためにも、まずは公共施設からでもハンディキャップの駐車スペース等の利用（注意）等から始めるべきでは無いと思う。地域の警察パトロール等でも「違反」ではなくても良識の扱いで注意するなどから取組むべきでは無いと思う。 きっかけが有効だと思います。
60～69歳・女性	下大崎地区は住みにくくなりました。住宅地ではなく、工業団地になり、畦道にもゴミが投げ捨てられ、私の家の前もトラックがゴミを投げていきます。一晩中、トラックのエンジンがついたままの騒音、トラックの近くでの立ちションでの異臭…最悪です。私が免許返納したら、ここには住めませんね…住み良い田舎暮らしなんて、できません。 近所に高齢の1人住まいの方が何人かいらっしゃいますが、福祉関係の方の訪問を見たことがありません。私が気付かないだけなのかもしれませんが、回数を増やして下さると良いと思います。 駅ビルがもっと活性するか、100均を誘致して頂いたら高齢の方々もその店まで歩く原動力になって体力強化になると思います。不便な白岡では無く楽しい白岡にして頂きたいです。 基本、自分の身の回りのことは自分で何とかしなくてはと思う。頼りなくなったら相談しやすい場があればありがたいと考えますが、最近は問題が発生した時に何でも行政の責任にしている（報道）のも気になります。 私は数年前から実家の父の介護を、月の半分を他県に通ってやっています。白岡市に長年住んで、子育ても終わり、これから地域活動に参加したいと思ってはいたけれど出来ません。今、父の介護を通して、となり近所の見守りや手助け（ゴミ出し、話し相手、災害での声かけなど）必要であり、支えてもらっています。近所付き合いは大切だと思います。 これから白岡市に住み始めますので、不安はありますが、住み良い白岡になるために考えていきたいと思います。 コロナが流行した為、地域の行事がなくなってしまい、本来のかかわりがごく近所の人だけになってしまった。高齢化により、いつのまにか空家が増えている。バスが運行したが利用者が少ないのか、廃止され残念です。 地域福祉とは異なりますが、市民は町会費を徴収されていますが、市民ボランティアのゴミゼロキャンペーンにおいて、市からの配布がないからと軍手やビニール袋は各自ご準備下さいとの事。町会費は何の為にあるか聞きたい。 たいへんな事だと思いますが、地域福祉は大切な事ですので、市がしっかり体制を作っていただきたいと思います。 必要とする店がなさすぎる。すべてが中途半端すぎる。 子供食堂など、費用や場所、人員など、市が協力体制を作り、増えていけば良いと思う。農家などのB品野菜、家庭の不用品など必要としている場所や家庭に届けられるシステム作りをして、提供者も利用者も気軽に参加できると良いと思う。

属性	意見内容
60～69歳・女性	市役所の「環境課」に近所の空家のさまざまな問題を防災・防犯を防ぐ為に相談してもダメ。安心して暮らせる地域づくりを真剣に取り組んでももらいたいです。個人の問題だけでは済まないと思います。
	1年半でバスが無くなりました。バスは病院だけでなくスーパーにもとまっていた。お年寄りの方は買い物したり、そこで会った方とお話したり、でかけたりするのも、足を使うし認知症予防にもいいんじゃないかな。とにかく残念でした。福祉にたよらない体をつくりたいです。
	地域福祉について、あまり考えた事がないことや知らない事が多いので「地域福祉についてどう思うか」といきなり聞かれてもピンとこないというのが正直な気持ちです。ですが、自分が高齢になり、身体の無理もきかなくなり始め、色々と考え始めました。とりあえず一番思うことは、白岡市内で交通の便がほとんど無いことです。私は今、駅に近い所に住んでいますが、バスも無し、身体的に歩くのは無理。かろうじて自転車には乗れますが、乗れなくなったらどうしよう…。この数年間で行動範囲がすごくせまりました。まともななくてすみません。
	小学校など小さい時からの啓蒙活動が必要で、困った時はお互いに助け合うことが当然だという考えを自然に持てるようにしていくと良いと思う。
	人口5万弱という大きすぎない規模や素直でフレンドリーな人が多いという気風を生かして、住民自ら活動し助け合いが生まれていく町になったらいいと思う。いろんな世代でコミュニケーションが図れる機会を増やすことが一つのヒント？きっかけ？になるように思う。
	子供に対する親の虐待が気になり、家で子供が泣いていると、道路などで、しばらく立ち止まってしまう。私たち年寄りは、民生委員に、名簿があり、家や本人を確認できますが、子供の名簿は無理なんですよ。家庭内暴力、育児放棄が気になります。もしどこかで連絡あったら、小さい子供だったら、ノートや、クレヨンなど持って見守ってくれないかなと思います。必ず本人に渡すことがいいなと、いつも思ってます。いろいろ大変だと思いますが。
70～79歳・男性	若い人・住民がふえる中で、高齢者にとってじゃまあつかいをするまわりの人が多すぎる。高齢者は昔から日本を支えてきた人たちで、若い人たちはもっと大切にあってほしい。
	情報は、広報しらおかから得ていますが、わかりづらいです。もう少し工夫が必要と思います。親からの地元民と、よそから来ている人の混在している町で、つながりからこぼれる人がいるのを、見つけるのは大変でしょうが、もっと活発な活動が必要だと思います。又、関係ないかもしれませんが、町が汚いです。よくボリのゴミがあちこち捨ててあります。誇りをもてる町には？
	子供食堂など、設置を推進してほしい。経済的に恵まれない中学生、受験生に対する学習支援の場を提供してほしい。（塾費が高くて困っていると聞いている。）
	白岡駅周辺には衣料品店、書店、喫茶店、宿泊施設がありません。市民は市外のショッピングモールや大宮駅あたりの施設を利用するなど不便と寂しさを感じています。西口再開発の一環として、下記の提案をご検討願います。西口に上層階はホテルなどの宿泊施設とし、下層階（1～2階）には衣料品店、本屋さん、喫茶店その他の商店や、子育て支援のために保育園などが入る施設を作る。
	あまりにも公共交通機関が少なすぎるので研究してほしい。
	地域福祉の充実のためには「場所の提供」が必要だと考えます。そのためには住民が集まりやすくするため白岡駅及び新白岡駅前の再開発が重要だと思います。

属性	意見内容
70～79歳・男性	転居してきて間がないため良くわからない知らないことが多い。これから若い家族のためにも地域に少しでも役立っていきたいと考えます。
	新白岡に住んでいますが、基本的な生活インフラが乏しく（商店、飲食、カフェetc.、市内交通アクセス、市役所・図書館）、人口が増えた割には駅周辺の魅力に欠けている。地域福祉の一環として新白岡駅前インフラの整備を願いたい。
	選挙の投票における不在者投票所の拡充（特に新白岡地区）、及び移動手段の確保。
	外出する際の交通手段が少なすぎる。
	題意には該当しませんが、白岡に転居後4年余になりますが、住み良い所です。最近では戸建の増加、事件等も耳に入ってきて来ますので少々治安が気になりますが、そこを除けば重なりますが住み良い所です。市長の行政手腕にも期待しています。
	あまり考えた事が無い。
	障がい者、日常生活用具の給付金が足りない。
	何でも相談できる「ホットライン」を設け、的確なアドバイス・回答ができるシステムがあれば良い。
	行政、福祉活動者が「助けてやっている」という上から目線でやっていては、ダメ。
	小学生には給食も無料にした方が良くと思う。子供には世話がかかるため、特にお願いしたいと思われる。他の市より積極的にした方が良くと思います。人口の増加が見られると思います。のちのちは税が増えると思います。（例、千葉県流山市）
	閉鎖的な環境が強く難しい。
	福祉は行政の責任で行うことをまず確認する。安易に共助という耳に綺麗な方向にならないよう、くれぐれも。
	行政区の中で助けが必要と思われる人に、役員からどんな介助を求めますかと問い、近所からボランティアを募るのが良いと思う
	民生委員や児童委員など、古くから白岡にいる方たちが任命されているように感じます。比較的若い人が中心の新住民と高齢者を含む旧住民・・・子育ての福祉と高齢者への福祉と大きなギャップがあるように思えます。そしていろいろな委員が古くから白岡にいる人達では、新住民との疎通が困難になっているっていうことはないのでしょうか。
	高齢者が駅、病院、買い物等に利用出来る車やバスを運行して欲しい。
70～79歳・女性	持ち主不明の土地がとなりになり、自分も空地で困っています。何度か市窓口に行きましたが、もう少し親身に考えてほしいです。駅、病院等へ行くための交通手段（バス）が欲しいです。（市長選が終わってしまったので当分は無理でしょうね。）
	子育て支援の充実（子供食堂等）、学童保育、給食費無償化、配食サービスの拡充（希望者全員）、独居老人の見守り。
	今は運転して病院、買物、サークル活動が自由に出来るが、免許証を返納したら不便になる。移動手段がほしい。
	問37で「身近な地域に…」と有るように老若男女が気軽に交流できる場所があれば、今日行く（教育）所ができ、輪が広がればそこから生まれてくるものが沢山あると思います。
	私は今迄、地域福祉に関心でした。このアンケート調査でよく分かりましたので、関心を持つと思いました。

属性	意見内容
70～79歳・女性	手助けが必要そうだと思えても、情報漏洩などを気にして1歩先に出て声掛けができない。民生委員の立場なら可能なのか…？まだまだ民生委員も遠い存在のような気がする。地域格差があるようだ。腕章や目立ちウェアを着用するといいいのでは。人数ももっと増やし近くの変化に気付く委員がいてくれると気軽に頼れるのでは…？
	物価高の生活になり、各個人の考えが失われているような感じがするが、ひとりひとりの横のつながりを大切にするように感じられます。
	平等な福祉を望む。(例) 緊急時通報システム（固定型は無料なのに携帯型は月980円）、地区によって何もしない民生委員。
	良く分かりませんが老人が多く、順番の世の中と聞いております。自分の家族で守る、なるべく人の手を借りたくない、が理想としていますので…。手助けは必要ないかと思えます。国から出るお金も、わけわからない。頂けたり、なかったりと、よくわからない。もっとくわしく知れるように。
	市役所などに行く循環バスがあると良い。年を取ると自力ではなかなか行けなくて不便です。
	駅近くに住んでいますが、買物が不便です。
	白岡市は友人とお茶を飲んだり、簡単な食事をするところがあまりにも少ない。
	お金を出してもいいのでゴミ出しは一軒ずつ（自宅前）で持って行ってほしい。
	現在は働いて元気に過ごしていますが、将来についての不安はあります。福祉サービス（有料も含む）の充実を望みます。
	地域福祉という言葉だけは良く耳にしますが、行政と地域の関係をみると、とても協力できるものではないのが現状では？行政で地域の実情を把握しているとは思えません。行政と地域で信頼関係を築くには情報を共有する必要があるのではないかと思います。今後は高齢者が高齢者を支える時代ですから。
	昨年から車椅子生活になり、外出の時の道路に困惑しています。地域福祉には誰もが外に出かけられるように道の整備、交通（移動手段）の整備、充実が必要と感じています。車椅子で動きづらい時、通りがかりの人によく助けられます。
	車の運転ができなくなった時、家から一歩も出なくなる事のないよう、循環バス等で駅、スーパー、市役所周辺、病院など外出できる機会があると良いですね。
	田んぼ、畑の地域に住んでいるので管理が出来なくなる事が一番の不安。地域といわれてもだんだん無理になるのは当然。これは行政の力や良い提案があればと思っています。次の世代に負の遺産を残さない為にも。夏になると道幅が狭くなり、歩いていて事故にあいそうです。
	ご近所の方で、毎日よく散歩し、家の掃除もピカピカで庭も雑草一つ無くて、毎週火・金曜日に車（送迎車）が来てリハビリを（介護保険を使用しているらしい）している。何かおかしいと思う。ケアマネージャーは的確に判断しているか否か、不思議です。
	もっと高齢になった時、どこに相談したらよいか、地域福祉を上手に活用できるか心配。
	市の面積に対し人口が少ない（人口密度が低い）。交通の便が悪い（バス無し、免許返納）。一人暮らしが増えて支え合いが無ければ今後ますます孤立が進みそう。財政力が乏しくては、助け合いだけではかなり厳しいと思う。
	我々年を重ねすぎてお相手するのが大変そう。

属性	意見内容
70～79歳・女性	コミュニティ、はびす、こもれび等、行ってみようと思っても交通手段が欠落。循環ミニバス等の設定をすべき。久喜・蓮田の文化面・施設よりレベルが低い。市長も参観・体感すべきだ。
	この町に来て一番感じた事は、歩道の整備も少なく、道路を自転車で行く時などは非常に危険だという事。又、側溝の蓋もない所があり、下水の臭いがする場所も多く、安心して暮らせるように道路環境の整備をお願い申し上げます。
	巡回バスを走らせて下さい。ぜひお願い致します。
	この町の向上については町民が施設などに集まり、この町の発展に向け1人1人が意識を高める必要があると考える。今私は介護をされているが、される側する側がお互い、尊厳を守りコミュニケーション向上に努める事。
	買い物出来る店舗が少なすぎる。高齢者が歩いて買い物に行けるように。マミーマート1軒しかスーパーがありません。他は全部車で行かなくてはなりません。10年でコンビニが出来ただけですよ。病院が少ないので不安です。白岡中央総合病院は移転されるんですよね。もっと高齢者が暮らしやすい所にして欲しい。
	フードドライブ等のお手伝いができればと思っていますが、どうしたらいいのかわかりません。相談できる場があればと思います。
	安心して歩ける歩道を増やす。
80歳以上・男性	みんなと話し合いを持つ。
	町で行っている福祉についてももっともっと知らせてもらいたい。
	認知症で困っている家族より。ひとりの年金で生活が大変です。困りごとで相談に行くと、相談してくれるが話していると、これはあちらですとたらい回しで結局答えが出ず、壁にあたったり、がっかりして帰り、がまんして身を削り生活をしている。
	積極的に出て行く事をしない私ですが、そのような機会も無い
	高齢者で免許証の無い方の役所や買物時の足がなく非常に不便の為、バスの運行の充実をお願いしたい。
	地域や子供に迷惑（子供の人生を奪い手助けを頼む）をかけるようになったら合法的に人生を喜んで終わらせたい（安楽死を望む）。人生の幕は己の意志で閉じたい。
	歩ける距離に買い物ができる所があれば良い（せめてコンビニ）。バス停も近くなる、近い将来歩けなくなった時、病院もコンビニもない。
	私の地域は宇都宮線西側である。ウェルシアハウス支援センターは比較的至近である。従って広大な小久喜地区なため区切っても良いのではないかな。ぽっかぽかまで歩いて20～30分かかります。
	近年は防災訓練もなく、行政区の活動が無い。防災無線がほとんど聞き取れない為、防災意識が薄れてきた。安心して歩けるように道路の拡幅、歩車道分離の促進。身近な児童遊園の確保、整備（3世代が交流できる）。コロナ禍以降、行政区としての行事等がなくなり、交流の場が無くなった。
	私は今現在も80才を超える高齢ですが、幸い未だ足腰頭も大丈夫です。従って他人に対しての福祉的な援助はなかなか難しいですが、自分も世話にならなくて済んでいます。老人会を通してここ20年近く健康寿命を延ばすお手伝いはしていますが、援助等のボランティアは行っていません。いずれお世話になるかも知れませんが、出来るだけ自力で生きていきたいと思っています。
	おれがずっと住みやすいようにしてほしいです。（知的障がい者本人）

属性	意見内容
80歳以上・男性	自己責任から自助努力への手助け体制の設計を。
	アンケートの内容が、自分の年齢に合わないものが多く返事にこまる内容が多く、困りました。15才～20才前でしたら、ちゃんと返事できたと、思いました。申し訳ありません。
	市役所の職員が市民の意見を聴取する、今迄そのような状況を見た事がない。まさに「怠慢」と言うしかない状態である。再考、一考を要望する。問7に、老人福祉センターを、何故、項目に入れないのですか。
	高齢者が増えている社会で、体が動かなくなる前に防犯活動に協力しあわないといけないと思う。白岡でのどろぼうは今少ないが、家の戸締りや、スマホからのサギに注意するなどの防犯対策も重要と思います。
	タクシーが利用手段として利用できない時間帯がある。個人宅の樹木が道路側に出ている所がある。通学や交通に危険を感じています。
	時間と金を持っている老人をどんどん使いこなす。実現するには老人を利用するとよいです。
	市内のバスを作ってください。
	良言が先に走り過ぎて現実が付いていってない。例えば足元を見て下さい。下水の蓋はガタガタだし舗装道路も平でなく歩きながらつまづく。
	木の伐採（公園）。花壇の知識のない剪定。毎年シルバーセンターの事務所近辺のつつじの剪定だけは見本のように施行されている。本年咲くのは運動公園のみ。2025年5月に花咲くつつじは何箇所公園があるか教えて下さい。多分運動公園だけ花が咲くのではないか。
	消防関係をもう少し良くしてもらいたい。お年寄りの為の運動関係を増やせたらと思う。私はコロナ騒ぎの前4～5年、運動体操をお手伝いしましたが、新しい所は遠くなりすぎです。消防関係は防火管理者等増員すれば。私は、講習会は東京本社、川越までも行ってきました。新都心も良い所に有ります。皆な頑張れ。
80歳以上・女性	地域福祉について、皆で話し合える場をもっと作ると良いと思う。色々話し合って良いアイデアも出てくるような気がします。私はニュースなどで関心を持って見ている。高齢者などが集う場所が無い。
	地域に交流の場を。会話による日々の生活の活性化による生きがいの充実や体力維持を先行させるべき。
	福祉についての用紙ですが、私は新白岡に9年位住んでいますが、白岡のこもれびの森の図書館に度々行ってますが、車道をいつも通ってます。自転車ですが。いつも感じるのが車道の横の草すら刈ってくれていない。歩道はスペースを作る気持ちがあれば出来るはずと。市は新白岡の人達の願いを考えてほしい。草と車道を気にしながらいる私達の事を考えてほしいと思います。大きな事故が発生しなければ市は歩道を考えないのか。人口の多い新白岡の住民を大切にしてほしい。新白岡⇄白岡（図書館、市役所）、もっと近くなるように今年は歩道を考える事です。
	子供から高齢者まで全ての人が安心して楽しく暮らせるように、地域の人達が協力し助け合うことだと思います。
	地域福祉者である証明（バッジ、たすき等）を持って一人暮らしの家を訪問してほしい。
	家、施設を選べるように。望む。

属性	意見内容
80歳以上・女性	地域の助け合いが大切と思うが、プライバシーを守るのも難しい。話し合いや講習等で勉強した人達に期待します。
	1. 移動手段がない。(買い物や通院などの日交通が不便。せめて市内バスが通るとよいのですが。) 2. 駅周辺に比べてまわりの地域はイベントなどがあっても参加できない。
	病院や買い物などに行くバスがあれば良いですね。
	高齢者を交え、話し合う機会を持つ意義？があると良い。
	カフェがないのでつくってほしいです。
	白岡市(山地区)はとても地域の交流はさかんでまとまりが良いと思います。それは一部かもしれませんが、非協力的な人は大勢います。たとえば山の広場の花植なんか良い例。山の広場でのイベント等。
	市内循環バス(市役所・図書館・病院・公民館・コミセン・老人福祉センター等、公共施設及び市街地)の設置。指定ゴミ袋を手持ち式に(他行政区は殆ど手持ち式)。結べる。
	白岡市はとても良い市だと思います。長い間、スポーツでボランティアをして来ました。教育委員の女性の先生には、困った事等、よく相談して、良い答えを頂き、長い間ボランティアを続ける事が出来ました。人形劇を教えてもらって、地区も回りました。幼稚園も行きました。スポーツは少女ソフトボールのチームでした。良い時代だったと思います。私は遠い岡山の方から来ましたが、白岡は第2の故郷です。白岡市に感謝致します。
	地域福祉とはわかりました。しかし実際は民生委員等が全然役目を果たしていません。何を相談しても包括センターへ行くように、だけで親身になって考えてくれないです。
不明	今回のアンケートで白岡市社会福祉協議会の存在を初めて知った。私は今、自分で何でも出来るが年老いた時の不安は大きい。これからも白岡に住み続けたいので、もっと情報を発信してもらいたい。HP×、手紙○。確実に目にするから。市役所でも聞きに行かないと教えてもらえないという状況はどうなんだろうと常日頃思っている。
	防災、防犯の充実を進めるために“外灯”の設置。
	5月のゴミゼロの日をやめて、シルバー人材の人に公園の草取りをしていただきたい。福祉のアイデアに関係ないかもしれませんが？

2. 民生委員・児童委員（26件）

意見内容
人が集まれるカフェ（お茶やランチが楽しめる）があると、いいですね。
地域の高齢化率が高くなっており、民生委員の担当する高齢者が年々多くなっていると思います。民生委員の活動に負担や責任を感じる人が多いです。
高齢者宅へ訪問してもなかなか会えないことが多い。
高齢者、独居生活者等の支援体制がまだまだのような気が致します。
包括支援センターの担当がかわると今迄の対応と違ってするのが苦労している。
いつでもそこへ行けば誰かと顔をあわせ、お話ができる場所が必要と思う。交通を使わず足で行ける場所。
市から民生委員への「情報＝担当地区の住民の現況」の還元がほとんどなく、リアルタイムでの状況把握が難しく、かゆい所に手が届かない感。もう少し民生委員を信用して連携を深めるべきと思う。
この所、近隣トラブルが多くなってきました。ただ聞くだけしかできない。
若い世代の方が地域社会にあまり関心がないように思える。
働く世代との交流が少なく、地域福祉に導入方法が難しいかと思う。
高齢化社会になり、身内の支えが少なくなっていくのは必然です。地域で支えられるように日頃のお付き合いを大切にして“遠くの親戚よりも近くの他人”という考えを大事にしたいと思う。
訪問活動の中で、全く一度もお会いできないお宅があるが放置していいのか。民生委員が市（高齢福祉）の職員の方に気軽に相談できる時間・場所（定期的に）があると安心できる。
今朝たまたまラジオでフードバンクの話の聞きました。市内にどれだけ貧困家庭があるのかわかりませんが、そのような家庭に向けて配食サービスを行うと良いと思います。廃棄される給食残飯やコンビニ・スーパーなどの食品を集めれば、まかなえる量になるかと。また、フードロス問題の解決にもつながるかと思います。
防犯活動の充実を進めてほしい（早急に）。①防犯カメラの設置②街灯明るくする。白岡はどちらも不十分っていうかやっていない。
日中独居の方が周りにたくさんいるので、どうしたら良いか分からない。（でも皆さん元気です。）
人と人とのつながりが減りました。ぶっそうな世の中が加速し、よけいにそうなっているようです。とても現況がわかりにくいです。
亡くなっても連絡がなくて訪問したことがある。そば配食の時、3軒位あった。
地域住民、特に子供が少なく、高齢者が増加し、空家住宅が増える中、住宅が建てやすくできる空家対策が重要。
隼人堀土手を桜並木にする。観光地になる公園があるとよい。キッカケが無いと訪問しづらい。
市役所に連絡しても、包括やケアマネに連絡しますということで、その結果どうなったのかのフィードバックがない。
高齢者が多い為、支える人・ボランティアを確保することは難しいと思います。市の福祉サービスを強化してほしいです。
個人情報壁が厚くて、どうにかありませんか？
高齢御夫婦（91才、89才）の見守りをしています。お二人いるので家庭訪問はしていますが、市役所では二人いたら訪問しなくて良いとの事ですが、心配なので家庭訪問しています。

意見内容
行政区の役員との関わりが少し難しいです。行政に口出ししていると思われたり、女性は黙っているような考え方の人もいて、協力しにくいです。もっと理解してほしいと思います。
民生委員のなり手を探すのが大変です。各地区ではどのようにして見つけているのか知りたいです。
買い物や病院に通院など出かけて行くのが大変な方が多いと感じます ウォーキングする方を多く見かけますが、歩道のない道ばかりで危ないと感じます。

3. ボランティア団体（9件）

意見内容
活動時間が限られるため、伝えきれているのか不安に思います。
誰でも集まれる場が「みんなの家的な」があると良い。人が集まれば、話しの中に、困ったこととか必要なことが出てくるのでは？
区民会館を、住民にとって活動しやすい場所にリフォームしたいと思っていても、理解が得られないので困ります。
少人数で高齢化のため、活動内容を広げられない。
集える場所づくり。そこで好きなことをして、食事を一緒に取ることができる場所。歩いて行けるところにあることが重要。
一人暮らしの人が家の中でポツンとしていることが多いように思うが、自分から出かけることが出来ればよいが、出来ない人は何か方法を考え、出かける機会があると良いと思う。
聴覚障がい者のことや手話をもっと広めたい。市内の小中学での福祉体験をすべての学校でしてほしい。手話の福祉体験をしない小中学校もある。中学3年間の在学中に1回しかない上に、選択制のため体験しない生徒もいる。小中学でももっと増やしてほしい。学校以外でも広める場所、機会を増やして啓蒙に取り組んでほしい。
誰でも、フラッと立ち寄れる無料のたまり場があるといい。
住民に必要な支援を紹介する1つの相談窓口を作れば、住民と地域福祉をつなげることができるのではないかと考えています。自身で生活していて、どこに相談していいのかわからない時があるので。もし現在でそういう窓口があるのなら、私は存じ上げないので、すみませんがもう少し広く周知していただきたいです。

4. 社会福祉法人（4件）

意見内容
高齢者施設との認識は地域に浸透しているが、健常者からするとかわりが薄いので、地域との関りを築くうえで健常者の方たちへのアプローチが難しい。
今年の9月から白岡市にお世話になっております。地域における公益的な取り組みはさいたま市で主に行っております。今後は白岡市でも展開できるよう法人全体で頑張ってまいります。引き続きよろしくお願いいたします。
小学校の授業の見学会。
介護の資格を取れる場所が白岡にあった方がよいと思います。

①市民アンケート

白岡市地域福祉についてのアンケート

～ 御協力をお願い ～

市では、『白岡市第2期地域福祉計画』に基づき、地域福祉の総合的な推進を進めており、地域で交え合いながら安心して暮らすことができてくるまちづくりを進めています。

このたび、計画の見直しにあたり、市民の皆様の実生活や地域福祉への意識などを把握するため、アンケート調査を実施いたします。

御多用の折、誠に恐縮ですが、市の福祉政策を推進するための重要な調査となりますので、御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年12月

白岡市長 藤井 栄一郎

回答方法は2つあります。どちらかを選んで回答してください。

必ずあて名のご本人がお答えください。

①調査票に記入して回答

調査票の記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて投かんしてください。
住所・氏名はお書きにならないで結構です。

②インターネットでの回答

右のQRコードを読み取るか、下記のURLにアクセスして回答してください。
調査票を返送する必要はありません。

【URL】<https://enquete.cc/q/shiraokafukushi-1>



アンケートの回答は、**令和6年12月27日（金）まで**にお願いします。

※ この調査にあたっては、18歳以上の市民の方から2,000名を無作為に選出いたしました。御回答いただきましたアンケートは、当市の地域福祉計画策定のほかに、白岡市社会福祉協議会にて策定する地域福祉活動計画の資料として活用いたします。
また、集計結果を公表いたしますのであらかじめ御了承ください。

～ 問い合わせ先 ～

白岡市健康福祉部福祉課 電話 0480-92-1111（内線 564）

記入にあたって

- (1) 最初から1問ずつ、該当する全部の質問にお答えください。
- (2) 質問の内容に従い、あてはまる番号に○をつけてください。
- (3) 各質問において「その他」を選ばれた場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。
- (4) お答えになりたくない質問は、無理にお答えくださる必要はありません。

①あなたのことについてうかがいます。

問1 性別は。[1つに○]

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他

問2 年齢は。[1つに○]

- 1. 18～29歳
- 2. 30～39歳
- 3. 40～49歳
- 4. 50～59歳
- 5. 60～69歳
- 6. 70～79歳
- 7. 80歳以上

問3 お住まいの地区はどちらですか。[1つに○]

- 1. 篠津小学校区
- 2. 青森小学校区
- 3. 大山小学校区
- 4. 南小学校区
- 5. 西小学校区
- 6. 白岡東小学校区
- 7. わからない

問4 白岡市に住んでどれくらいになりますか。[1つに○]

- 1. 3年未満
- 2. 3年～10年未満
- 3. 10年～20年未満
- 4. 20年以上

問5 世帯の状況は。[1つに○]

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 3世代世帯（親・子・孫） |
| 2. 夫婦のみ世帯 | 5. 4世代世帯（親・子・孫・ひ孫） |
| 3. 2世代世帯（親と子） | 6. その他（ ） |

問6 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような人（あなた自身も含みます）はいますか。[あてはまるものすべてに○]

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 5. 病氣療養中の人 |
| 2. 幼児（1歳から就学前） | 6. ひきこもり※1、閉じこもり※2がちな人 |
| 3. 介護を必要とする人 | 7. 特にいない |
| 4. 障がいのある人 | |

※1 ひきこもり：仕事や学校、家庭外での交遊などの社会的参加を避け、半年以上家庭内にとどまっていること。

※2 閉じこもり：外出が週1回より少ない状態であること。

問7 市内でよく利用する公共施設はどちらですか。[あてはまるものすべてに○]

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 市役所 | 5. 中央公民館 |
| 2. 白岡市保健福祉総合センター（はびすしらおか） | 6. スポーツ施設 |
| 3. 白岡市生涯学習センター〔こもれびの森〕 | 7. 公園 |
| 4. コミュニティセンター | 8. 特に利用していない |

②地域とのつながりについてうかがいます。

問8 自分から近所の人にあいさつをしていますか。[どちらかに○]

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

問9 ご近所とお付き合いはいかがですか。[1つに○]

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 困りごとを話し合えるような付き合い | 3. あいさつする程度 |
| 2. 立ち話をする程度 | 4. ほとんど付き合いがない |

問10 「地域での支え合い、助け合い」といったとき、「地域」とはどの範囲をイメージしますか。[1つに○]

- | | |
|---------------|------------|
| 1. ご近所の範囲 | 4. 中学校区の範囲 |
| 2. 地区（行政区）の範囲 | 5. 市全体の範囲 |
| 3. 小学校区の範囲 | |

問11 地域のお祭りやイベントに参加していますか。[1つに○]

- | | |
|------------|------------------|
| 1. よく参加する | 3. あまり参加していない |
| 2. たまに参加する | 4. ほとんど参加したことがない |

問12 身近な地域で気になること、問題と感ずることがありますか。

[あてはまるものすべてに○]

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 祭りや行事の衰退 | 7. 災害など非常時の協力体制 |
| 2. 行政区の役員のなり手が不足 | 8. 地域に子ども、若者が少ない |
| 3. 地域のつながりが減少 | 9. 空き家・管理されていない土地の問題 |
| 4. 新旧住民の交流が少ない | 10. 特にない |
| 5. 交通など移動手段の問題 | 11. その他（ ） |
| 6. 防犯・治安・風紀の問題 | |

問13 近所や地域の人から手助けしてもらいたいことはありますか。

[あてはまるものすべてに○]

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 災害時等の安否確認の声かけ | 8. 病院や買い物などの送迎 |
| 2. 話し相手 | 9. 短時間の子ども預かりや送迎 |
| 3. 食料品や日用品等の買い物 | 10. 特にない |
| 4. ごみ出し | 11. その他（ ） |
| 5. 草むしりや庭の掃除 | |
| 6. 電球の交換など日常生活の手伝い | |
| 7. 家電製品の使い方の手助け | |

問14 ご近所に介護や病氣、子育てなどで困っているご家庭があったら、あなたが手助けできそうなことはありませんか。〔あてはまるものすべてに○〕

1. 災害時等の安否確認の声かけ	8. 病院や買い物などの送迎
2. 話し相手	9. 短時間の子どもの預かりや送迎
3. 食料品や日用品等の買い物	10. 特にない
4. ごみ出し	11. その他
5. 草むしりや庭の掃除	()
6. 電球の交換など日常生活の手伝い	
7. 家電製品の使い方の手助け	

問15 リフレッシュやリラックスできると感じると感じることはどのようなことですか。

〔あてはまるものすべてに○〕

1. 自宅で過ごすこと
2. 友人・知人の家で過ごすこと
3. カフェや飲食店で過ごすこと
4. ショッピング
5. 趣味の活動をする（図書館やコミュニティ施設等で過ごすこと）
6. 趣味の活動をする（公園やスポーツ施設等で過ごすこと）
7. 地域活動やボランティア活動に参加すること
8. 特にない
9. その他 ()

③ボランティア活動についてうかがいます。

問16 地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに参加していますか。〔1つに○〕

1. よく参加している	3. 参加したことがある
2. 参加している	4. 参加したことがない

問17 あなたが今お住まいの地域で、特に必要だと思うボランティア活動は何ですか。
〔あてはまるものすべてに○〕

1. 高齢者の手助け・見守り	8. 自然環境保護・リサイクル
2. 障がい者（児）の手助け・見守り	9. 趣味や生涯学習の手伝い
3. 子どもの手助けや子育て支援	10. スポーツやレクリエーションの手伝い
4. 健康づくりの手助け	11. 特にない
5. 地域の清掃・美化活動	12. その他
6. 災害時の安否確認・避難の手伝い	()
7. 交通安全・防犯活動	

問18 あなたができるボランティア活動はありますか。〔あてはまるものすべてに○〕

1. 高齢者の手助け・見守り	8. 自然環境保護・リサイクル
2. 障がい者（児）の手助け・見守り	9. 趣味や生涯学習の手伝い
3. 子どもの手助けや子育て支援	10. スポーツやレクリエーションの手伝い
4. 健康づくりの手助け	11. 特にない
5. 地域の清掃・美化活動	12. その他
6. 災害時の安否確認・避難の手伝い	()
7. 交通安全・防犯活動	

問19 白岡市でボランティア活動を活動していくためには、どのような取組が特に必要だと思いますか。〔3つ以内で○〕

1. 広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする
2. 子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる
3. 初めての人も参加しやすいきっかけづくりを行う
4. 具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う
5. ボランティア活動に関する相談体制を充実する
6. 活動の拠点となる場所を確保し整備する
7. 積極的に活動している団体等へ資金を援助する
8. 活動に対して、ある程度の報酬が得られるようにする
9. 活動のリーダーとなる人材を育成する
10. 特にない
11. その他 ()

④福祉に関する相談やサービスについてうかがいます。

問20 地域住民の立場で、福祉の相談やサポートを行う「民生委員・児童委員」を知っていますか。[1つに○]

1. 地区の委員の名前や顔、活動も知っている
2. 地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない
3. 地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている
4. 地区の委員の名前や顔も、活動も知らない
5. 民生委員・児童委員を知らない

問21 住民同士の支え合い、助け合い活動を行っている「白岡市社会福祉協議会」を知っていますか。[1つに○]

1. 活動も名前も知っている
2. 活動までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問22 白岡市では、「福祉の総合相談窓口」を開設しています。あなたは、「福祉の総合相談窓口」を知っていますか。[1つに○]

福祉の総合相談窓口：「どこに相談したらわからない」など、福祉に関する困りごとや気になることを気軽に相談できる窓口です。窓口、電話、訪問のほか、メールでの相談もできます。

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問23 あなたは、成年後見制度を知っていますか。[1つに○]

成年後見制度：認知症や障がい等で、判断力が十分でない人への法的な支援制度

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問24 あなたは、「保護司」を知っていますか。[1つに○]

保護司：犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、法務大臣から委嘱されます。

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問25 あなたは、「協力雇用主」を知っていますか。[1つに○]

協力雇用主：自立や社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした人等を雇用、または雇用しようとする民間の事業主です。

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問26 あなたは、「社会を明るくする運動」を知っていますか。[1つに○]

社会を明るくする運動：犯罪予防活動と立ち直り支援などにより、犯罪のない明るい社会をみんな目指す法務省の運動です。

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問27 あなたは、「福祉の店」を知っていますか。[1つに○]

福祉の店：市役所1階ロビーにある、障害福祉サービス事業所で製造された菓子類や創作品などを展示・販売するコーナーです。

1. 内容も名前も知っている
2. 内容までは知らないが、名前は聞いたことがある
3. 聞いたことがない

問28 市や社会福祉協議会でやっている ア)～ジ) のサービスや事業を知っていますか。
 [項目ごとに1つずつ○]

ア) しらかあ安心安全メール	1. 知っている	2. 知らない
イ) 集会所などで実施しているいきいきサロン	1. 知っている	2. 知らない
ウ) 市内の小中学校・高等学校における福祉教育	1. 知っている	2. 知らない
エ) ひとり暮らし高齢者などを対象とした配食サービス	1. 知っている	2. 知らない
オ) ボランティアの育成やコーディネートなどを行うボランティアセンターの活動	1. 知っている	2. 知らない
カ) 高齢者や障がい者の福祉サービスの利用や日常生活の金銭管理のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートネット)	1. 知っている	2. 知らない
キ) 支那社協(小中学校区単位)における活動	1. 知っている	2. 知らない
ク) 生活資金の一時貸し付けや交通費の支給などの生活困窮者等に対する事業	1. 知っている	2. 知らない
ケ) 災害時救援物資の提供や義援金の受付など日本赤十字社における活動	1. 知っている	2. 知らない
コ) 災害が起こった時に、自力で避難することが難しく、支援を必要とする方を掲載する名簿(避難行動要支援者名簿)	1. 知っている	2. 知らない
サ) 地域の方が困っている方のために掃除やゴミ捨てなどの簡単なお手伝いをするしらかあ地域生活支えあいサービス	1. 知っている	2. 知らない
シ) 車いす・介護ベッド・福祉車両の貸し出し	1. 知っている	2. 知らない

問29 福祉に関する情報を主にどこから得ていますか。[あてはまるものすべてに○]

1. 広報しらかあ	7. テレビ・ラジオ
2. 社協だより	8. 新聞・雑誌
3. 市の窓口や掲示物	9. インターネット・SNS
4. 回覧板	10. わからない
5. 友人・知人	11. その他
6. 民生委員・児童委員	()

問30 あなたは、生活上のこととて困ったことがあったとき、主にだれに(どこに)相談や手助けを頼みますか。[あてはまるものすべてに○]

1. 身近にいる家族	9. 民生委員・児童委員
2. 親せき	10. 社会福祉協議会
3. 近所の人	11. 福祉サービス職員
4. 友人・知人	12. 頼める人はいない
5. 職場の人	13. 誰にも頼りたくない
6. 市役所などの行政機関	14. その他
7. 警察	()
8. 病院・薬局	

⑤地域福祉に対する考え方についてうかがいます。

地域福祉とは

地域において人々が安心して暮らせるよう、住民、団体、企業、行政がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決等に取り組む考え方です。具体的には、法律等の制度に基づき提供される公的福祉サービスや住民・ボランティア団体などによる支え合いの取組などを相互に生かしながら、住民の福祉ニーズに添っていくものです。

問31 あなたは、上に書いてあるような意味での『地域福祉』という言葉を知っていましたか。[1つに○]

1. よく知っていた	3. 知らなかった
2. ある程度は知っていた	

問32 『地域福祉』を推進することが必要だと思いますか。[1つに○]

1. 必要だと思う	2. 必要だと思わない	3. わからない
-----------	-------------	----------

問33 『地域福祉』と聞いて、あなたの考え方に近いものはどれですか。〔1つに○〕

1. 地域福祉は、恵まれた人が困っている人に手を差し伸べることでよい

2. 地域福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきで援助しないほうがよい

3. 地域福祉は、親・きょうだいが互いに助け合うなど、家族で助け合うのがよい

4. 地域福祉は、行政（国や地方自治体）の責任において行うのがよい

5. 地域福祉は、行政と市民などがお互いに協力し支え合っていくのがよい

6. わからない

7. その他（ ）

問34 あなたから見て、白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。

〔1つに○〕

1. よくやっていると思う

2. どちらかといえばやっていると思う

3. あまりやっていないと思う

4. やってないと思う

問35 暮らしの中で、病氣や障がいのある人などに対する差別や偏見を感じることはありませんか。〔1つに○〕

1. 感じることもある

2. 感じたことはないが、あると思う

3. 特に感じない

問36 白岡市は住みよいまちだと感じますか。〔1つに○〕

1. とても住みよい

2. まあまあ住みよい

3. あまり住みよくない

4. 住みよくない

問37 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。

〔3つ以内で○〕

1. 地域での支え合いの仕組みやきかけをつくる

2. 身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する

3. 子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める

4. 誰もが外出しやすい環境をつくる

5. 地域の防災・防犯活動を充実する

6. 学習の機会を通じて福祉意識を高める

7. ボランティアの育成と活動を活発にする

8. 身近なところでの相談体制を充実する

9. 福祉サービスなどの情報提供を充実する

10. 在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する

11. 在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する

12. 福祉人材の育成と確保を進める

13. 高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する

14. 特にない

15. その他（ ）

◆自由意見

『地域福祉』について、あなたが思うことやまちづくりのアイデアなど
がありましたら、自由に記入してください。

御協力ありがとうございました。

②民生委員・児童委員

白岡市地域福祉についての
民生委員・児童委員アンケート
～ 御協力をお願い ～

日ごろより、白岡市の福祉行政に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

市では、『白岡市第2期地域福祉計画』に基づき、地域福祉の総合的な推進を進めており、地域で支え合いながら安心して暮らすことができるまちづくりを進めています。このたび、この計画の見直しにあたり、社会福祉に関する活動を行う方々の意見を反映するため、民生委員・児童委員の皆様にはアンケート調査を実施することにいたしました。

つきましては、御多用の折、誠に恐縮ですが、この調査の趣旨を御理解いただき、御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、調査は無記名であり、調査結果は統計的に処理するため、お答えくださった皆様が特定されることはありません。

令和6年12月

白岡市長 藤井 栄一郎

回答方法は2つあります。どちらかを選んで回答してください。

必ずあて名のご本人がお答えください。

①調査票に記入して回答	②インターネットでの回答
調査票の記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて投かんしてください。	右のQRコードを読み取るか、下記のURLにアクセスして回答してください。
住所・氏名はお書きにならないで結構です。	調査票を返送する必要はありません。
	【URL】 https://enquete.cc/q/shiraokafukukushi-m-2



アンケートの回答は、**令和6年12月27日（金）まで**にお願いいたします。

※ 御回答いただきましたアンケートは、当市の地域福祉計画策定のほかに、白岡市社会福祉協議会にて策定する地域福祉活動計画の資料として活用いたします。

また、集計結果を公表いたしますのであらかじめ御了承ください。

～ 問い合わせ先 ～
白岡市健康福祉部福祉課 電話 0480-92-1111（内線 564）

記入にあたって

- (1) 最初から1問ずつ、該当する全部の質問にお答えください。
- (2) 質問の内容に従い、あてはまる番号に○をつけてください。
- (3) 各質問において「その他」を選ばれた場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。
- (4) お答えになりにくい質問は、無理にお答えくださる必要はありません。

問1 担当している地域はどちらの小学校区ですか。【1つに○】

1. 篠津小学校区	5. 西小学校区
2. 青森小学校区	6. 白岡東小学校区
3. 大山小学校区	7. わからない
4. 南小学校区	

問2 民生委員の経験年数は。【1つに○】

1. 3年未満	4. 9～12年
2. 3～6年	5. 12年以上
3. 6～9年	

問3 地域で気になること、問題と感ずることがありますか。【あてはまるものすべてに○】

1. 祭りや行事の衰退	7. 災害など非常時の協力体制
2. 行政区の役員のなり手が不足	8. 地域に子ども、若者が少ない
3. 地域のつながりが減少	9. 特にない
4. 新旧住民の交流が減少	10. その他 ()
5. 交通など移動手段の問題	
6. 防犯・治安・風紀の問題	

問4 地域の中で、次のような、見守り等が必要な人や気にかかっている人（何らかの課題を抱えている人）はいらっしゃいますか。【あてはまるものすべてに○】

1. 高齢者のひとり暮らしの世帯	9. 生活困窮者
2. 高齢者のみの世帯	10. ひきこもりや閉じこもり
3. 寝たきりの人	11. 中高年の子どもの生活を支える高齢者の親の世帯（8050問題）
4. 認知症の人	12. いらない
5. 障がいのある人	13. わからない
6. 病氣療養中の人	14. その他 ()
7. 虐待の疑いがある家庭	
8. 金銭管理などで気がかりな人	

問5 近所や地域の人同士で手助けがあるといいと思うものはありますか。

〔あてはまるものすべてに○〕

1. 安否確認の声かけ	7. 家電製品の使い方の手助け
2. 話し相手	8. 病院や買い物などの送迎
3. 食料品や日用品等の買い物	9. 短時間の子どもの預かりや送迎
4. ごみ出し	10. 特にない
5. 草むしりや庭の掃除	11. その他
6. 電球の交換など日常生活の手伝い	()

問6 活動を行う上で、課題と感じることなどはありますか。〔あてはまるものすべてに○〕

1. 住民の理解が得られないために、訪問活動などが難しいことがある
2. 必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある
3. 関係機関や地域の団体等との連携や協力が必要だと思う
4. 協力しながら一緒に活動できる補助員が必要だと思う
5. 活動に負担や責任を感じることが多い
6. 特にない
7. その他 ()

問7 今後の見守り活動の上で、もっと連携を強化したいと思うところはどこですか。

〔3つ以内で○〕

1. 民生委員・児童委員	8. 医療機関
2. 行政区の役員	9. 警察・消防
3. 社会福祉協議会	10. 学校関係（PTA等を含む）
4. 地域包括支援センター	11. 市役所
5. 福祉事業者（介護、障がい等）	12. 特にない
6. 老人クラブ	13. その他
7. ボランティア	()

問8 普段、利用している情報サービスはありますか。〔あてはまるものすべてに○〕

1. メール	6. Instagram
2. LINE（ライン）	7. Facebook
3. X（エックス）	8. 利用していない
4. YouTube	9. その他
5. TikTok	()

問9 あなたから見て、白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。

〔1つに○〕

1. よくやっていると思う	3. あまりやっていないと思う
2. どちらかといえばやっていると思う	4. やっていないと思う

問10 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思えますか。

〔3つ以内で○〕

1. 地域での支え合いの仕組みやきっかけをつくる
2. 身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する
3. 子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める
4. 誰もが外出しやすい環境をつくる
5. 地域の防災・防犯活動を充実する
6. 学習の機会を通じて福祉意識を高める
7. ボランティアの育成と活動を活発にする
8. 身近なところでの相談体制を充実する
9. 福祉サービスなどの情報提供を充実する
10. 在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する
11. 在宅で暮らせない場合に入手できる施設を充実する
12. 福祉人材の育成と確保を進める
13. 高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する
14. 特にない
15. その他 ()

『地域福祉』についての意見、まちづくりのアイデア、活動で苦労していることなどがありましたら、自由に記入してください。

御協力ありがとうございました。

③ボランティア団体

白岡市地域福祉についての ボランティア団体アンケート ～ 御協力をお願い ～

日ごろより、白岡市の福祉行政に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

市では、『白岡市第2期地域福祉計画』に基づき、地域福祉の総合的な推進を進めており、地域で支え合いながら安心して暮らすことができるまちづくりを進めています。このたび、この計画の見直しにあたり、社会福祉に関する活動を行う方々の意見を反映するため、日ごろボランティア活動で活躍している皆様にアンケート調査を実施することにいたしました。

この調査にあたっては、白岡市ボランティア連絡会に登録いただいている団体をお願いしております。

御多用の折、誠に恐縮ですが、この調査の趣旨を御理解いただき、御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年12月

白岡市長 藤井 栄一郎

回答方法は2つあります。どちらかを選んで回答してください。

必ずあて名のご本人がお答えください。

①調査票に記入して回答	②インターネットでの回答
調査票の記入が終わりしましたら、同封の返信用封筒に入れて投かんしてください。	 右のQRコードを読み取るか、下記のURLにアクセスして回答してください。 調査票を返送する必要はありません。 【URL】 https://enquete.cc/q/shiraokafukushib-3

アンケートの回答は、**令和6年12月27日（金）までに**お願いします。

※ 御回答いただきましたアンケートは、当市の地域福祉計画策定のほかに、白岡市社会福祉協議会にて策定する地域福祉活動計画の資料として活用いたします。

また、集計結果を公表いたしますのであらかじめ御了承ください。

～ 問い合わせ先 ～
白岡市健康福祉部福祉課 電話 0480-92-1111（内線 564）

記入にあたって

- (1) 最初から1問ずつ、該当する全部の質問にお答えください。
- (2) 質問の内容に従い、あてはまる番号に○をつけてください。
- (3) 各質問において「その他」を選ばれた場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。

問1 団体名や活動内容をご記入ください。

団 体 名	
活 動 の 対 象	1. 高齢者等 3. 児童 2. 障がい者（児） 4. その他（ ） [簡単に結構です]
主な活動内容	

問2 ボランティア活動上の課題や問題点がありますか。[3つ以内で○]

1. 特にない 2. 活動内容の周知が難しい 3. 活動場所の確保が難しい 4. 活動に経費がかかる 5. 他の団体や関係機関と連携がとれない 6. 新しい会員が入ってこない 7. 会員が高齢化している 8. リーダーが不足している 9. ボランティア活動に対して、地域の理解が足りない 10. その他（ ）
--

問3 今後、活動内容を広げたい点や強化したい点などはありませんか。【どちらかに○】

1. ある 2. ない



【その内容をご記入ください。】

問4 白岡市でボランティア活動を活発にしていこうためには、どのような取組が特に必要だと思いますか。【3つ以内で○】

1. 広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする
2. 子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる
3. 初めての人も参加しやすいききかけづくりを行う
4. 具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う
5. ボランティア活動に関する相談体制を充実する
6. 活動の拠点となる場所を確保し整備する
7. 積極的に活動している団体等へ資金を援助する
8. 活動に対して、ある程度の報酬が得られるようにする
9. 活動のリーダーとなる人材を育成する
10. 特にない
11. その他（ ）

問5 白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。【1つに○】

1. よくやっていると思う 3. あまりやっていないと思う
2. どちらかといえばやっていると思う 4. やっていません

地域福祉とは

地域において人々が安心して暮らせるよう、住民、団体、企業、行政がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決等に取り組む考えです。具体的には、法律等の制度に基づき提供される公的福祉サービスや住民・ボランティア団体などによる支え合いの取組などを相互に生かしながら、住民の福祉ニーズに添っていくものです。

問6 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。【3つ以内で○】

1. 地域での支え合いの仕組みやききかけをつくる
2. 身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する
3. 子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める
4. 誰もが外出しやすい環境をつくる
5. 地域の防災・防犯活動を充実する
6. 学習の機会を通じて福祉意識を高める
7. ボランティアの育成と活動を活発にする
8. 身近なところでの相談体制を充実する
9. 福祉サービスなどの情報提供を充実する
10. 在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する
11. 在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する
12. 福祉人材の育成と確保を進める
13. 高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する
14. 特にない
15. その他（ ）

『地域福祉』についての意見、まちづくりのアイデア、活動で苦労していることなどがありましたら、自由に記入してください。

御協力ありがとうございました。

④社会福祉法人

白岡市地域福祉についての 社会福祉法人アンケート

～ 御協力をお願い ～

日ごろより、白岡市の福祉行政に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。
市では、『白岡市第2期地域福祉計画』に基づき、地域福祉の総合的な推進を進めており、地域で支え合いながら安心して暮らすことができるまちづくりを進めています。このたび、この計画の見直しにあたり、社会福祉に関する活動を行う方々の意見を反映するため、市内の社会福祉法人が運営する福祉サービス事業所を対象にアンケート調査を実施することにいたしました。

御多用の折、誠に恐縮ですが、この調査の趣旨を御理解いただき、御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年12月

白岡市長 藤井 栄一郎

回答方法は2つあります。どちらかを選んで回答してください。

必ずあて名のご本人がお答えください。

①調査票に記入して回答

調査票の記入が終わりましたら、
同封の返信用封筒に入れて
投かんしてください。

②インターネットでの回答

右のQRコードを読み取るか、
下記のURLにアクセスして
回答してください。

調査票を返送する必要はありません。

[URL] <https://enquete.cc/q/shiraokafukushi-s-4>



アンケートの回答は、**令和6年12月27日（金）まで**にお願いします。

※ 御回答いただきましたアンケートは、当市の地域福祉計画策定のほかに、白岡市社会福祉協議会にて策定する地域福祉活動計画の資料として活用いたします。

また、集計結果を公表いたしますのであらかじめ御了承ください。

～ 問い合わせ先 ～

白岡市健康福祉部福祉課 電話 0480-92-1111（内線 564）

記入にあたって

- (1) 最初から1問ずつ、該当する全部の質問にお答えください。
- (2) 質問の内容に従い、あてはまる番号に○をつけてください。
- (3) 各質問において「その他」を選ばれた場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。

問1 貴法人・事業所の概要についてご記入ください。

法人名 施設名や 事業所名等	
提供している 事業の概要	

問2 貴法人・貴事業所において、地域との連携（地域団体との連携や住民との交流など）はどうですか。[1つに○]

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 積極的に取り組んでいる | 3. あまり取り組んでいない |
| 2. 少し取り組んでいる | 4. わからない |

問3 もっと連携を取りたいと思う機関・団体などはありませんか。[3つ以内で○]

1. 行政区	10. 障がい者に関する福祉事業者
2. 民生委員・児童委員	11. 医療機関
3. 社会福祉協議会	12. 小・中学校
4. ボランティア団体	13. 市役所などの行政機関
5. 地域のサークル・団体	14. 警察
6. 老人クラブ	15. 特にない
7. シルバー人材センター	16. その他
8. 児童に関する福祉事業者	()
9. 高齢者に関する福祉事業者	

問4 貴法人・貴事業所における「地域における公益的な取組」について、「①現在、取り組んでいること」や「②今後、取り組みたいこと」がありましたら、ご記入ください。提案や課題についてもお考えがありましたらお願いします。

①現在、取り組んでいること〔どちらかに○〕

1. ある	2. ない
-------	-------

【内容、提案、課題等を自由にご記入ください。】

②今後、取り組みたいこと〔どちらかに○〕

1. ある	2. ない
-------	-------

【内容、提案、提議等を自由にご記入ください。】

問5 白岡市における地域の支え合い、助け合いはどう感じますか。[1つに○]

1. よくやっていると思う
2. どちらかといえばやっていると思う
3. あまりやっていないと思う
4. やってないと思う

3

地域福祉とは

地域において人々が安心して暮らせるよう、住民、団体、企業、行政がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決等に取り組む考え方で、具体的に、法・法律等の制度に基づき提供される公的福祉サービスや住民・ボランティア団体などによる支え合いの取組などを相互に生かしながら、住民の福祉ニーズにふさわしいものとする。

問6 白岡市で『地域福祉』を推進していくために重要なことは何だと思いますか。

[3つ以内で○]

1. 地域での支え合いの仕組みやきかけをつくる
2. 身近な地域におけるサロンなど、住民交流の場を充実する
3. 子どもから働く世代、高齢者など、幅広い世代の交流活動を進める
4. 誰もが外出しやすい環境をつくる
5. 地域の防災・防犯活動を充実する
6. 学習の機会を通じて福祉意識を高める
7. ボランティアの育成と活動を活発にする
8. 身近なところで相談体制を充実する
9. 福祉サービスなどの情報提供を充実する
10. 在宅で暮らし続けられる福祉サービスを充実する
11. 在宅で暮らせない場合に入所できる施設を充実する
12. 福祉人材の育成と確保を進める
13. 高齢や障がいなどで判断力に不安がある方への相談支援体制を充実する
14. 特になし
15. その他（

『地域福祉』についての意見、まちづくりのアイデア、活動で苦労していることなどがありませんたら、自由に記入してください。

御協力ありがとうございました。

- 4 -

白岡市第3期地域福祉計画に係るアンケート
調査報告書

令和7年3月

発 行 白岡市
編 集 白岡市健康福祉部福祉課
〒349-0292
埼玉県白岡市千駄野432番地
電話 0480-92-1111（代）
<https://www.city.shiraoka.lg.jp>